



京都薬科大学教育研究業績録

第 3 6 集

2 0 1 7

(2 0 1 7 年 1 月 ~ 12 月)

2 0 1 8

京都薬科大学教育研究業績録

第 36 集

2 0 1 7

(2017 年 1 月 ~ 12 月)

2 0 1 8

教員一覧表

2017年5月1日現在

	教授	准教授	講師	助教	助手
学長	後藤 直正			岩崎 宏樹	
副学長	赤路 健一			中嶋 聰一	
薬品製造学	山下 正行 (赤路 健一)	小島 直人 小林 数也		有光 健治	小西 敦子
薬品化学	松田 久司	中村 誠宏		扇田 隆司	内藤 行喜
生薬学	北出 達也	武上 茂彦	濱 進	大石 晃弘	
薬品分析学	安井 裕之	木村 寛之	西田健太朗	松本 崇宏	
代謝分析学	斎藤 博幸		長谷井友尋	林 直樹	
薬品物理化学	長澤 一樹			渡部 匡史	
衛生化学	渡辺 徹志			齊藤 洋平	
公衆衛生学	小田 真隆	高田 和幸		戸田 侑紀	
微生物・感染制御学	藤室 雅弘		石原 慶一	河下 映里	
細胞生物学	中山 祐治		天ヶ瀬紀久子	松本健次郎	
生化学	芦原 英司			鳥羽 裕恵	
病態生理学	秋葉 聰	小原 幸		鬼頭 宏彰	
病態生化学	加藤 伸一	藤井 正徳		丹羽 里実	
薬物治療学	中田 徹男			飯居 宏美	
臨床薬理学	大矢 進				
薬理学					
臨床腫瘍学	吉貴 達寛	中田 晋			
薬剤学	山本 昌	勝見 英正			
薬物動態学	榮田 敏之		伊藤由佳子	河渕 真治	
臨床薬学	西口 工司		辻本 雅之	峯垣 哲也	
臨床薬剤疫学	村木 優一				
健康科学		長澤 吉則	沼尾 成晴		
物理学	有本 收				
数学	上野 嘉夫	今井 千壽			
一般教育	鈴木 栄樹	桑形 広司			
	佐藤 育	坂本 尚志			
薬学教育研究センター	實川眞理子		開 章宏	吉村 典久	
	野崎亜紀子			高橋 由佳	
	細井 信造			松村千佳子	
臨床薬学教育研究センター					地寄 悠吾
	矢野 義孝	津島 美幸	中村 暢彦		
	橋詰 勉		今西 孝至		
	楠本 正明		本橋 秀之		
情報処理教育研究センター	藤原 洋一		河野 修治		
学生実習支援センター	(北出 達也)	木村 徹	石川 誠司		
図書館	(安井 裕之)			河野 享子	大谷 有佳
薬用植物園	(松田 久司)			平山恵津子	千原 佳子
放射性同位元素研究センター	(後藤 直正)	河嶋 秀和		高尾 郁子	徳山 友紀
バイオサイエンス研究センター	(山本 昌)	斎藤美知子	西川 哲		
創薬科学フロンティア研究センター	(赤路 健一)				
共同利用機器センター	(赤路 健一)	長谷川 功紀			
				月岡 淳子	前田 晋作
				服部 恭尚	照屋千香子

目 次

学 長	1
薬 品 製 造 学	2
薬 品 化 学	6
生 薬 学	10
薬 品 分 析 学	16
代 謝 分 析 学	19
薬 品 物 理 化 学	29
衛 生 化 学	33
公 衆 衛 生 学	36
微生物・感染制御学	41
細 胞 生 物 学	43
生 化 学	48
病 態 生 理 学	51
病 態 生 化 学	57
薬 物 治 療 学	60
臨 床 薬 理 学	64
薬 理 学	66
臨 床 肿 瘍 学	73
薬 劑 学	75
薬 物 動 態 学	85
臨 床 薬 学	90
臨 床 薬 劑 疫 学	94
健 康 科 学	102
物 理 学	105
数 学	106
一 般 教 育	107
薬学教育研究センター	110
臨床薬学教育研究センター	113
情報処理教育研究センター	120
学生実習支援センター	121
薬 用 植 物 園	123
放射性同位元素研究センター	126
バイオサイエンス研究センター	128
共同利用機器センター	129
補 遺	135

学長

論 文

- 1) Naoki Hayashi, Atsushi Yokotani, Masami Yamamoto, Mariko Kososhi, Mayu Morita, Chiaki Fukunishi, Nagisa Nishizawa, and Naomasa Gotoh: Extracellular signals of a human epithelial colorectal adenocarcinoma (Caco-2) cell line facilitate the penetration of *Pseudomonas aeruginosa* PAO1 strain through the mucin layer. *Front. Cell. Infect. Microbiol.* 7, 415 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 林直樹, 後藤直正: *Pseudomonas aeruginosa* injects type III effector ExoS into host cells through a retraction of type IV pili. 第 90 回日本細菌学会総会 (仙台) , 2017.3.
- 2) 小田真隆, 林直樹, 後藤直正: 腸管上皮細胞が綠膿菌によるムチン層透過を亢進するメカニズムの解析. 平成 29 年度第 37 回近畿腸管微生物研究会総会・研究発表会 (大阪) , 2017.6.
- 3) 横谷篤, 林直樹, 後藤直正、小田真隆: 緑膿菌によるムチン層透過に与えるサイトカインの影響. 第 29 回微生物シンポジウム (広島) , 2017.8.

論 文

- 1) Shinji Kobuchi, Megumi Matsuno, Momoko Kawamoto, Naoto Kojima, Yukako Ito, Masayuki Yamashita, Toshiyuki Sakaeda: A simple and rapid LC-MS/MS method for quantitation of luseogliflozin in rat plasma and its application to a PK study, *Bioanalysis*, **9** (2), 163-171 (2017) .
- 2) Hitomi Uchimoto, Miki Ikeda, Aoi Matsushita, Takashi Shigeta, Kenji Arimitsu, Hiroyuki Yasui, Tomoko Tsuji, Minoru Ozeki, Masayuki Yamashita, Kiyoharu Nishide, Ikuo Kawasaki: Development of new ligands for the recyclable catalytic asymmetric transfer hydrogenation in ionic liquid, *Heterocycles*, **94** (3), 465-483 (2017) .
- 3) Takuya Matsumoto, Naoto Kojima, Akinobu Akatsuka, Takao Yamori, Shingo Dan, Hiroki Iwasaki, Masayuki Yamashita: Convergent synthesis of stereoisomers of THF ring moiety of acetogenin thiophene analogue and their antiproliferative activities against human cancer cell lines, *Tetrahedron*, **73** (17), 2359-2366 (2017) .
- 4) Minoru Ozeki, Honoka Egawa, Toshiki Takano, Hideki Mizutani, Narumi Yasuda, Kenji Arimitsu, Tetsuya Kajimoto, Shinzo Hosoi, Hiroki Iwasaki, Naoto Kojima, Manabu Node, Masayuki Yamashita: Novel and practical asymmetric synthesis of $\beta^{2,3}$ -amino esters using asymmetric Michael addition of chiral amine, *Tetrahedron*, **73** (15), 2014-2021 (2017) .
- 5) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Naoto Kojima, Tomohiro Hasei, Masayuki Yamashita, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda: Antimutagenic activity of *ent*-kaurane diterpenoids from the aerial parts of *Isodon japonicus*, *Tetrahedron Lett.*, **58** (36), 3574-3578 (2017) .
- 6) Hitomi Uchimoto, Miki Ikeda, Saori Tanida, Kayo Ohhashi, Yoshiko Chihara, Takashi Shigeta, Kenji Arimitsu, Masayuki Yamashita, Kiyoharu Nishide, Ikuo Kawasaki: Green synthesis of (*R*) -terbutaline for recyclable catalytic asymmetric transfer hydrogenation in ionic liquids, *Chem. Pharm. Bull.*, **65** (4), 389-395 (2017) .
- 7) Keiko Ogawa, Seikou Nakamura, Yumiko Asada, Masayuki Yamashita, Hisashi Matsuda: Oxazonigelladine and dolabellane-type diterpene constituents from *Nigella damascena* seeds, *Tetrahedron*, **73** (50), 7054-7060 (2017) .

- 1) 松本卓也、小島直人、赤塚明宣、岡村睦美、旦 慎吾、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行: *N*-メチルピラゾールをスルホンアミドで結合したアセトゲニン誘導体の合成と生物活性評価, 第47回複素環化学討論会講演要旨集 142 (2017) .
- 2) 内本ひとみ、仁木亜弥、池田未来、松下 葵、繁田 堯、有光健治、安井裕之、小関 稔、山下正行、川崎郁勇: イオン液体を用いた触媒的不斉水素移動型還元反応における新規キラルリガンドの合成とその評価, 第43回反応と合成の進歩シンポジウム講演要旨集 69 (2017) .
- 3) 井上暁斗、岩崎宏樹、小畠久美、内田 量、小島直人、山下正行: アルキンをラジカル受容体とした新規2-トリフルオロメチルインドリン誘導体合成法の開発, 第43回反応と合成の進歩シンポジウム講演要旨集 189 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 上林将人、小川幸大、岡 壽崇、山下正行、有光健治、安井裕之、中西郁夫、松本謙一郎、安西和紀、小澤俊彦: Anti型から Gauche型への熱変換による高感度・多目的スピントラップ G-CYPMPO 合成. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 2) 平田優里、田中 徹、栗林英理、武知理菜子、安達未稀、北井佳奈子、岩井佑未南、山田裕平、山西涼菜、小島直人、岩崎宏樹、山下正行: 2-oxo-2*H*-pyran-3-carboxylate 体とアルケンの[2+2]光環化付加反応による 2-oxo-3-oxabicyclo[4.2.0]oct-4-ene-1-carboxylate 体の合成. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 3) 井上暁斗、岩崎宏樹、畠中彩花、謝 一成、小畠久美、小関 稔、小島直人、山下正行: アルキンをラジカル受容体とした新規 2-トリフルオロメチルインドリン誘導体合成法の開発. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 4) 山西光咲、小森沙織、簞 由布子、國立悠里、馬場ゆうみ、河野大貴、倉橋卓秀、本光由佳梨、山下正行、小島直人、岩崎宏樹、細井信造: ビナフチル型 CD 発色試薬による decahydro-4a-methyl-2-naphthalenol 類の誘導体化およびそれらのCDスペクトルの挙動について. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 5) 小島直人、崔 秀リ、松本卓也、岩崎宏樹、山下正行: アセトゲニンチオフェン誘導体の水溶性アナログの合成研究. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.

- 6) 松本卓也、小島直人、岩崎宏樹、山下正行: アセトグニン誘導体の複素環連結部位にメチレンアミンを導入することによる生物活性への影響. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 7) 松本卓也、小島直人、赤塚明宣、岡村睦美、旦 慎吾、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行: *N*-メチルピラゾールをスルホンアミドで連結させたアセトグニン誘導体の合成と活性評価. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.
- 8) 夏目若菜、岩崎宏樹、山中三佳、小島直人、山下正行: 酸化剤を用いない新規 isoquinoline *N*-oxide 合成法の開発. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.
- 9) 八野愛結美、中村亮博、堀江文及、小関 稔、繁田 堯、仁木亜弥、岩崎宏樹、小島直人、山下正行、川崎郁勇: 多置換 α,β -不飽和エステルの立体選択的合成法の開発. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫), 2017.10.
- 10) 松本卓也、小島直人、赤塚明宣、岡村睦美、旦 慎吾、矢守隆夫、岩崎宏樹、山下正行: *N*-メチルピラゾール環をスルホンアミドで連結したアセトグニン誘導体の合成と抗腫瘍活性評価. 第47回複素環化学討論会(高知), 2017.10.
- 11) 松本崇宏、中村誠宏、小島直人、長谷井友尋、山下正行、松田久司、渡辺徹志: テルペノイドに着目した抗遺伝毒性成分の探索研究. 第7回食品薬学シンポジウム(京都), 2017.10.
- 12) 松本崇宏、中村誠宏、小島直人、長谷井友尋、山下正行、松田久司、渡辺徹志: テルペノイドに着目した抗変異原性成分の探索研究. 日本環境変異原学会第46回大会(東京), 2017.11.
- 13) 内本ひとみ、仁木亜弥、池田未来、松下 葵、繁田 堯、有光健治、安井裕之、小関 稔、山下正行、川崎郁勇: イオン液体を用いた触媒的不斉水素移動型還元反応における新規キラルリガンドの合成とその評価. 第43回反応と合成の進歩シンポジウム(富山), 2017.11.
- 14) 井上暁斗、岩崎宏樹、小畠久美、内田 量、小島直人、山下正行: アルキンをラジカル受容体とした新規2-トリフルオロメチルインドリン誘導体合成法の開発. 第43回反応と合成の進歩シンポジウム(富山), 2017.11.

講演

- 1) 小島直人: バンレイシ科アセトゲニン類をシードとする新規抗腫瘍活性物質の創製研究 大阪大学大学院薬学研究科天然物化学分野セミナー(大阪), 2017.1.
- 2) 小島直人: バンレイシ科アセトゲニン類をモチーフとする新規抗腫瘍活性物質の創製研究 第6回関西バイオ創薬研究会(大阪), 2017.4.

その他

- 1) 松本卓也、小島直人、岩崎宏樹、山下正行、赤塚明宣、岡村睦美、旦 慎吾、矢守隆夫: アセトゲニンチオフェン誘導体のミトコンドリア複合体 I 阻害活性の評価: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 2017年度Annual Meeting(京都), 2017.9.
- 2) 小島直人、藤井真人、崔 秀り、松本卓也、岩崎宏樹、山下正行、赤塚明宣、岡村睦美、旦 慎吾、矢守隆夫: エチレングリコール単位を導入したアセトゲニンチオフェン誘導体の合成と活性評価: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 2017年度 Annual Meeting(京都), 2017.9.
- 3) 姫野恵利那、岩崎宏樹、田邊佑樹、小島直人、山下正行: 構造活性相關研究のためのヒガンバナアルカロイドをはじめとする天然物とその誘導体合成: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 2017年度Annual Meeting(京都), 2017.9.
- 4) 中田 普、小島直人: マウス脳腫瘍幹細胞を用いたアセトゲニン誘導体がん治療薬の開発: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 2017年 Annual Meeting(京都), 2017.9.
- 5) 小島直人: アセトゲニンチオフェン誘導体のミトコンドリア複合体 I 阻害活性の評価. 京都4大学連携研究事業 第7回4大学連携研究フォーラム (京都), 2017. 11.
- 6) 小島直人: 模擬授業 「医薬品が世に出るまで—有機化学者の視点から—」. 大阪府立大手前高校(京都), 2017.12.
- 7) 山下正行: 第190回応急手当普及員再講習(京都), 2017.12.

薬品化学

論文

- 1) Kazuya Kobayashi, Takaaki Mizuguchi, Yasunao Hattori, Naho Ohara, Ryunosuke Ninomiya, Mika Iida, Honami Ooe, Yukako Yamazaki, Minami Takata, Hirokazu Tamamura, Kenichi Akaji: Effects of Replacement and Addition of an Amino Acid Contained in a Cyclic Peptide Corresponding to a β -hairpin Loop Sequence of Human EGF Receptor, *J. Pept. Sci.* **23**, 581-586 (2017) .
- 2) Hiroyuki Konno, Takumi Onuma, Ikumi Nitani, Masaki Wakabayashi, Shigekazu Yano, Kenta Teruya, Kenichi Akaji: Synthesis and evaluation of phenylisoserine derivatives for the SARS-CoV 3CL protease inhibitor, *Bioorg. Med. Chem. Lett.* **27**, 2746-2751 (2017) .
- 3) Hitoshi Kimura, Shiho Mikawa, Chiharu Mizuguchi, Yuki Horie, Izumi Morita, Hiroyuki Oyama, Takashi Ohgita, Kazuchika Nishitsuji, Atsuko Takeuchi, Sissel Lund-Katz, Kenichi Akaji, Norihiro Kobayashi, Hiroyuki Saito: Immunochemical Approach for Monitoring of Structural Transition of ApoA-I upon HDL Formation Using Novel Monoclonal Antibodies, *Sci. Rep.* **7**, 2988 (2017) .

総説

- 1) Kenichi Akaji: Advances in the design of ligands interacting with 3CL protease of novel coronaviruses causing infectious respiratory syndrome, *Amino Acids, Pept. Proteins*, **42**, 228–279 (2018) .

プロシーディングス

- 1) Shiho Mikawa, Chiharu Mizuguchi, Izumi Morita, Hiroyuki Oyama, Teruhiko Baba, Akira Shigenaga, Toshinori Shimanouchi, Norihiro Kobayashi, Akira Otaka, Kenichi Akaji, Hiroyuki Saito: Effect of Heparin on Amyloid Fibril Formation of ApoA-I Fragment Peptides, *Peptide Science 2016*, 149-150 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 吉澤慎一郎、足尾真美、越野裕貴、山中優季、小林数也、服部恭尚、赤路健一: オクタヒドロイソクロメン骨格を基盤とする縮環型SARS 3CLプロテアーゼ阻害剤の合成. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 2) 大西康司、嶋本康広、小林数也、服部恭尚、照屋健太、赤路健一: デカヒドロイソキノリン骨格を基盤とす

る新規縮環構造型 SARS 3CL protease 阻害の設計と合成. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.

- 3) 城賀大輝、小林数也、服部恭尚、赤路健一: N-アミジノピペリジン型 BACE1 阻害剤の合成. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 4) 越野裕貴、吉澤慎一郎、足尾真美、山中優季、山本侑人、小林数也、服部恭尚、赤路健一: オクタヒドロイソクロメン骨格を有する SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤の合成研究. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）, 2017.10.
- 5) 原口知子、小林数也、赤路健一、安井裕之: コラーゲン分子の光酸化的クロスリンクに対するイミダゾールジペプチドの抑制効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）, 2017.10.
- 6) 関口遼、黒柳友子、小林由佳、小林数也、赤路健一、藤井信孝、大野浩章、大石真也: CXCR7 受容体選択性リガンドの構造活性相関研究. 第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム（名古屋）, 2017.10.
- 7) 小林数也、城賀大輝、谷口智奈美、田中美咲、木村蘭希、川崎友紀、服部恭尚、赤路健一: N-アミジノ含窒素環状骨格を基盤とする BACE1 阻害剤の探索研究. 第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム（富山）, 2017.11.
- 8) Kazuya Kobayashi, Takuya Otani, Saki Ijiri, Katsuyasu Ishizawa, Risa Izeki, Taishi Kitazima, Naoka Shindo, Kota Okawa, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji: Structure optimization of a peptide-based hydroxyethylamine-type BACE1 inhibitor, 第 54 回ペプチド討論会（大阪）, 2017.11.

講演等

- 1) Kenichi Akaji: Development of functional molecules based on peptide chemistry, 第 54 回ペプチド討論会（大阪）, 2017.11.

その他

- 1) 小林数也: 相互作用解析に基づくペプチド性及び低分子 BACE1 阻害剤の開発研究. 2017 年度（平成 29 年度）私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 2) 若林亮介、芦原英司、服部恭尚、長谷井友尋、小林数也、赤路健一: Wnt/β-catenin 経路阻害剤の探索. 2017 年度（平成 29 年度）私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting（京都）, 2017.9.

- 3) 大西康司、三谷勇人、小林数也、赤路健一、服部恭尚: デカヒドロイソキノリン型 SARS 3CL protease 阻害剤の設計と合成. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 4) 相馬琢人、亀田里紗子、小林数也、赤路健一、服部恭尚: *ent-iso-6-spectraline* の合成研究. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 5) 小林数也、城竇大輝、谷口智奈美、田中美咲、木村蘭希、赤路健一、服部恭尚: *N*-アミジノ含窒素環状骨格に基づく低分子 BACE1 阻害剤の開発研究. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 6) 大谷拓也、小林数也、赤路健一、服部恭尚: P1-P3 間に架橋構造を有するペプチド性 BACE1 阻害剤の開発研究. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 7) 三好美早紀、若林亮介、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、服部恭尚、石地真邑、萩原瑠美、細谷早希、嶋本康広、小林数也、赤路健一: ヒト肺がん細胞に対する新規 Wnt/β-catenin 経路阻害剤の効果. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 8) 磯村拳一、若林亮介、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、服部恭尚、嶋本康広、小林数也、赤路健一: 新規 Wnt/β-カテニン経路阻害剤は TGF-β 刺激による A549 ヒト非小細胞肺がん細胞株の遊走を抑制する. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 9) 横本美久、瀧本千穂、長谷井友尋、渡辺徹志、若林亮介、芦原英司、服部恭尚、嶋本康広、小林数也、赤路健一: がん幹細胞を特異的に駆逐する Wnt/β-catenin 経路阻害剤の探索. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 10) 長谷井友尋、川添智子、草野穂、中嶋由貴、井上枝里子、吉備万純、池田理紗、森川季美子、松本崇宏、渡辺徹志、服部恭尚、赤路健一、芦原英司: Wnt/β-catenin 経路阻害剤の細菌に対する遺伝毒性評価. 2017 年度(平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 11) 赤路健一: 大学院講演「重症呼吸器症候群の治療薬開発を目指したプロテアーゼ阻害剤の設計と構造最適

- 化」. 大阪大学理学研究科（大阪）, 2017.10.
- 12) 赤路健一: 集中講義「蛋白質機能調節分子の化学」. 大阪大学理学研究科（大阪）, 2017.10.
- 13) 小林数也: アカデミアという選択. 京都大学薬学部・薬学研究科 2017 年度就職セミナー（京都）, 2017.11.

生薬学

著書

- 1) 松田久司: 第18章 ベルベリン型アルカロイドの薬理作用. アルカロイドの科学—生物活性を生みだす物質の探索から創薬の実際まで—, 高山廣光編, pp. 347–361 (2017) .

論文

- 1) Tomoe Ohta, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Hiroyuki Shimakawa, Yuika Emi, Takahiro Matsumoto, Keiko Ogawa, Masashi Fukaya, Yoshimi Oda, and Hisashi Matsuda : Stimulators of acylated ghrelin secretion from *Moringa oleifera* leaves. *Phytochemistry Lett.*, **21**, 1–5 (2017) .
- 2) Kanidta Kaewkroek, Chatchai Wattanapiromsakul, Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura, Supinya Tewtrakul: Anti-inflammatory activity of compounds from *Kaempferia marginata* rhizomes. *Songklanakarin J. Sci. Technol.*, **39**, (1) 91–99 (2017) .
- 3) Kaori Ryu, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Masaaki Aihara, Masashi Fukaya, Junko Iwami, Yasunobu Asao, Masayuki Yoshikawa, Hisashi Matsuda: Triterpenes with anti-invasive activity from sclerotia of *Inonotus obliquus*. *Nat. Prod. Commun.*, **12**, 225–228 (2017) .
- 4) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Tomoe Ohta, Keiko Ogawa, Masashi Fukaya, Junko Tsukioka, Tomohiro Hasei, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda: Neolignan and megastigmane glucosides from the aerial parts of *Isodon japonicus* with cell protective effects on BaP-induced cytotoxicity. *Phytochemistry*, **137**, 101–108 (2017) .
- 5) Tomoe Ohta, Seikou Nakamura, Tomoko Matsumoto, Souichi Nakashima, Keiko Ogawa, Takahiro Matsumoto, Masashi Fukaya, Masayuki Yoshikawa, Hisashi Matsuda: Chemical structure of an acylated oleanane-type triterpene oligoglycoside and anti-inflammatory constituents from the flower buds of *Camellia sinensis*. *Nat. Prod. Commun.*, **12**, 1193–1196 (2017) .

- 6) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Naoto Kojima, Tomohiro Hasei, Masayuki Yamashita, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda: Antimutagenic activity of ent-kaurane diterpenoids from the aerial parts of *Isodon japonicus*. *Tetrahedron Lett.*, **58**, 3574–3578 (2017) .
- 7) Keiko Ogawa, Seikou Nakamura, Yumiko Asada, Masayuki Yamashita, Hisashi Matsuda: Oxazonigelladine and dolabellane-type diterpene constituents from *Nigella damascena* seeds. *Tetrahedron*, **73**, 7054–7060 (2017) .

プロシーディングス

- 1) 深谷匡, 中村誠宏, 松本朋子, 林雅子, 中川涼太, 中嶋聰一, 松田久司: 伝承薬物を素材とした硫黄原子を含む生体機能性成分の探索. 第7回食品薬学シンポジウム講演要旨集, pp.78–80 (2017) .
- 2) 矢野真実子, 中嶋聰一, 中村誠宏, 王巍程, 尾田好美, 松田久司: オオバゲツキツ葉部の新規機能性. 第7回食品薬学シンポジウム講演要旨集, pp. 143–145 (2017) .
- 3) 尾田好美, 中嶋聰一, 中村誠宏, 矢野真実子, 太田智絵, 松田久司: モリンガの機能性開拓研究—アシル化グレリンの分泌調節作用および神経細胞様分化促進作用—. 第7回食品薬学シンポジウム講演要旨集, pp.146–148 (2017) .
- 4) 小川慶子, 中村誠宏, 斎藤菜月, 野口大輔, 林田仁志, 中嶋聰一, 松田久司: キンポウゲ科植物クロタネソウ及びニオイクロタネソウの含有成分探索とその比較研究. 第7回食品薬学シンポジウム講演要旨集, pp.149–151 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 小川慶子, 中村誠宏, 中嶋聰一, 浅田裕美子, 斎藤菜月, 太田智絵, 深谷匡, 松田久司: クロタネソウ (*Nigella damascena*) 種子の機能性成分 oxazonigelladine 及び damasterpene I, II の構造決定について. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 2) 宮之脇翔太, 中村誠宏, 月岡淳子, 太田智絵, 中嶋聰一, 松田久司: 日本産アカネ *Rubia argyi* の主要アントラキノン類の定性・定量分析とその機能性評価. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 3) 米田太一, 中村誠宏, 太田智絵, 中嶋聰一, 矢野真実子, 小川慶子, 深谷匡, 松田久司: ワサビノキ (*Moringa oleifera*) 葉部の新規含有成分. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.

- 4) 門麻衣子, 中嶋聰一, 太田智絵, 尾田好美, 中村誠宏, 柏崎絵李, 米田太一, 鈴木杏子, 住田将也, 島田あつみ, 松田久司: オトメアゼナ成分の糖吸収および脂質吸収に関する酵素に対する阻害作用. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 5) 中田葵, 中村誠宏, 中嶋聰一, 笠香織, 山添晶子, 松本朋子, 太田智絵, 小川慶子, 深谷匡, 月岡淳子, 松田久司: ショウガ (*Zingiber officinale*) の主要成分 [6]-gingerol の絶対立体配置の確認およびその誘導体の抗炎症作用. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 6) 笠香織, 中村誠宏, 中嶋聰一, 中田葵, 山添晶子, 松本朋子, 太田智絵, 小川慶子, 深谷匡, 吉川雅之, 松田久司: 伝承薬物カバノアナタケ (*Inonotus obliquus*) 菌核成分およびその誘導体の生体機能. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 7) 太田綾子, 太田智絵, 中嶋聰一, 中村誠宏, 平井大策, 山岡加奈, 江見結花, 島川弘行, 野村奈未, 田中葵, 尾田好美, 松田久司: ワサビノキ含有シアン化合物のアシル化グレリン分泌促進作用. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 8) 深谷匡, 中村誠宏, 中嶋聰一, 松本朋子, 林雅子, 太田智絵, 小川慶子, 松田久司: コウホネ (*Nuphar japonicum*, 根茎) およびネムロコウホネ (*Nuphar pumilum*, 根茎) 含有アルカロイドの生体機能性. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 9) 矢野真実子, 中嶋聰一, 中村誠宏, 谷美有紀, 川端諒, 中矢友里香, 松田久司: カルバゾール型アルカロイドのPC12細胞分化促進作用. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 10) 田邊元三, 森川敏生, 福田梨沙, 福田友紀, 萬瀬貴昭, 二宮清文, 松本朋子, 眞野みのり, 松田久司, 村岡修: タイ天然薬物 *Melodorum fruticosum* 由来NO産生抑制活性Butenolide類の合成およびその活性評価. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 11) 藤澤紘希, 太田智絵, 中村誠宏, 松田久司, 日柴喜隆行, 加藤文博, 岡野裕貴, 田良島典子, 南川典昭, 伊藤早織, 渡部匡史, 藤室雅弘: ワイン発酵残渣由来化合物と核酸誘導体からの抗デングウィルス化合物の探索. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 12) 石丸華子, 太田智絵, 中村誠宏, 松田久司, 渡部匡史, 藤室雅弘: ワインの発酵残渣からの抗HSV化合物の単離と作用機序解析. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 13) 松本崇宏, 中村誠宏, 川添智子, 長谷井友尋, 松田久司, 渡辺徹志: ヒキオコシ (*Isodon japonicus*) 地上部からの抗変異原性成分の探索研究. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.

- 14) 野村奈未, 中嶋聰一, 中村誠宏, 江見結花, 島川弘行, 太田綾子, 田中葵, 太田智絵, 尾田好美, 松田久司: ワサビノキ葉部含有 niazirin のアシル化グレリン分泌促進作用. 第 34 回和漢医薬学会学術大会 (福岡), 2017. 8.
- 15) 小川慶子, 中村誠宏, 斎藤菜月, 石丸華子, 藤室雅弘, 中嶋聰一, 松田久司: クロタネソウ *Nigella damascena* 種子を素材とした抗ウイルス作用成分の探索研究. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 16) 宮之脇翔太, 中村誠宏, 月岡淳子, 松本朋子, 太田智絵, 中嶋聰一, 松田久司: アカネ科アカネおよびセイヨウアカネの主要アントラキノン類の定性・定量分析とそれらの生体機能性. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 17) 斎藤菜月, 小川慶子, 中村誠宏, 中嶋聰一, 松田久司: ニゲラ属植物ニオイクロタネソウおよびクロタネソウの含有成分探索とその比較研究. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 18) 米田太一, 中村誠宏, 太田智絵, 中嶋聰一, 吉川雅之, 松田久司: インド産中国種茶花 (チャ, *Camellia sinensis*, 花部) のアシル化トリテルペン配糖体成分. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 19) 尾田好美, 中嶋聰一, 中村誠宏, 矢野真実子, 近藤恵里奈, 柴田かおり, 中村結有, 久保田知沙, 松田久司: シコウカの含有成分の探索研究 一枝部について—. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 20) 深谷匡, 中村誠宏, 中川涼太, 中嶋聰一, 松田久司: 九条ねぎ (*Allium fistulosum* cv. *Kujou*) からの新規含硫黄化合物の探索. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 21) 笠香織, 中村誠宏, 松本朋子, 石見純子, 吉川雅之, 松田久司: ショウガ科植物 *Zingiber cassumunar* 根茎のフェニルブタノイドおよびその誘導体の一酸化窒素産生抑制作用. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 22) 森田萌子, 中嶋聰一, 中村誠宏, 鈴木杏子, 住田将也, 棚橋舞, 門麻衣子, 井上知紘, 松田久司: キンモクセイ (*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*) 花部のアルドース還元酵素阻害成分および糖化抑制成分. 日本生薬学会 第 64 回年会千葉 2017 (千葉), 2017. 9.
- 23) 深谷匡, 中村誠宏, 中嶋聰一, 松本朋子, 林雅子, 松田久司: コウホネ (*Nuphar japonicum*, 根茎) およびネムロコウホネ (*Nuphar pumilum*, 根茎) 含有アルカロイドの比較とそれらの一酸化窒素産生抑制作用. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫), 2017.10.

- 24) 藤野加奈恵, 王巍程, 中嶋聰一, 中村誠宏, 川本桃子, 栗木菜津美, 吉岡隆嗣, 堀江智章, 蔵本絢子, 松田久司: 大良姜成分からのメラニン生成抑制作用物質の開拓. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 25) 奥山優希, 尾田好美, 中嶋聰一, 中村誠宏, 太田智絵, 棚橋舞, 小堀栞奈, 森田萌子, 松田久司: オトメアゼナの AGEs 生成抑制作用成分. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 26) 金加愛美, 深谷匡, 中村誠宏, 中嶋聰一, 松田久司: 九条ねぎ (*Allium fistulosum* cv. *Kujou*) からの硫黄含有成分の探索. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 27) 井上知絃, 中嶋聰一, 中村誠宏, 森浦俊次, 鈴木杏子, 門麻衣子, 森田萌子, 松田久司: キンモクセイ花部のアルドースレダクターゼ阻害作用成分および糖化抑制作用成分. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 28) 中村結有, 尾田好美, 中嶋聰一, 近藤恵里奈, 柴田かおり, 久保田知沙, 中村誠宏, 松田久司: ヘンナ (*Lawsonia inermis*) の枝部含有成分の探索および部位による含有成分の比較. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 29) 深谷匡, 中村誠宏, 松本朋子, 林雅子, 中川涼太, 中嶋聰一, 松田久司: 伝承薬物を素材とした硫黄原子を含む生体機能性成分の探索. 第 7 回食品薬学シンポジウム (京都) , 2017.10.
- 30) 矢野真実子, 中嶋聰一, 中村誠宏, 王巍程, 尾田好美, 松田久司: オオバゲツキツ葉部の新規機能性. 第 7 回食品薬学シンポジウム (京都) , 2017.10.
- 31) 尾田好美, 中嶋聰一, 中村誠宏, 矢野真実子, 太田智絵, 松田久司: モリンガの機能性開拓研究—アシル化グレリンの分泌調節作用および神経細胞様分化促進作用—. 第 7 回食品薬学シンポジウム (京都) , 2017.10.
- 32) 小川慶子, 中村誠宏, 斎藤菜月, 野口大輔, 林田仁志, 中嶋聰一, 松田久司: キンポウゲ科植物クロタネソウ及びニオイクロタネソウの含有成分探索とその比較研究. 第 7 回食品薬学シンポジウム (京都) , 2017.10.

その他

- 1) 中村誠宏: 模擬授業 「薬と偶然の発見 ~薬は自然からの贈り物~」 京都府立洛北高校 (京都) , 2017. 6.

- 2) 杉山雄輝, 戸田侑紀, 高田和幸, 芦原英司, 中村誠宏, 山下正行, 長谷川功紀, 長谷井友尋: クマリン系化合物を基礎としたがん転移抑制薬の創製. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 3) 深谷匡, 中村誠宏, 松田久司: コウホネ (*Nuphar japonicum*, 根茎) および ネムロコウホネ (*Nuphar pumilum*, 根茎) 含有アルカロイドの生体機能性. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 4) 笠香織, 中村誠宏, 中嶋聰一, 石見純子, 浅尾恭伸, 粟飯原正明, 松田久司: 伝承薬物カバノアナタケ (*Inonotus obliquus*) 菌核含有トリテルペノイド機能. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 5) 小川慶子, 中村誠宏, 松田久司: クロタネソウ (*Nigella damascena*, 種子) を素材とした珍しい骨格を有する化合物の探索研究. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 6) 笠香織, 中村誠宏, 中嶋聰一, 松田久司: ショウガ主要成分 [6]-gingerol の絶対立体配置の確認および誘導体の抗炎症作用. 第7回 4大学連携研究フォーラム (京都) , 2017.11.
- 7) 松田久司: 評価者. 摂南大学 薬学共用試験 OSCE (大阪) , 2017.12.
- 8) 中村誠宏: 評価者. 摂南大学 薬学共用試験 OSCE (大阪) , 2017.12.

薬品分析学

論文

- 1) Atsuko Konishi, Shigehiko Takegami, Shoko Akatani, Rie Takemoto, and Tatsuya Kitade: Potentiometric and ^1H NMR spectroscopic studies of functional monomer influence on histamine-imprinted polymer-modified potentiometric sensor performance. *J. Anal. Bioanal. Tech.*, **8**, 1000378 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 武上茂彦、渡辺暉生、山田千草、金田浩明、吉田真子、小西敦子、北出達也: 多核 NMR を用いたイオン液体ナノ粒子形成に及ぼす界面活性剤の影響の検討. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017. 3.
- 2) 飯間莉紗、峯松奈央、田島栞、武上茂彦、小西敦子、北出達也: ^{19}F -NMR を用いた脂質ナノエマルションの温度応答性の検討. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017. 3.
- 3) 小西敦子、住吉綾、行方紗代、藤田利沙、武上茂彦、北出達也: 分子インプリントポリマーを感応素子としたヒスタミン電位検出型センサーの鋳型分子／機能性モノマー配合量の最適化と定量性能の検討. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017. 3.
- 4) 田島栞、峯松奈央、飯間莉紗、武上茂彦、小西敦子、北出達也: ^{19}F -NMR を用いた種々の脂質ナノエマルションの温度応答に対する中性脂質の影響の検討. 第 77 回分析化学討論会 (京都), 2017. 5.
- 5) 峰松奈央、田島栞、飯間莉紗、武上茂彦、小西敦子、北出達也: トリアラキジンナノエマルションに封入した ^{19}F -NMR プローブの緩和時間 T_1 と T_2 の温度依存性. 第 77 回分析化学討論会 (京都), 2017. 5.
- 6) Atsuko Konishi, Shoko Akatani, Rie Takemoto, Risa Fujita, Shigehiko Takegami, and Tatsuya Kitade: Potentiometric sensor based on molecularly imprinted polymer for determination of histamine. Euroanalysis 2017 (Stockholm, Sweden), 2017. 8.
- 7) Shigehiko Takegami, Kisho Watanabe, Chigusa Yamada, Hiroaki Kaneda, Mako Yoshida, Atsuko Konishi and Tatsuya Kitade: ^1H , ^{19}F and ^{31}P NMR spectroscopic studies on the formation of ionic liquid submicron

- particles prepared by different surfactants. Euroanalysis 2017 (Stockholm, Sweden) , 2017. 8.
- 8) 亀澤未央、樋口慧、武上茂彦、小西敦子、北出達也: 親水性脂肪族系イオン液体ナノ粒子の調製と多核 NMR 解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
 - 9) 国府茉里子、武上茂彦、小西敦子、北出達也: フッ素含有化合物を結合させたグルタチオンを母体とする ^{19}F -MRI プローブの合成と評価. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
 - 10) 傑元恵璃奈、四宮雅人、武上茂彦、小西敦子、北出達也: 粒子表面において物質認識能を有するポリジアセチレンリポソーム型イクオリン発光デバイスの開発に関する基礎的研究. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- その他**
- 1) 武上茂彦: リポソームを用いた電気化学発光の信号增幅戦略 — ドイツ・レーゲンスブルク大学での研究—. 第 8 回 KPU シンポジウム (京都) , 2017. 5.
 - 2) 武上茂彦: 薬物乱用防止に係る大学等関係者セミナー (大学等関係者連絡協議会) (参加) (京都) , 2017. 7.
 - 3) 北出達也、武上茂彦、小西敦子: 体験実習「発光現象を体験しよう！」. 京都薬科大学オープンキャンパス (京都) , 2017. 8.
 - 4) 武上茂彦: 分野別模擬授業 (薬学系) . 「薬物検出や病気診断のためのナノテクノロジー」. 大阪府立 北千里高等学校 (大阪) , 2017. 9.
 - 5) 武上茂彦: 50 期生 2 年次 大学模擬講義 (薬学) . 「薬物検出や病気診断のためのナノテクノロジー」. 大阪府立 千里高等学校 (大阪) , 2017. 10.
 - 6) 武上茂彦: 薬物乱用防止教室 小学 3 年生対象「おくすりを使う時・のむ時の注意」. 京都市立安朱小学校 (京都) , 2017. 10.
 - 7) 武上茂彦: 薬物乱用防止教室 小学 6 年生対象「カフェインについて学ぼう」. 京都市立安朱小学校 (京都) , 2017. 10.
 - 8) 武上茂彦: 京都市, 山科区薬物乱用防止指導員協議会主催 薬物乱用防止街頭啓発 (参加) (京都) , 2017. 11.

- 9) 武上茂彦、小西敦子、北出達也: 硫化水素計測を目的とした銅-サイクレン錯体の $^1\text{H-NMR}$ 研究.
第 7 回 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017. 11.

代謝分析学

著 書

- 1) Hiroyuki Yasui and Yutaka Yoshikawa: Chapter 16. Frontier of development for metallodrugs on the basis of metallomic pharmacology and medicinal inorganic chemistry, *Metallomics-Recent Analytical Techniques and Applications-*, edited by Yasumitu Ogra and Takafumi Hirata, 341-364, Springer Japan KK (2017).
- 2) 安井裕之:1章 序論, 2章 酸と塩基, 6章 分配平衡, 13章 分子間相互作用解析法. コンパス 分析化学 改訂第2版, 安井裕之、兎川忠靖 編, pp. 1-54, 107-114, 259-268, 南江堂 (2017).
- 3) 木村寛之、有光健治: 臨床放射薬学 薬学領域における放射化学の理論と実践, 河嶋秀和、木村寛之 編著, 京都廣川書店 (2017).

論 文

- 1) Azusa Nishino, Hiroyuki Yasui, and Takashi Maoka: Reaction and scavenging mechanism of β -carotene and zeaxanthin with reactive oxygen species. *J. Oleo Sci.*, **66**, 77-84 (2017) .
- 2) Tanja Koleša-Dobravc, Keiichi Maejima, Yutaka Yoshikawa, Anton Meden, Hiroyuki Yasui, and Franc Perdih: Vanadium and zinc complexes of 5-cyanopicolinate and pyrazine derivatives: synthesis, structural elucidation and *in vitro* insulin-mimetic activity study. *New J. Chem.*, **41**, 735-746 (2017) .
- 3) Yuki Naito, Yutaka Yoshikawa, Michiko Shintani, Shingo Kamoshida, Naemi Kajiwara, and Hiroyuki Yasui: Anti-hyperglycemic effect of long-term bis (hinokitiolato) zinc complex ($[Zn(hkt)_2]$) ingestion on insulin resistance and pancreatic islet cells protection in type 2 diabetic KK-A^y mice. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 318-326 (2017) .
- 4) Hiroyuki Kimura, Hirokazu Matsuda, Yu Ogawa, Hiroyuki Fujimoto, Kentaro Toyoda, Naotaka Fujita, Kenji Arimitsu, Keita Hamamatsu, Yusuke Yagi, Masahiro Ono, Nobuya Inagaki, and Hideo Saji: Development of ^{111}In -labeled exendin (9-39) derivatives for single-photon emission computed tomography imaging of insulinoma. *Bioorg. Med. Chem.*, **25**, 1406-1412 (2017) .
- 5) Masayuki Munekane, Masashi Ueda, Shinji Motomura, Shinichiro Kamino, Hiromitsu Haba, Yutaka Yoshikawa, Hiroyuki Yasui, and Shuichi Enomoto: Investigation of biodistribution and speciation changes of orally administered dual radiolabeled complex, bis (5-chloro-7-[^{131}I]iodo-8-quinolinolato) [^{65}Zn]zinc. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 510-515 (2017) .

- 6) Hitomi Uchimoto, Miki Ikeda, Saori Tanida, Kayo Ohhashi, Yoshiko Chihara, Takashi Shigeta, Kenji Arimitsu, Masayuki Yamashita, Kiyoharu Nishide, and Ikuo Kawasaki: Green synthesis of (*R*) -terbutaline for recyclable catalytic asymmetric transfer hydrogenation in ionic liquids. *Chem. Pharm. Bull.*, **65**, 389-395 (2017) .
- 7) Zhenyu Gao, Yusuke Nakanishi, Shoko Noda, Haruka Omachi, Hisanori Shinohara, Hiroyuki Kimura, and Yukio Nagasaki: Development of Gd₃N@C₈₀ encapsulated redox nanoparticles for high-performance magnetic resonance imaging. *J. Biomater. Sci. Polym. Ed.*, **28**, 1036-1050 (2017) .
- 8) Yoshika Kurokawa, Hideko Sone, Tin-Tin Win-Shwe, Yang Zeng, Hiroyuki Kimura, Yosuke Koyama, Yusuke Yagi, Yasuto Matsui, Masashi Yamazaki, and Seishiro Hirano: Aggregation is a critical cause of poor transfer into the brain tissue of intravenously administered cationic PAMAM dendrimer nanoparticles. *Int. J. Nanomedicine*, **12**, 3967-3975 (2017) .
- 9) Minoru Ozeki, Honoka Egawa, Toshiki Takano, Hideki Mizutani, Narumi Yasuda, Kenji Arimitsu, Tetsuya Kajimoto, Shinzo Hosoi, Hiroki Iwasaki, Naoto Kojima, Manabu Node, and Masayuki Yamashita: Novel and practical asymmetric synthesis of β^{2,3}-amino esters using asymmetric Michael addition of chiral amine. *Tetrahedron*, **73**, 2014-2021 (2017) .
- 10) Hitomi Uchimoto, Miki Ikeda, Aoi Matsushita, Takashi Shigeta, Kenji Arimitsu, Hiroyuki Yasui, Tomoko Tsuji, Minoru Ozeki, Masayuki Yamashita, Kiyoharu Nishide, and Ikuo Kawasaki: Development of new ligands for the recyclable catalytic asymmetric transfer hydrogenation in ionic liquid. *Heterocycles*, **94**, 465-483 (2017) .
- 11) Chitho P. Feliciano, Koji Tsuboi, Kenshi Suzuki, Hiroyuki Kimura, and Yukio Nagasaki: Long-term bioavailability of redox nanoparticles effectively reduces organ dysfunctions and death in whole-body irradiated mice. *Biomaterials*, **129**, 68-82 (2017) .
- 12) Hiroyuki Kimura, Haruka Okuda, Masumi Ishiguro, Kenji Arimitsu, Akira Makino, Ryuichi Nishii, Anna Miyazaki, Yusuke Yagi, Hiroyuki Watanabe, Ikuo Kawasaki, Masahiro Ono, and Hideo Saji: ¹⁸F-Labeled pyrido[3,4-*d*]pyrimidine as an effective probe for imaging of L858R mutant epidermal growth factor receptor. *ACS Med. Chem. Lett.*, **8**, 418-422 (2017) .
- 13) Yukio Nagasaki, Yutaro Mizukoshi, Zhenyu Gao, Chitho P. Feliciano, Kyungho Chang, Hiroshi Sekiyama, and Hiroyuki Kimura: Development of a local anesthetic lidocaine-loaded redox-active injectable gel for postoperative pain management. *Acta Biomater.*, **57**, 127-135 (2017) .

- 14) Ryota Saito, Moe Tamura, Saya Kawano, Yutaka Yoshikawa, Akihiro Kato, Kaname Sasaki, and Hiroyuki Yasui: Synthesis and biological evaluation of 4-hydroxy-5-oxo-2,5-dihydro-1*H*-pyrrole-3-carboxamides and their zinc (II) complexes as candidate antidiabetic agents. *New J. Chem.*, **41**, 5572-5581 (2017) .
- 15) 河渕真治、藤田章洋、伊藤由佳子、栗原晶子、中村 任、安井裕之、相引眞幸、栄田敏之：敗血症患者におけるアジスロマイシン持続投与後の体内動態および基礎的検討. *TDM 研究*, **34**, 119-125 (2017) .
- 16) Hiroyuki Kimura, Naotaka Fujita, Kaori Kanbe, Hirokazu Matsuda, Hiroyuki Watanabe, Kenji Arimitsu, Hiroyuki Fujimoto, Keita Hamamatsu, Yusuke Yagi, Masahiro Ono, Nobuya Inagaki, and Hideo Saji: Synthesis and biological evaluation of an ¹¹¹In-labeled exendin-4 derivative as a single-photon emission computed tomography probe for imaging pancreatic β -cells. *Bioorg. Med. Chem.*, **25**, 5772-5778 (2017) .
- 17) Daiko Matsuoka, Hiroyuki Watanabe, Yoichi Shimizu, Hiroyuki Kimura, Masahiro Ono, and Hideo Saji: Synthesis and evaluation of a novel near-infrared fluorescent probe based on succinimidyl-Cys-C (O)-Glu that targets prostate-specific membrane antigen for optical imaging. *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, **27**, 4876-4880 (2017) .
- 18) Yuki Naito, Yutaka Yoshikawa, Katsuhiko Yoshizawa, Akiko Takenouchi, and Hiroyuki Yasui: Beneficial effect of bis (hinokitiolato) Zn complex on high-fat diet-induced lipid accumulation in mouse liver and kidney. *In vivo*, **31**, 1145-1151 (2017) .
- 19) Akira Ishii, Goro Katsuura, Hirotaka Imamaki, Hiroyuki Kimura, Keita P. Mori, Takashige Kuwabara, Masato Kasahara, Hideki Yokoi, Kousaku Ohinata, Tomoko Kawanishi, Junichi Tsuchida, Yuji Nakamoto, Kazuwa Nakao, Motoko Yanagita, Masashi Mukoyama, and Kiyoshi Mori: Obesity-promoting and anti-thermogenic effects of neutrophil gelatinase-associated lipocalin in mice. *Sci. Rep.*, **7**, E15501 (2017) .
- 20) Takeshi Yamada, Hiroyuki Kimura, Kenji Arimitsu, Tetsuya Kajimoto, Takashi Kikuchi, and Reiko Tanaka: Absolute configuration of eight cephalimysins isolated from the marine-derived *Aspergillus fumigatus*. *Chemistry Select*, **2**, 10936-10940 (2017) .
- 21) Takayuki Nishiguchi, Yutaka Yoshikawa, and Hiroyuki Yasui: Anti-diabetic effect of organo-chalcogen (sulfur and selenium) zinc complexes with hydroxy-pyrone derivatives on leptin-deficient type 2 diabetes model ob/ob mice. *Int. J. Mol. Sci.*, **18**, E2647 (2017) .

特許

- 1) ①特許公開番号:特開 2017-31078 ②公開日:2017 年 2 月 9 日 ③発明の名称:血糖降下作用を持つセレン含有新規亜鉛(II)有機錯体 ④出願人:安井裕之 ⑤発明者:西口貴之、吉川 豊、安井裕之

学会発表等

学会発表

- 1) Kazuaki Tsukada, Kazuyuki Hashimoto, Tetsuya Sato, Masato Asai, Atsushi Toyoshima, Yasuki Nagai, Toru Tanimori, Shinya Sonoda, Shigeto Kabuki, Hiroyuki Kimura, Atsushi Takada, Tetsuya Mizumoto, and Taketo Hayakawa: Production of technetium isotopes for compton camera imagimg. The 62nd Annual Radiobioassay & Radiochemical Measurements Conference (Hawaii, USA) , 2017.2.
- 2) 藤田直尚、藤本裕之、浜松圭太、村上隆亮、木村寛之、豊田健太郎、佐治英郎、稻垣暢也：インジウム標識 Exendin プローブを用いた膵 β 細胞量定量に対する高血糖の影響の検討. 第 31 回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (横浜) , 2017.2.
- 3) 藤田直尚、藤本裕之、浜松圭太、村上隆亮、木村寛之、豊田健太郎、佐治英郎、稻垣暢也：GLP-1 受容体を標的とした、放射性同位元素標識プローブによる膵島量定量の試み. 第 44 回 日本膵・膵島移植研究会 (京都) , 2017.3.
- 4) Tsutomu Nakamura, Minoru Takahashi, Riho Niigata, Kazuhiko Yamashita, Manabu Kume, Midori Hirai, and Hiroyuki Yasui: Changes in blood concentrations of trace metals during the first cycle of CDDP-based chemotherapy. American Society for Clinical Pharmacology and Therapeutics 2017 Annual Meeting (Washington, USA) , 2017.3.
- 5) 古川武典、木村寛之、有光健治、戸田力也、徳田安則、河嶋秀和、瀧 真清、佐治英郎、安井裕之:NESTA 反応を用いた 18F 標識アミノ酸導入法の開発. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 6) 内藤行喜、吉川 豊、新谷路子、鴨志田伸吾、梶原苗美、安井裕之：亜鉛ヒノキチオール錯体のインスリン抵抗性改善効果に関する作用機構解明. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 7) 上林将人、小川幸大、岡 壽崇、山下正行、有光健治、安井裕之、中西郁夫、松本謙一郎、安西和紀、小澤俊彦:Anti 型から Gauche 型への熱変換による高感度・多目的スピントラップ G-CYPMPO 合成. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 8) 有光健治、木村寛之、佐治英郎、安井裕之：放射性標識ストレプトゾトシン誘導体の合成研究. 日

- 本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 9) 桶谷 亮、木村寛之、有光健治、宮本佳美、河嶋秀和、藤本裕之、渡邊裕之、小野正博、稻垣暢也、佐治英郎、安井裕之：移植臍島量の定量評価を目的とした分子イメージング法の開発. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 10) 西田なつき、木村寛之、有光健治、桶谷 亮、宮本佳美、河嶋秀和、藤本裕之、渡邊裕之、小野正博、稻垣暢也、佐治英郎、安井裕之：インシリノーマの局在診断を目指した PET 分子イメージングプローブの開発研究. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 11) 青木貴浩、三輪剛志、内藤行喜、吉川 豊、安井裕之：インスリン分泌不全 GK ラットを用いた亜鉛錯体の抗糖尿病作用の評価—硫黄を配位原子を持つ高活性錯体による検討—. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 12) 二木珠希、平内孝典、中川結稀、内藤行喜、安井裕之：銅および亜鉛を含有する多核金属錯体の B16/BL6 細胞への殺細胞活性および抗腫瘍効果. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 13) 北村卓巳、出井小百合、杉浦友映、降旗正和、安井裕之：新規血圧降下剤 Amlodipine-proxyl の抗酸化活性評価および降圧作用の PK-PD 解析. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 14) 吉川 豊、宮 菜美華、梶原苗美、安井裕之：糖尿病モデル動物の運動療法による身体負荷がバイオメタルと同位体比に及ぼす影響—メタロミクス研究による新知見—. 日本薬学会第 137 年会 (宮城) , 2017.3.
- 15) Hiroyuki Kimura, Yusuke Yagi, Kenji Arimitsu, Kazuya Maeda, Shinya Kagawa, Masahiro Ono, Hiroyuki Kusuhara, Yuichi Sugiyama, and Hideo Saji: Synthesis and evaluation of [¹⁸F]PTV-F1 as a tracer for hepatic organic anion transporting polypeptide. 22nd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences (Dresden, Germany) , 2017.5.
- 16) Naotaka Fujita, Hiroyuki Fujimoto, Keita Hamamatsu, Takaaki Murakami, Hiroyuki Kimura, Kentaro Toyoda, Hideo Saji, and Nobuya Inagaki: Indium-labeled Exendin probe enables to quantify beta cell mass non-invasively with SPECT imaging. The 9th Annual Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes (Nagoya) , 2017.5.
- 17) 市原敬司、西野 梓、鷹羽武史、栗木 隆、安井裕之、眞岡孝至、二瓶秀子、川本和久：パプリカキサントフィルの経口摂取が持久運動時の呼吸に与える影響—ヒト二重盲検ランダム化試験—. 第 71 回日本栄養・食糧学会大会 (沖縄) , 2017.5.

- 18) Naotaka Fujita, Hiroyuki Fujimoto, Keita Hamamatsu, Takaaki Murakami, Hiroyuki Kimura, Kentaro Toyoda, Hideo Saji, and Nobuya Inagaki: Hyperglycemia itself does not hamper quantification of beta cell mass with Indium-labeled Exendin probe. 77th scientific sessions of American Diabetes Association (San Diego, USA) , 2017.6.
- 19) 宗兼将之、上田真史、本村信治、神野伸一郎、羽場宏光、吉川 豊、安井裕之、榎本秀一：*In vivo* analysis of biodistribution and speciation changes of dual radiolabeled complex, bis (5-chloro-7-[^{125/131}I]iodo-8-quinolinolato) [⁶⁵Zn]zinc. 第 27 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム (東京) , 2017.6.
- 20) 糸井亜弥、濱谷早紀、門田真理子、安井裕之、吉川 豊：The accumulation effect of lead and changes of the biometal in the body with exercise -Evaluation of between the exercise and lead intake-. 第 27 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム (東京) , 2017.6.
- 21) 藤野友理子、高田和幸、河西翔平、國府谷彩香、石原慶一、戸田侑紀、安井裕之、芦原英司：マウス脳内でのアミロイド β タンパク質の蓄積と微量元素量の変動に関する解析. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 22) Yuichi Hatsukawa, Kazuaki Tsukada, Kazuyuki Hashimoto, Tetsuya Sato, Masato Asai, Atsushi Toyoshima, Yasuki Nagai, Toru Tanimori, Shinya Sonoda, Shigeto Kabuki, Hiroyuki Kimura, Atsushi Takada, Tetsuya Mizumoto, Taketo Hayakawa, and Seiya Takaki: Production of technetium isotope for Electron Tracking Compton Camera (ETCC) imaging. 5th International Nuclear Chemistry Congress (Gothenburg, Sweden) , 2017.8-9.
- 23) 木村寛之、河嶋秀和、有光健治、屋木祐亮、川崎保弘、平野圭市、表 正宏、安井裕之：放射性医薬品に関する薬学生の意識調査とデモ実習への取り組み. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (愛知) , 2017.9.
- 24) 高尾郁子、木村 徹、千原佳子、木村寛之、有光健治、内藤行喜、河野享子、大谷有佳、平山恵津子、徳山友紀、安井裕之、北出達也：実験実習における能動的学修推進への取り組み—分析化学実習に導入した「ピアレビューによる実技確認（検定）」の効果について—. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (愛知) , 2017.9.
- 25) 宗兼将之、上田真史、本村信治、神野伸一郎、羽場宏光、吉川 豊、安井裕之、榎本秀一：二重標識クリオキノール-亜鉛錯体の生体内挙動と生体内化学形態変化の解析. 第 15 回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (石川) , 2017.9.
- 26) 初川雄一、塚田和明、橋本和幸、佐藤哲也、浅井雅人、豊嶋厚史、永井泰樹、谷森 達、園田信也、株木重人、木村寛之、高田淳史、水本哲也、早川岳人、高木聖也：コンプトンカメラ (ETCC) 摂

- 像用テクネチウム同位体製造研究. 2017 日本放射化学会年会・第 61 回放射化学討論会 (茨城) , 2017.9.
- 27) 古川武典、木村寛之、有光健治、戸田力也、河嶋秀和、安井裕之、佐治英郎、瀧 真清 : NEXTA 反応を用いた ¹⁸F 標識アミノ酸導入法の開発と PET プローブへの応用. 第 17 回 放射性医薬品・画像診断薬研究会／第 1 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会 (京都) , 2017.9.
- 28) Naotaka Fujita, Hiroyuki Fujimoto, Keita Hamamatsu, Takaaki Murakami, Hiroyuki Kimura, Kentaro Toyoda, Hideo Saji, and Nobuya Inagaki: Beta cell mass can be non-invasively quantified on a rodent model with Indium-labeled Exendin probe by single-photon emission computed tomography. 2017 International Congress of Diabetes and Metabolism (Seoul, South Korea) , 2017.9.
- 29) 吉川 豊、内藤行喜、安井裕之:糖尿病治療を目指したバイオメタルによるメタロミクス研究. メタルバイオサイエンス研究会 2017 (岡山) , 2017.10.
- 30) 西口貴之、吉川 豊、安井裕之:2 型糖尿病モデル ob/ob マウスにおける有機カルコゲン亜鉛錯体の臓器移行性と肝臓および膵臓の組織学的影響の評価. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 31) 内藤榛香、和田奈穂子、宮 菜美華、浦谷あすか、糸井亜弥、安井裕之、吉川 豊:高果糖食負荷インスリン抵抗性モデルラットに対する運動の効果—耐糖能改善効果と生体内微量元素の変動に及ぼす影響—. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 32) 梶木香里、安井裕之:第一遷移系列の金属イオン及び金属錯体による ACE 阻害活性と DPP-4 阻害活性の評価. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 33) 林 梨沙、増田 亮、能勢 博、田口晃弘、林 良雄、小出隆規、安井裕之:コラーゲン様 3 重らせんペプチド結合型白金錯体の体内動態解析と腹膜播種担がんマウスにおける抗腫瘍効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 34) 二宮麻帆、新垣あやね、安井裕之、吉川 豊:卵巣摘出マウスに対するマグネシウム投与と運動による骨強度への効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 35) 宮崎真未、西尾茉奈美、安井裕之、吉川 豊:糖質制限食を高たんぱく質食で補った際の生体への影響—植物性たんぱく質と動物性たんぱく質の違いから—. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 36) 山元裕章、内藤行喜、安井裕之:インスリンシグナル伝達系における亜鉛イオン及び亜鉛錯体に

- による Akt リン酸化促進作用. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 37) 原口知子、小林数也、赤路健一、安井裕之：コラーゲン分子の光酸化的クロスリンクに対するイミダゾールジペプチドの抑制効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (兵庫) , 2017.10.
- 38) Yuya Araki, Kazuyuki Takata, Yuki Toda, Shohei Kawanishi, Eriko Kuroda, Hiroyuki Yasui, and Eishi Ashihara : Detection of reactive oxygen species from amyloid- β and its oligomers for the elucidation of pathophysiology of Alzheimer's disease. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (京都), 2017.10.
- 39) 有光健治、木村寛之、石黒真澄、高瀬里紗、辰巳莉菜、繁田 堯、川崎郁勇、佐治英郎、安井裕之：含フッ素置換基を有する pyridopyrimidine 誘導体の変異型 EGFR-TK 阻害活性に関する構造活性相関研究. 第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム (愛知) , 2017.10.
- 40) 屋木祐亮、木村寛之、前田和哉、有光健治、安井裕之、杉山雄一、佐治英郎：有機アニオントランスポーター (OATPs) を標的とした PET イメージングプローブの開発 : [^{18}F]pitavastatin の合成と評価. 第 35 回メディシナルケミストリーシンポジウム (愛知) , 2017.10.
- 41) 内本ひとみ、仁木亜弥、池田未来、松下 葵、繁田 堯、有光健治、安井裕之、小関 稔、山下正行、川崎郁勇：イオン液体を用いた触媒的不斉水素移動型還元反応における新規キラルリガンドの合成とその評価. 第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム (富山) , 2017.11.
- 42) 屋木祐亮、木村寛之、大根田訓之、有光健治、安井裕之、佐治英郎：共振空洞型マイクロ波反応装置を用いた PET 用有機アニオントランスポーターイメージングプローブの合成. 第 40 回フッ素化学討論会 (鳥取) , 2017.11.
- 43) 有光健治、木村寛之、屋木祐亮、安井裕之：放射性フッ素標識ストレプトゾトシン誘導体の合成研究. 第 40 回フッ素化学討論会 (鳥取) , 2017.11.
- 44) 木村寛之、古川武典、有光健治、戸田力也、河嶋秀和、安井裕之、佐治英郎、瀧 真清 : NEXTA 反応を用いた ^{18}F -ペプチド標識法の開発と PET プローブへの応用. 第 40 回フッ素化学討論会 (鳥取) , 2017.11.
- 45) 新垣あやね、小野寺 章、安井裕之、吉川 豊：骨粗鬆症モデルマウスにおけるマグネシウム、銅、亜鉛摂取による骨代謝への影響. 第 5 回メタロミクス研究フォーラム (京都) , 2017.11.
- 46) 西口貴之、吉川 豊、安井裕之：レプチン欠損 2 型糖尿病モデル ob/ob マウスに対する有機カルコゲン亜鉛錯体の抗糖尿病効果. 第 5 回メタロミクス研究フォーラム (京都) , 2017.11.

- 47) 宮 菜美華、和田奈穂子、内藤榛香、浦谷あすか、糸井亜弥、吉川 豊、安井裕之：運動の高果糖食負荷インスリン抵抗性モデルラットに対する影響—耐糖能改善効果と生体内微量元素の変動—. 第5回メタロミクス研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 48) 内藤行喜、吉川 豊、義澤克彦、竹之内明子、安井裕之：高脂肪食摂取マウスの肝臓および腎臓における脂肪蓄積に対する亜鉛ヒノキチオール錯体の改善効果. 第5回メタロミクス研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 49) 藤井正徳、松尾未希、石原慶一、安井裕之、大矢 進：アトピー性皮膚炎モデルマウス皮膚におけるリンおよび鉄の増加. 第5回メタロミクス研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 50) 村田佳子、吉田雅美、渡辺健宏、難波康祐、佐治英郎、木村寛之：植物性食物内の鉄キレート化合物による小腸の鉄吸収効果. 2017年度生命科学系学会合同年次大会（兵庫）, 2017.12.

シンポジウム

- 1) 安井裕之：カロテノイドと酸化ストレス. 一般財団法人生産開発科学研究所 創立70周年記念シンポジウム（京都）, 2017.1.
- 2) 安井裕之：アカデミアにおける研究公正への取り組み. 日本薬学会第137年会（宮城）, 2017.3.
- 3) 安井裕之：バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいたメタロミクス研究—代表的疾患と生体金属との関わりから探る新しい薬物療法を目指して—. 日本薬学会第137年会（宮城）, 2017.3.
- 4) 安井裕之：生体中の鉄同位体を計測する分析法の確立とそこから見えてくるモノ—病態診断と薬物治療効果への適用—. 第5回メタロミクス研究フォーラム（京都）, 2017.11.

講演等

- 1) 安井裕之：亜鉛錯体による糖尿病治療へのチャレンジ. 第14回亜鉛栄養治療研究会（大阪）, 2017.2.
- 2) 木村寛之：ユニットカップリング型分子プローブの開発戦略. 創薬科学フロンティア研究センタ一講演会（京都）, 2017.2.
- 3) 安井裕之：亜鉛錯体による糖尿病治療へのチャレンジ. 錯体化学若手の会 第56回近畿支部勉強会（大阪）, 2017.6.

- 4) 安井裕之：生命と元素～健やかな人生を送るために～. 夢ナビライブ 2017 (大阪) , 2017.6.
- 5) 安井裕之：カロテノイドエマルションは皮膚と肝臓をまもります. グリコ ニュートリション セミナー (東京) , 2017.7.
- 6) 木村寛之：PSMA を標的とした前立腺がん用イメージングプローブの開発と臨床応用. 第 13 回 小動物インビボイメージング研究会 (大阪) , 2017.7.
- 7) 木村寛之：¹⁸F-PET プローブの迅速合成法の開発. JSPS 第 155 委員会主催講演会 平成 29 年度第 1 回 「フッ素と医療の研究最前線」 (群馬) , 2017.12.

薬品物理化学

著書

- 1) 斎藤博幸、濱 進: 第3章 製剤の性質 4. 界面化学, パートナー薬剤学 改訂第3版, 原島秀吉、伊藤智夫、寺田勝英編, pp.259-270, 南江堂 (2017) .
- 2) 濱 進、板倉祥子、小暮健太朗: 第 5 章 4 節 がん微小環境をターゲットとした DDS 技術開発, DDS 先端技術の製剤への応用開発, pp.283-291, 技術情報協会 (2017) .

論文

- 1) Keiichiro Okuhira, Takuji Shoda, Risa Omura, Nobumichi Ohoka, Takayuki Hattori, Norihito Shibata, Yosuke Demizu, Ryo Sugihara, Asato Ichino, Haruka Kawahara, Yukihiro Itoh, Minoru Ishikawa, Yuichi Hashimoto, Masaaki Kurihara, Susumu Itoh, Hiroyuki Saito, and Mikihiko Naito: Targeted Degradation of Proteins Localized in Subcellular Compartments by Hybrid Small Molecules. *Mol. Pharmacol.*, **91** (3), 159-166 (2017) .
- 2) Kateryna Vus, Mykhailo Girych, Valeriya Trusova, Galyna Gorbenko, Paavo Kinnunen, Chiharu Mizuguchi, and Hiroyuki Saito: Fluorescence study of the effect of the oxidized phospholipids on amyloid fibril formation by the apolipoprotein A-I N-terminal fragment. *Chem. Phys. Lett.*, **688**, 1-6 (2017) .
- 3) Hitoshi Kimura, Shiho Mikawa, Chiharu Mizuguchi, Yuki Horie, Izumi Morita, Hiroyuki Oyama, Takashi Ohgita, Kazuchika Nishitsuji, Atsuko Takeuchi, Sissel Lund-Katz, Kenichi Akaji, Norihiro Kobayashi, Hiroyuki Saito: Immunochemical Approach for Monitoring of Structural Transition of ApoA-I upon HDL Formation Using Novel Monoclonal Antibodies. *Scientific Report*, **7**, 2988 (2017) .
- 4) Yuki Takechi-Haraya, Kenzo Aki, Yumi Tohyama, Yuichi Harano, Toru Kawakami, Hiroyuki Saito, Emiko Okamura: Glycosaminoglycan Binding and Non-Endocytic Membrane Translocation of Cell-Permeable Octaarginine Monitored by Real-Time In-Cell NMR Spectroscopy. *Pharmaceuticals*, **10** (2), 42 (2017) .
- 5) Kanako Shiota, Susumu Hama, Toru Yoshitomi, Yukio Nagasaki, Kentaro Kogure: Prevention of UV-Induced Melanin Production by Accumulation of Redox Nanoparticles in the Epidermal Layer via Iontophoresis. *Biol Pharm Bull*, **40** (6), 941-944 (2017) .

- 6) Satoko Suzuki, Shoko Itakura, Ryo Matsui, Kayoko Nakayama, Takayuki Nishi, Akinori Nishimoto, Susumu Hama, Kentaro Kogure: Tumor Microenvironment-Sensitive Liposomes Penetrate Tumor Tissue via Attenuated Interaction of the Extracellular Matrix and Tumor Cells and Accompanying Actin Depolymerization. *Biomacromolecules*, **18** (2), 535-543 (2017).
- 7) Hyunkyoung Jung, Yuri Shimatani, Mahadi Hasan, Kohei Uno, Susumu Hama, Kentaro Kogure: Development of flexible nanocarriers for siRNA delivery into tumor tissue. *Int J Pharm*, **516** (1-2), 258-265 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 濱 進、中島采香、西 貴之、福澤健治、斎藤博幸、小暮健太朗: 薬剤耐性癌の克服を目指したトコフェロールコハク酸ナノベシクルの開発. 第 28 回ビタミン E 研究会 (東京), 2017.1.
- 2) 渋谷菜摘、亀崎ちひろ、中島愛美、石橋 博、濱 進、細井信造、山下栄次、小暮健太朗: OH 細胞傷害へのアスタキサンチン/トコトリエノールリポソームの抑制効果. 第 28 回ビタミン E 研究会 (東京), 2017.1.
- 3) 石川みすず、亀崎ちひろ、中島愛美、石橋 博、濱 進、細井信造、山下栄次、小暮健太朗: α -トコトリエノールとアスタキサンチンのリポソーム膜中における相乗効果の検討. 第 28 回ビタミン E 研究会 (東京), 2017.1.
- 4) 瀧井 亮、原矢佑樹、西辻和親、内村健治、加藤くみ子、重永 章、川上 徹、大高 章、北條裕信、坂下直実、斎藤博幸: アルギニンペプチドのグリコサミノグリカン糖鎖を介した細胞膜透過機構に関する物理化学的解析. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 5) 水口智晴、三河志穂、馬場照彦、奥平桂一郎、斎藤博幸: Iowa 変異型アポ A-I のアミロイド形成に及ぼす脂質組成の影響. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 6) 三河志穂、木村 仁、扇田隆司、森田いづみ、大山浩之、小林典裕、斎藤博幸: ApoA-I 構造特異抗体の開発に向けた抗体評価系の確立. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 7) 鄭 賢卿、島谷悠里、Mahadi HASAN、宇野晃平、濱 進、小暮健太朗: 柔軟構造によって腫瘍組織

- に浸透可能な siRNA キャリアーの開発. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 8) 三村美夕紀、大島康史、虎尾 祐、Mahadi Hasan、濱 進、田中 保、小暮健太朗: 微弱電流処理によって誘起されるユニークなエンドサイトーシス. 日本薬剤学会第 32 年会（埼玉）, 2017.5.
- 9) 水口智晴、三河志穂、扇田隆司、馬場照彦、島内寿徳、奥平桂一郎、斎藤博幸: 脂質膜組成による Iowa 変異型アポ A-I のアミロイド線維形成性の変化. 日本膜学会第 39 年会（東京）, 2017.5.
- 10) 平井将太、石川みすず、渋谷菜摘、濱 進、細井信造、高橋 侑、山下栄次、小暮健太朗: トコトリエノールとアスタキサンチンの相乗的な抗酸化活性向上における至適比率の検討. 日本ビタミン学会第 69 回大会（横浜）, 2017.6.
- 11) 虎尾 祐、三村美夕紀、大島康史、藤川昂樹、Mahadi Hasan、濱 進、田中 保、小暮健太朗: 微弱電流処理によるユニークなエンドサイトーシスの解析. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会（京都）, 2017.7.
- 12) 亀山泰和、内村健治、山下太郎、水口峰之、坂下直実、斎藤博幸、安東由喜雄、西辻和親: ATTR アミロイドーシスにおけるヘパラン硫酸多硫酸化ドメイン (S-ドメイン) の役割の解明. 第 5 回日本アミロイドーシス研究会学術集会（京都）, 2017.8.
- 13) 水口智晴、伊藤恵理子、中村光希、扇田隆司、馬場照彦、島内寿徳、奥平桂一郎、斎藤博幸: Iowa 変異型アポ A-I のアミロイド形成はホスファチジルセリンによって抑制される. 第 15 回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム（金沢）, 2017.9.
- 14) 板垣 渚、松井 諒、斎藤博幸、小暮健太朗、濱 進: 微弱低 pH 応答性薬物キャリアーの腫瘍内透過促進. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）, 2017.10.
- 15) 武知（原矢）佑樹、安岐健三、通山由美、原野雄一、川上徹、斎藤博幸、岡村恵美子: リアルタイム in-cell NMR によるオクタアルギニンペプチドの細胞膜透過機構. 第 40 回溶液化学シンポジウム（姫路）, 2017.10.
- 16) 古谷優樹、中村光希、三河志穂、扇田隆司、森田いずみ、大山浩之、小林典裕、斎藤博幸: アミロイド線維の高感度検出に向けた apoA-I 構造特異抗体の開発. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.

- 17) 水口智晴、伊藤恵理子、中村光希、扇田隆司、馬場照彦、島内寿徳、奥平桂一郎、斎藤博幸: Iowa 変異型アボ^o A-I はN末端フラグメントのアミロイド形成を促進する。第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 18) 瀧井 亮、田村悠樹、錦織花梨、岡田圭祐、扇田隆司、原矢佑樹、西辻和親、内村健治、加藤くみ子、長谷川功紀、赤路健一、坂下直実、斎藤博幸: アボ E のヘパリン結合ドメインに由来した両親媒性膜透過ペプチドの開発。第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 19) 小暮健太朗、大島康史、虎尾 祐、三村美夕紀、藤川昂樹、Mahadi Hasan、濱 進、福田達也、田良島典子、田中 保、南川典昭: 微弱電流処理による高分子医薬の細胞質送達と機能発現。第 39 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム（金沢）, 2017.10.
- 20) 水口智晴、伊藤恵理子、中村光希、扇田隆司、馬場照彦、重永 章、島内寿徳、奥平桂一郎、大高章、斎藤博幸: 脂質膜組成による Iowa 変異型アボ A-I の線維化制御メカニズムの解明。膜シンポジウム 2017（富山）, 2017.11.
- 21) 瀧井 亮、田村悠樹、錦織花梨、岡田圭祐、扇田隆司、原矢佑樹、西辻和親、内村健治、加藤くみ子、長谷川功紀、赤路健一、坂下直実、斎藤博幸: アボ E 糖鎖結合ドメインに基づく両親媒性膜透過ペプチドの設計。膜シンポジウム 2017（富山）, 2017.11.
- 22) 亀山泰和、内村健治、山下太郎、水口峰之、坂下直実、斎藤博幸、奥平桂一郎、安東由喜雄、西辻和親: ATTR アミロイドーシスにおけるヘパラン硫酸多硫酸化ドメインの役割の解明。膜シンポジウム 2017（富山）, 2017.11.
- 23) 水口智晴、伊藤恵理子、中村光希、扇田隆司、馬場照彦、島内寿徳、奥平桂一郎、斎藤博幸: Iowa 変異型アボ A-I のアミロイド線維形成に及ぼすホスファチジルセリンとコレステロールの影響。2017 年度生命科学系学会合同年次大会（神戸）, 2017.12.

その他

- 1) 扇田隆司、斎藤博幸: アミロイド構造を認識する新規 apoA-I 構造特異的抗体の開発。第 7 回 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 2) 斎藤博幸: 評価者。摂南大学 薬学共用試験 OSCE（大阪）, 2017.12.

衛生化学

論 文

- 1) Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Karin Miyamoto, Mizuka Imai, Ryoko Nakanishi, Kyoko Kobayashi, Akiko Hayashi, Kazuki Nagasawa: Bortezomib alters sour taste sensitivity in mice. *Toxicol. Rep.*, **4**, 172-180 (2017).
- 2) Akihiro Koike, Jyakusho Sou, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa: Inhibitory effect of divalent metal cations on zinc uptake via mouse Zrt-/Irt-like protein 8 (ZIP8). *Life Sci.*, **173**, 80-85 (2017).
- 3) Makiko Fujiwara, Kenshi Ohbori, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Yoshinobu Uozumi, Kazuki Nagasawa: Species difference in sensitivity of human and mouse P2X7 receptors to inhibitory effects of divalent metal cations. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 375-380 (2017).
- 4) Kenshi Ohbori, Makiko Fujiwara, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Yoshinobu Uozumi, Kazuki Nagasawa: Prophylactic oral administration of magnesium ameliorates dextran sulfate sodium-induced colitis in mice through a decrease of colonic accumulation of P2X7 receptor-expressing mast cells. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 1071-1077 (2017).
- 5) Kentaro Nishida, Misaki Kashiwagi, Shunsuke Shiba, Kiwamu Muroki, Akihiro Ohishi, Yusuke Doi, Hidenori Ando, Tatsuhiro Ishida, Kazuki Nagasawa: Liposomalization of oxaliplatin induces skin accumulation of it, but negligible skin toxicity. *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, **337**, 76-84 (2017).
- 6) Takahiro Furuta, Ayumi Mukai, Akihiro Ohishi, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa: Oxidative stress-induced increase of intracellular zinc in astrocytes decreases their functional expression of P2X7 receptors and engulfing activity. *Metalomics*, **9**, 1839-1851 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 山田 由紀江, 西田 健太朗, 吉井 真理, 大石 晃弘, 長澤 一樹: ラット有郭乳頭における prostatic acid phosphatase (PAP) 及び ecto-nucleotide pyrophosphatase/phosphodiesterase (ENPP) 2 の発現局在について.

日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017. 3.

- 2) 岩村 萌美, 大石 晃弘, 小林 恒子, 林 亜希子, 西田 健太朗, 長澤 一樹: Bortezomib はマウスの酸味感受性を可逆的に増大させる. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017. 3.
- 3) 牧野 愛美, 大石 晃弘, 林 亜希子, 小林 恒子, 西田 健太朗, 長澤 一樹: シスプラチン投与マウスにおける苦味感受性の変化. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017. 3.
- 4) 本田 梨紗, 大堀 健史, 藤原 麻紀子, 大石 晃弘, 西田 健太朗, 魚住 嘉伸, 長澤 一樹: Dextran sulfate sodium (DSS) 誘発炎症性腸疾患に対するマグネシウム投与の影響について. 日本薬学会第 137 年（仙台）, 2017. 3.
- 5) 小林 真実, 藤原 麻紀子, 大石 晃弘, 西田 健太朗, 長澤 一樹: 二価金属カチオンによる P2X7 受容体の活性化に対する阻害効果のヒト及びマウス間での比較. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017. 3.
- 6) 長澤 一樹: 亜鉛によるグリア細胞機能制御. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017. 3.
- 7) 神谷 育実, 牧野 愛美, 大石 晃弘, 西田 健太朗, 土井 祐輔, 安藤 英紀, 石田 竜弘, 長澤 一樹: Polyethylene glycol (PEG) 修飾リポソーム化 oxaliplatin 投与ラットにおける甘味感受性の変化に関する研究. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会（神戸）, 2017. 10.
- 8) 古田 能裕, 向井 あゆみ, 大石 晃弘, 西田 健太朗, 長澤 一樹: 酸化ストレス負荷により増加したアストロサイト細胞内遊離型亜鉛は P2X7 受容体の機能的発現低下を介してその貪食活性を低下させる. メタルバイオサイエンス研究会 2017 (岡山), 2017. 10.
- 9) 大堀 健史, 藤原 麻紀子, 大石 晃弘, 西田 健太朗, 魚住 嘉伸, 長澤 一樹: Dextran sulfate sodium (DSS) 誘発性炎症性腸疾患に対する magnesium 経口投与の予防効果. メタルバイオサイエンス研究会 2017 (岡山), 2017. 10.
- 10) 大石 晃弘, 大堀 健史, 藤原 麻紀子, 魚住 嘉伸, 西田 健太朗, 長澤 一樹: Dextran sulfate sodium (DSS) 誘発性炎症性腸疾患に対する magnesium 経口投与の予防効果. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017. 10.

その他

- 1) 長澤 一樹: 成果発表. 「亜鉛によるグリア細胞機能制御 Zinc-mediated regulation of glial cell function—気分障害発症機構の理解への展開—」 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療 ファルマコメタロミクスの確立 成果発表会（京都）, 2017. 5.
- 2) 大石 晃弘: 受講. 応急手当普及員（京都）, 2017. 7
- 3) 大石 晃弘: 参加. 新任教員 FD 合同研修プログラム A（京都）, 2017. 9
- 4) 石本 りさ, 大石 晃弘, 長澤 一樹: シスプラチニ投与マウスにおける苦味感受性の変化. 第 7 回 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017. 11.
- 5) 長澤 一樹: 評価者. 大阪薬科大学薬学部 薬学共用試験 OSCE（高槻）, 2017. 12.

公衆衛生学

著書

- 1) 渡辺徹志: 第8章 生活環境と健康, 考える衛生薬学第4版10刷, 平山晃久編, pp. 649-810, 廣川書店 (2017) .

論文

- 1) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Tomoe Ohta, Keiko Ogawa, Masashi Fukaya, Junko Tsukioka, Tomohiro Hasei, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda: Neolignan and megastigmane glucosides from the aerial parts of *Isodon japonicus* with cell protective effects on BaP-induced cytotoxicity, *Phytochemistry*, **137**, 101–108 (2017).
- 2) Takahiro Matsumoto, Taisuke Nishikawa, Ayano Furukawa, Saki Itano, Yuka Tamura, Tomohiro Hasei, Tetsushi Watanabe: Antimutagenic effects of polymethoxy flavonoids of *Citrus unshiu*, *Nat. Prod. Commun.*, **12**, 23–26 (2017).
- 3) Tomoe Ohta, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Hiroyuki Shimakawa, Yuika Emi, Takahiro Matsumoto, Keiko Ogawa, Masashi Fukaya, Yoshimi Oda, Hisashi Matsuda: Stimulators of acylated ghrelin secretion from *Moringa oleifera* leaves, *Phytochem. Lett.*, **21**, 1–5 (2017).
- 4) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Naoto Kojima, Tomohiro Hasei, Masayuki Yamashita, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda: Antimutagenic activity of *ent*-kaurane diterpenoids from the aerial parts of *Isodon japonicus*, *Tetrahedron Lett.*, **58**, 3574–3578 (2017) .
- 5) Takahiro Matsumoto, Kazuki Takahashi, Sumire Kanayama, Yuka Nakano, Hiromi Imai, Masumi Kibi, Daisuke Imahori, Tomohiro Hasei, Tetsushi Watanabe: Structures of antimutagenic constituents in the peels of *Citrus limon*, *J. Nat. Med.*, **71**, 735–744 (2017) .
- 6) Tomoe Ohta, Seikou Nakamura, Tomoko Matsumoto, Souichi Nakashima, Keiko Ogawa, Takahiro Matsumoto, Masashi Fukaya, Masayuki Yoshikawa, Hisashi Matsuda: Chemical structure of an acylated oleanane-type triterpene oligoglycoside and anti-inflammatory constituents from the flower buds of *Camellia sinensis*, *Nat. Prod. Commun.*, **12**, 1193–1196 (2017).

プロシーディング

- 1) 松本崇宏、中村誠宏、小島直人、長谷井友尋、山下正行、松田久司、渡辺徹志: テルペノイドに着目した抗遺伝毒性成分の探索研究. 第7回食品薬学シンポジウム講演要旨集, pp. 140-142 (2017) .

解説、報告書等

- 1) 松本崇宏: ミツバチ御用達のポプラ樹脂成分. ファルマシア, **53**, 1018 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 彦坂好美、長谷井友尋、川本 明佳、松崎 溫士、松本 崇宏、岩本 憲人、渡辺 徹志: 3,6-Dinitrobenzo[*e*]pyrene の *in vivo* における DNA 付加体形成. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 2) 松本崇宏、中村誠宏、川添智子、長谷井友尋、松田久司、渡辺徹志: ヒキオコシ (*Isodon japonicus*) 地上部からの抗変異原性成分の探索研究. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 3) 中野結華、松本崇宏、高橋一輝、金山董玲、吉備万純、井上枝里子、長谷井友尋、渡辺徹志: レモン (*Citrus limon*) 果皮からの抗変異原性成分の探索研究. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 4) 渡辺徹志: 大気粉塵の化学・生物学的成分による汚染とその生体影響. 第 44 回日本毒性学会学術年会 (横浜), 2017.7.
- 5) 松本崇宏、高橋一輝、中野結華、金山董玲、吉備万純、井上枝里子、長谷井友尋、渡辺徹志: レモン (*Citrus limon*) 果皮からの抗変異原性成分の探索研究. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー (仙台), 2017.9.
- 6) 今堀 大輔、松本 崇宏、小島 直人、住居 潤美、住田 大志、長谷井 友尋、山下 正行、渡辺 徹志: 高血糖状態における新規メイラード反応生成物の化学構造. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー (仙台), 2017.9.
- 7) Mohammad Shahriar Khan, Nami Furukawa, Yuuki Kubo, Yusuke Nakaoji, Yumi Kawase, Tomohiro Hasei, Takahiro Matsumoto, Yoshitaka Yano, Yuya Deguchi, Hiroaki Nagaoka, Makoto Miura, Yukio Nagasaka, Nobuyuki Yamagishi, Tetsushi Watanabe: Seasonal Fluctuation of the Concentrations of Endotoxin, Protein and Ionic Substances in Outdoor Air and their Effect on Asthmatic Patients. フォーラム 2017 衛生薬学・環境トキシコロジー (仙台), 2017.9.
- 8) 渡辺徹志、Khan Mohammad Shahriar、古川奈美、久保裕希、中大路友亮、河瀬裕美、長谷井友尋、松本 崇宏、出口 雄也、長岡 寛明、山岸 伸行: 西日本における大気中のタンパク質、エンドトキシン、イオン類の濃度の季節的変動と長距離輸送の影響. 第58回大気環境学会年会 (神戸), 2017.9.

- 9) 松本崇宏、中村誠宏、小島直人、長谷井友尋、山下正行、松田久司、渡辺徹志: テルペノイドに着目した抗遺伝毒性成分の探索研究. 第7回食品薬学シンポジウム (京都) , 2017. 10.
- 10) 阿知波香月、松本崇宏、今堀大輔、住居潤美、住田大志、村井 準、長谷井友尋、渡辺徹志: 生理学的条件下でのメイラード反応生成物の変異原性評価. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 11) 松崎温士、長谷井友尋、川本明佳、彦坂好美、松本崇宏、岩本憲人、渡辺徹志: 3,6-Dinitrobenzo[*e*]pyrene の*in vivo* におけるDNA 付加体形成. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 12) 石田朋子、植島由希子、児玉歩奈美、河瀬裕美、モハメド・シャリアカーン、山村由貴、世良暢之、後藤貴央、平川雅章、松本崇宏、長谷井友尋、渡辺徹志: 九州北部における大気中のタンパク、エンドトキシン等と喘息発作との関連性. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 13) 村井 準、松本崇宏、小島直人、今堀大輔、住居潤美、住田大志、阿知波香月、長谷井友尋、山下正行、渡辺徹志: 生理学的条件下でのメイラード反応生成物の単離および構造解析. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 14) 北川翔大、松本崇宏、金山薫玲、中野結華、吉備万純、今井宏美、長谷井友尋、渡辺徹志: レモン (*Citrus limon*) 果皮中の抗変異原性成分の化学構造. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 15) 児玉歩奈美、植島由希子、石田朋子、河瀬裕美、モハメド・シャリアカーン、三浦誠、長坂行雄、松本崇宏、長谷井友尋、渡辺徹志: 京都市における大気中のタンパク、エンドトキシン等と喘息発作の関連性. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 16) 植島由希子、石田朋子、児玉歩奈美、河瀬裕美、モハメド・シャリアカーン、出口雄也、長岡寛明、松本崇宏、長谷井友尋、渡辺徹志: 佐世保市における大気中のLPS、タンパク質、イオン濃度の季節変動. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 17) 松本 崇宏、中村 誠宏、小島 直人、長谷井 友尋、山下 正行、松田 久司、渡辺 徹志: テルペノイドに着目した抗変異原性成分の探索研究. 日本環境変異原学会第46回大会 (東京) , 2017. 11.
- 18) Tetsushi Watanabe: Air Pollution with Mutagens/Carcinogens and its Long-Range Transport. The 12th International Conference & 5th Asian Congress on Environmental Mutagens (Korea) , 2017. 11.

講演等

- 1) 松本崇宏: テルペノイドに着目した抗変異原性成分の探索研究. 衛生薬学・環境トキシコロジー 第4回 フォーラム 2017 若手研究者の会 (仙台) , 2017.8.
- 2) 渡辺徹志: 知っておきたいPM2.5・黄砂などのこと. 第23回京都薬科大学 公開講座 (京都) , 2017.10.
- 3) 渡辺徹志: 京都市における大気汚染と喘息発作との関係. 第7回 KPU-OHP 臨床医薬カンファレンス (京都) , 2017.11.

その他

- 1) 渡辺徹志、長谷井友尋、松本崇宏: 体験実習「今日の温度は快適？不快？測ってみよう、感覚温度！」. 京都薬科大学オープンキャンパス (京都) , 2017.8.
- 2) 杉山雄輝、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、中村誠宏、山下正行、長谷川功紀、長谷井友尋: クマリン系化合物を基礎としたがん転移抑制薬の創製. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 3) 若林亮介、芦原英司、服部恭尚、長谷井友尋、小林数也、赤路健一: Wnt/β-catenin 経路阻害剤の探索. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 4) 横本美久*、瀧本千穂*、長谷井友尋、渡辺徹志、若林亮介、芦原英司、服部恭尚、嶋本康弘、小林数也、赤路健一 (*: equal contribution to first author) : がん幹細胞を特異的に駆逐する Wnt/β-catenin 経路阻害剤の探索. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 5) 彦坂好美、長谷井友尋、川本明佳、松崎温士、松本崇宏、渡辺徹志、岩本憲人: 3,6-Dinitrobenzo[e]pyrene の *in vivo* DNA 付加体形成. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.
- 6) 長谷井友尋、川添智子、草野穂、中嶋由貴、井上枝里子、吉備万純、池田理紗、森川季美子、松本崇宏、渡辺徹志、服部恭尚、赤路健一、芦原英司: Wnt/β-catenin 経路阻害剤の細菌に対する遺伝毒性評価. 2017年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 (京都) , 2017.9.

- 7) 松本崇宏、長谷井友尋、渡辺徹志: レモン (*Citrus limon*) 果皮からの抗変異原性成分の探索研究 第7回4
大学連携研究フォーラム (京都), 2017.11.

微生物・感染制御学

論 文

- 1) Masataka Oda, Hisanori Domon, Mie Kurosawa, Toshihito Isono, Tomoki Maekawa, Masaya Yamaguchi, Shigetada Kawabata, and Yutaka Terao: *Streptococcus pyogenes* phospholipase A2 induces the expression of adhesion molecules on human umbilical vein endothelial cells and aorta of mice. *Front. Cell. Infect. Microbiol.* **7**, 300 (2017) .
- 2) Tomoya Murakami, Issei Saitoh, Masahiro Sato, Emi Inada, Miki, Soda, Masataka Oda, Hisanori Domon, Yoko Iwase, Tadashi Sawami, Kazunari Matsueda, Yutaka Terao, Hayato Ohshima, Hirofumi Noguchi, and Haruaki Hayasaki: Isolation and characterization of lymphoid enhancer factor-1-positive deciduous dental pulp stem-like cells after transfection with a *piggyBac* vector containing *LEF1* promoter-driven selection markers. *Arch. Oral Biol.* **81**, 110-120 (2017) .
- 3) Kosuke Nagai, Hisanori Domon, Masataka Oda, Tomoe Shirai, Tatsuya Ohsumi, Yutaka Terao, and Yoshiaki Arai: Antimicrobial activity of ethylene-vinyl acetate containing bioactive filler against oral bacteria. *Dent. Mater. J.* **36**: 784-790 (2017) .
- 4) Tomoki Maekawa, Pacharee Kulwattanaporn, Kavita B Hosur, Hisanori Domon, Masataka Oda, Yutaka Terao, Tomoki Maeda, and George Hajishengallis: Differential expression and roles of secreted frizzled-related protein 5 (Sfrp5) and the wingless homolog Wnt5a in periodontitis. *J. Dent. Res.* **96**: 571-577 (2017) .
- 5) Naoki Hayashi, Atsushi Yokotani, Masami Yamamoto, Mariko Kososhi, Mayu Morita, Chiaki Fukunishi, Nagisa Nishizawa, and Naomasa Gotoh: Extracellular signals of a human epithelial colorectal adenocarcinoma (Caco-2) cell line facilitate the penetration of *Pseudomonas aeruginosa* PAO1 strain through the mucin layer. *Front. Cell. Infect. Microbiol.* **7**, 415 (2017) .

総 説

- 1) Masaya Takehara, Teruhisa Takagishi, Soshi Seike, Masataka Oda, Yoshihiko Sakaguchi, Junzo Hisatsune, Sadayuki Ochi, Keiko Kobayashi, and Masahiro Nagahama: Cellular entry of *Clostridium perfringens* iota-toxin and *Clostridium botulinum* C2 toxin. *Toxins*. **9**, E247 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 林直樹: 緑膿菌 PAO1 株が培養上皮細胞を感知するメカニズムの解析. 第 51 回緑膿菌感染症研究会 (大分), 2017.2.
- 2) 林直樹: 緑膿菌トランスロケーションの解析 -10 年間の研究格闘歴-. 第 90 回日本細菌学会総会 (仙台), 2017.3.
- 3) 林直樹, 後藤直正: *Pseudomonas aeruginosa* injects type III effector ExoS into host cells through the retraction of type IV pili. 第 90 回日本細菌学会総会 (仙台) , 2017.3.
- 4) 小田真隆, 林直樹, 後藤直正: 腸管上皮細胞が緑膿菌によるムチン層透過を亢進するメカニズムの解析. 平成 29 年度第 37 回近畿腸管微生物研究会総会・研究発表会 (大阪) , 2017.6.
- 5) 西澤渚, 林直樹, 小田真隆: 多剤耐性緑膿菌感染マウスに対する機能性糖脂質の効果. 第 29 回微生物シンポジウム (広島) , 2017.8.
- 6) 横谷篤, 林直樹, 後藤直正、小田真隆: 緑膿菌によるムチン層透過に与えるサイトカインの影響. 第 29 回微生物シンポジウム (広島) , 2017.8.
- 7) 小田真隆: 機能性糖脂質によるマクロファージ細胞外捕獲網の発現誘導. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (京都) , 2017.10.

細胞生物学

論 文

- 1) Shigemi Zenpei, Manabe Kazuki, Hara Naoko, Baba Yusuke, Hosokawa Kohei, Kagawa Hiroki, Watanabe Tadashi, Fujimuro Masahiro. Methylseleninic acid and sodium selenite induce severe ER stress and subsequent apoptosis through UPR activation in PEL cells. *Chimico-Biological Interactions* **266**, 28–37 (2017) .
- 2) Nishimura Mayu, Watanabe Tadashi, Yagi Syota, Yamanaka Takahiro, Fujimuro Masahiro. Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus ORF34 is essential for late gene expression and virus production. *Scientific Reports* **7**, 329 (2017) .

解説、報告書等

- 1) 藤室雅弘：エイズ患者におけるヘルペスウイルスが原因となる疾患に関する創薬研究と分子疫学的研究. 大学間連携等による共同研究成果報告書, (2016) .

学会発表等

学会発表

- 1) 石丸華子、太田智絵、中村誠宏、松田久司、渡部匡史、藤室雅弘：ワインの発酵残渣からの抗 HSV 化合物の単離と作用機序解析. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 2) 森口美里、白石大理、渡部匡史、藤室雅弘：カプサイシンの B 細胞性リンパ腫に対する抗腫瘍活性. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 3) 石田真紗子、藤田昂志、杉本温子、渡部匡史、上田啓次、藤室雅弘：B 型肝炎ウイルス由来ウイルス様粒子 (VLP) の DDS への応用. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 4) 伊藤早織、藤澤紘希、渡部匡史、日紫喜隆行、加藤文博、岡野裕貴、田良島典子、南川典昭、藤室雅弘：核酸構造を活用した抗デングウイルス化合物の探索. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.

- 5) 寺尾友岐、松本遼太郎、渡部匡史、藤室雅弘 : GSK3 β による Snail の不安定化と KSHV による Snail の安定化. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 6) 藤澤紘希、太田智絵、中村誠宏、松田久司、日柴喜隆行、加藤文博、岡野裕貴、田良島典子、南川典昭、伊藤早織、渡部匡史、藤室雅弘 : ワイン発酵残渣由来化合物と核酸誘導体からの抗デングウイルス化合物の探索. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 7) 橋本 彩、渡部匡史、藤室雅弘 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス遺伝子 ORF36 (ウイルス性キナーゼ) の性状解析. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 8) 山口達生、渡部匡史、藤室雅弘 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製におけるウイルスキナーゼ ORF21 の機能解析. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 9) 渡部匡史 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製におけるウイルス性前開始複合体の分子機構. 第 14 回ウイルス学キャンプ in 湯河原 (熱海), 2017.6.
- 10) 細川晃平 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスによる CD81 分解機構の解明. 第 14 回ウイルス学キャンプ in 湯河原 (熱海), 2017.6.
- 11) 石田真紗子 : B 型肝炎ウイルス由来ウイルス様粒子 (HBV-VLP) の DDS への応用. 第 14 回ウイルス学キャンプ in 湯河原 (熱海), 2017.6.
- 12) 細川晃平、渡部匡史、藤室雅弘 : がんウイルスによる膜タンパク質 CD81 の分解機構 – ウィルス性 E3 ユビキチンライゲースによる分解とウイルス性 FLIP による転写抑制 –. 第 69 回日本細胞生物学会大会 (仙台), 2017.6.
- 13) 杉本温子、渡部匡史、阿部雄一、足立 淳、朝長 育、藤室雅弘 : 網羅的解析を用いた KSHV 溶解感染に関連する宿主因子の探索. 第 31 回ヘルペスウイルス研究会 (松江), 2017.6.
- 14) 池田茉莉那、伊藤昭博、渡部匡史、藤室雅弘 : HSV-1 感染によるユビキチン活性化酵素 UBE1 のユビキチン化の亢進. 第 31 回ヘルペスウイルス研究会 (松江), 2017.6.
- 15) 山口達生、渡部匡史、藤室雅弘 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス (KSHV) 複製におけるウイ

- ルスキナーゼ ORF21 の機能解析. 第 31 回ヘルペスウイルス研究会 (松江), 2017.6.
- 16) 渡部匡史 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス遺伝子 ORF66 のウイルス複製における機能解析. 第 14 回 EB ウィルス研究会 (旭川), 2017.7.
- 17) Tadashi Watanabe, Mayu Nishimura, Aya Hashimoto, Kouhei Hosokawa, Mel Campbell, Ryan Davis, Clifford G. Tepper, Yoshihiro Izumiya, Masahiro Fujimuro: Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus ORF66 is essential for virus production. 20th International Workshop on Kaposi's Sarcoma Herpes Virus (KSHV) and Related Agents (Berlin, DE) , 2017.7.
- 18) Mel Campbell, Christopher Chen, Yuanzhi Lyu, Kazuhi Nakano, Chie Izumiya, Tadashi Watanabe, Yoshihiro Izumiya: Spatiotemporal gene regulation and KSHV replication. 20th International Workshop on Kaposi's Sarcoma Herpes Virus (KSHV) and Related Agents (Berlin, DE) , 2017.7.
- 19) 石田真紗子、杉本温子、渡部匡史、上田啓次、藤室雅弘 : B 型肝炎ウイルス (HBV) 由来ウイルス様粒子 (VLP) の DDS への応用. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 20) 久保田諒、藤田康平、南 雪也、杉本温子、賀川裕貴、渡部匡史、藤室雅弘 : 単純ヘルペスウイルス感染における Sonic hedgehog シグナル経路の挙動解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 21) 杉本みなみ、中曾一裕、松井宏樹、渡部匡史、藤室雅弘 : 単純ヘルペスウイルス I 型 (HSV-1) 感染が神経細胞障害に与える影響—神経変性疾患発症への可能性—. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 22) 中村甚弥、渡部匡史、藤室雅弘 : ウィルスによるがん遺伝子産物 ELL の SUMO 化修飾. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 23) 栗山和志、西川 哲、渡部匡史、藤室雅弘 : マウスの哺育率向上を目的とした Perphenazine 投与の効果. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 24) 伊藤知恵、渡部匡史、藤室雅弘 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製におけるウイルス性タンパク質 ORF11 の機能解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.

- 25) 岩部 愛、渡部匡史、日紫喜隆行、加藤文博、岡野裕貴、田良島典子、南川典昭、藤室雅弘：核酸誘導体を活用した抗デングウイルス剤の開発. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 26) 上野友輔、細川晃平、清原美咲、山岸伸行、渡部匡史、藤室雅弘：がんウイルス感染による細胞内の P-gp の発現誘導機構の解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 27) 黒澤まどか、渡部匡史、日紫喜隆行、加藤文博、岡野裕貴、田良島典子、南川典昭、藤室雅弘：Replicon assay 法を用いた抗デングウイルス化合物の探索. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 28) 小久保友絵、池田茉莉那、渡部匡史、重永 章、大高 章、藤室雅弘：徳島大学化合物ライブラリーを用いた抗ヘルペスウイルス化合物の探索. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 29) 田中里歩、渡部匡史、岡野裕貴、田良島典子、南川典昭、藤室雅弘：核酸誘導体を用いた抗 HSV-1 化合物の探索. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 30) 前田佳子、渡部匡史、藤室雅弘：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスにおけるウイルス性開始前複合体タンパク質の相互作用解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 31) Tadashi Watanabe, Mayu Nishimura, Aya Hashimoto, Kouhei Hosokawa, Campbell Mel, Davis Ryan, Tepper G. Clifford, Yoshihiro Izumiya, Masahiro Fujimuro : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス ORF66 はウイルス複製に必須である. 第 65 回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 32) Atsuko Sugimoto, Tadashi Watanabe, Yuichi Abe, Jun Adachi, Takeshi Tomonaga, Masahiro Fujimuro : ユビキチン活性化酵素UBE1L2はKSHVの粒子産生に関わる. 第65回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 33) Kohei Hosokawa, Tadashi Watanabe, Masahiro Fujimuro : KSHV による CD81 発現抑制と CD151 発現亢進の機構解析. 第 65 回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 34) Marina Ikeda, Akihiro Ito, Tadashi Watanabe, Masahiro Fujimuro : ユビキチン活性化酵素のユビキ

- チン化は HSV-1 感染により亢進する. 第 65 回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 35) Misato Moriguchi, Dairi Shiraishi, Tadashi Watanabe, Masahiro Fujimuro : カプサイシンの PEL に対する細胞増殖抑制効果. 第 65 回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 36) Aya Hashimoto, Tadashi Watanabe, Atsuko Sugimoto, Yuichi Abe, Jun Adachi, Takeshi Tomonaga, Masahiro Fujimuro : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス遺伝子 ORF36 (ウイルス性キナーゼ) の性状解析. 第 65 回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 37) Tatsuo Yamaguchi, Tadashi Watanabe, Atsuko Sugimoto, Masahiro Fujimuro : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス (KSHV) 複製におけるウイルスキナーゼ ORF21 の機能解析. 第 65 回日本ウイルス学会学術集会 (大阪), 2017.10.
- 38) 渡部匡史、西村麻佑、細川晃平、前田佳子、橋本彩、Mel Campbell、Ryan Davis、Clifford Tepper、泉谷吉宏、藤室雅弘 : カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス ORF66 はウイルス複製に必須である. 第 40 回日本分子生物学会年会 (神戸), 2017.12.
- 39) 細川晃平 : がんウイルスによる CD81 の遺伝子発現調節機構. 第 40 回日本分子生物学会年会 (神戸), 2017.12.
- 40) 森口美里 : オルガネラストレスによる細胞内ユビキチン化修飾の変動. 第 40 回日本分子生物学会年会 (神戸), 2017.12.
- 41) 上野友輔 : がんウイルスによる細胞内の P 糖タンパク質の発現誘導機構の解析. 第 40 回日本分子生物学会年会 (神戸), 2017.12.

生化学

論文

- 1) Aya Ifuji, Takahisa Kuga, Yuichiro Kaibori, Youhei Saito, Yuji Nakayama: A novel immunofluorescence method to visualize microtubules in the antiparallel overlaps of microtubule-plus ends in the anaphase and telophase midzone. *Exp. Cell Res.*, **360**, 347-357 (2017).
- 2) Yuki Takakura, Noritaka Yamaguchi, Takuya Honda, Mariko Morii, Ryuzaburo Yuki, Yuji Nakayama, Naoto Yamaguchi: The truncated isoform of the receptor tyrosine kinase ALK generated by alternative transcription initiation (ALK^{ATI}) induces chromatin structural changes in the nucleus in a kinase activity-dependent manner. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 1968-1975 (2017).
- 3) Yasunori Fukumoto, Yuji Nakayama, Naoto Yamaguchi: The polyanionic C-terminal tail of human Rad17 regulates interaction with the 9-1-1 complex. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **490**, 1147-1153 (2017).
- 4) Kazumasa Kuki, Noritaka Yamaguchi, Shuto Iwasawa, Yuki Takakura, Kazumasa Aoyama, Ryuzaburo Yuki, Yuji Nakayama, Takahisa Kuga, Yuuki Hashimoto, Takeshi Tomonaga, Naoto Yamaguchi: Enhancement of TGF- β -induced Smad3 activity by c-Abl-mediated tyrosine phosphorylation of its coactivator SKI-interacting protein (SKIP). *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **490**, 1045-1051 (2017).
- 5) Hiroki Mikami, Youhei Saito, Namiko Okamoto, Ayana Kakihana, Takahisa Kuga, Yuji Nakayama: Requirement of Hsp105 in CoCl₂-induced HIF-1 α accumulation and transcriptional activation. *Exp. Cell Res.*, **352**, 225-233 (2017).
- 6) Noritaka Yamaguchi, Misato Shibasaki, Chiaki Yamada, Erina Anzai, Mariko Morii, Yuji Nakayama, Takahisa Kuga, Yuuki Hashimoto, Takeshi Tomonaga, Naoto Yamaguchi: Tyrosine phosphorylation of the pioneer transcription factor FoxA1 promotes activation of estrogen signaling. *J. Cell. Biochem.*, **118**, 1453-1461 (2017).
- 7) Keiko Kakae, Masayoshi Ikeuchi, Takahisa Kuga, Youhei Saito, Naoto Yamaguchi, Yuji Nakayama: v-Src-induced nuclear localization of YAP is involved in multipolar spindle formation in tetraploid cells. *Cell. Signal.*, **30**, 19-29 (2017).
- 8) Noritaka Yamaguchi, Yuji Nakayama, Naoto Yamaguchi: Down-regulation of Forkhead box protein A1 (FOXA1) leads to cancer stem cell-like properties in tamoxifen-resistant breast cancer cells through induction of interleukin-6. *J. Biol. Chem.*, **292**, 8136-8148 (2017).

- 9) Yuichi Abe, Maiko Nagano, Takahisa Kuga, Asa Tada, Junko Isoyama, Jun Adachi, Takeshi Tomonaga: Deep phospho- and phosphotyrosine proteomics identified active kinases and phosphorylation networks in colorectal cancer cell lines resistant to cetuximab. *Scientific Reports.*, **7**, 10463 (2017).

総説

- 1) Yuji Nakayama, Shuhei Soeda, Masayoshi Ikeuchi, Keiko Kakae, Naoto Yamaguchi: Cytokinesis failure leading to chromosome instability in v-Src-induced oncogenesis. *Int. J. Mol. Sci.*, **18**, 811 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 海堀祐一郎、久家貴寿、齊藤洋平、中山祐治: 受容体型チロシンキナーゼによる細胞分裂制御機構の解析. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 2) 堀内麻利安、久家貴寿、齊藤洋平、朝長 肇、中山祐治: Src の異常な活性化が細胞分裂異常を誘導する新規機構の解明. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 3) 三上大貴、齊藤洋平、岡本菜美子、久家貴寿、中山祐治: HIF-1 の蓄積および転写活性化には Hsp105 が必要である. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 4) 久家貴寿、齊藤洋平、朝長 肇、中山祐治: FAM83H は新規のがん浸潤関連タンパク質である. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 5) 本田拓也、鈴木 亘、森井真理子、添田修平、阿部紘平、山口千尋、久保田翔、青山和正、中山祐治、山口憲孝、山口直人: がん遺伝子 v-Src による細胞周期進行抑制の分子機構. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 6) 手島皓子、岡本菜美子、柿花采那、齊藤洋平、久家貴寿、中山祐治: Hsp105/110 ファミリータンパク質の細胞分裂の進行への関与. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 7) 山口憲孝、中山祐治、山口直人: エストロゲン依存性乳癌細胞のタモキシフェン耐性獲得における NF-κB 経路の役割. 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 8) 柿花采那、大東優衣、齊藤洋平、久家貴寿、中山祐治: 熱ショックタンパク質 Hsp105 による分裂期チェックポイント制御機構の解明. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会) (神戸), 2017.12.

- 9) 居藤亜弥、久家貴寿、海堀祐一郎、齊藤洋平、中山 祐治: 細胞分裂後期、終期に形成されるスピンドルミッドゾーン特異的な新規染色方法. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会）(神戸), 2017.12.
- 10) 本田拓也、森井真理子、中山祐治、鈴木 亘、山口憲孝、山口直人: がん遺伝子 v-Src による染色体不安定性を介した形質転換. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会）(神戸), 2017.12.
- 11) 安田邦彦、廣瀬 翔、齊藤洋平、森 望、中山祐治: HDAC6 による HSP105 との結合を介した HSP70 の機能制御. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会）(神戸), 2017.12.
- 12) 福本泰典、中山祐治、山口直人: ヒト Rad17 タンパク質の酸性 C 末端テールによる 9-1-1 複合体との相互作用の制御. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会）(神戸), 2017.12.

その他

- 1) 齊藤洋平: 座長. 一般口頭発表 日本薬学会第 137 年会 (仙台), 2017.3.
- 2) 中山祐治、齊藤洋平: 体験実習「DNA を抽出しよう!」 京都薬科大学オープンキャンパス (京都), 2017.8.
- 3) 山岸あかね、上田菜津美、奥村大喜、久家貴寿、齊藤洋平、中山祐治: ケミカルジェネティクスによる新規細胞分裂制御機構の探索. 2017 年度（平成 29 年度）私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 4) 久家貴寿、山岸伸行、佐々木光穂、鈴木 治、松田潤一郎、朝長 毅、中山祐治: がん関連タンパク質 FAM83H は上皮系組織形成に必須のタンパク質である. 2017 年度（平成 29 年度）私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 5) 齊藤洋平、中山祐治: 低酸素誘導因子 HIF-1 の機能調節への熱ショックタンパク質 Hsp105 の関与. 第 7 回 4 大学連携研究フォーラム (京都), 2017.11.
- 6) 中山祐治: 評価者. 大阪薬科大学 薬学共用試験 (大阪), 2017.12.

病態生理学

著 書

- 1) 芦原英司： 4 多発性骨髓腫，ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦疾病と治療，林正健二，山内豊明編，pp.23-27，メディカ出版（2017）.
- 2) 芦原英司： ここに注目！Bromodomain およびその阻害薬，多発性骨髓腫 Updating 第 10 卷骨髓腫治療を理解するための Myeloma Biology，清水一之、安倍正博、島崎千尋、鈴木憲史、張 高明編，pp.70-76，医療ジャーナル社（2017）.

論 文

- 1) Yoshihisa Kitamura, Masatoshi Inden, Yasuto Kimoto, Kazuyuki Takata, Daijiro Yanagisawa, Masanori Hijioka, Eishi Ashihara, Ikuo Tooyama, Shun Shimohama, and Hiroyoshi Ariga: Effects of a DJ-1-Binding Compound on Spatial Learning and Memory Impairment in a Mouse Model of Alzheimer's Disease. *J Alzheimers Dis.*, **55**, 67-72 (2017) .
- 2) Natsuki Imayoshi, Makoto Yoshioka, Jay Chauhan, Susumu Nakata, Yuki Toda, Steven Fletcher, Jeffrey W. Strovel, Kazuyuki Takata, and Eishi Ashihara: CG13250, a novel bromodomain inhibitor, suppresses proliferation of multiple myeloma cells in an orthotopic mouse model. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **484**, 262-268 (2017) .
- 3) Kazuyuki Takata, Tatsuya Kozaki, Christopher Zhe Wei Lee, Morgane Sonia Thion, Masayuki Otsuka, Shawn Lim, Kagistia Hana Utami, Kerem Fidan, Dong Shin Park, Benoit Malleret, Svetoslav Chakarov, Peter See, Donovan Low, Gillian Low, Marta Garcia-Miralles, Ruizhu Zeng, Jinqiu Zhang, Chi Ching Goh, Ahmet Gul, Sandra Hubert, Bennett Lee, Jinmiao Chen, Ivy Low, Nurhidaya Binte Shadan, Josephine Lum, Tay Seok Wei, Esther Mok, Shohei Kawanishi, Yoshihisa Kitamura, Anis Larbi, Michael Poidinger, Laurent Renia, Lai Guan Ng, Yochai Wolf, Steffen Jung, Tamer Önder, Evan Newell, Tara Huber, Eishi Ashihara, Sonia Garel, Mahmoud A. Pouladi, and Florent Ginhoux: Induced-pluripotent-stem-cell-derived primitive macrophages provide a platform for modeling tissue-resident macrophage differentiation and function. *Immunity*, **47**, 183-198 (2017) .
- 4) Kazutaka Koto, Hiroaki Murata, Yasushi Sawai, Eishi Ashihara, Motoyuki Horii, and Toshikazu Kubo: Cytotoxic effects of zoledronic acid-loaded hydroxyapatite and bone cement in malignant tumors. *Oncol. Lett.*, **14**, 1648-1656 (2017) .

総 説

- 1) 芦原英司：低酸素骨髓環境に潜む骨髓腫幹細胞. *BIO Clinica*, **32 (9)** , 82-87 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) Yoko Kado, Fumiaki Kitazawa, Masayuki Tsujimoto, Shin-ichi Fuchida, Akira Okano, Mayumi Hatsuse, Satoshi Murakami, Kumi Ueda, Takatoshi Kokufu, Ryosuke Irie, Tohko Sakashita, Mizuki Yamamoto, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi, Eishi Ashihara and Chihiro Shimazaki: Prediction of Toxicity and Efficacy Based on Therapeutic Drug Monitoring of the Lenalidomide in Multiple Myeloma Patients. The 5th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals (Osaka, Japan) , 2017.3.
- 2) 河西翔平、高田和幸、射手園将真、長山紘子、黒田絵莉子、戸田侑紀、芦原英司：骨髓由来アミロイドβ 貪食細胞の機能解析およびアルツハイマー病モデルマウスへの脳内移植. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 3) 黒田絵莉子、高田和幸、河西翔平、戸田侑紀、芦原英司：マウス末梢血由来造血幹細胞からミクログリア様細胞への分化誘導とその機能解析. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 4) 山本景子、高田和幸、松枝小夜、吉本寛司、細木誠之、戸田侑紀、丸中良典、芦原英司：糖尿病モデルラット脳内におけるpHとアミロイドβ量の解析. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 5) 甘利圭悟、久米伶奈、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司：骨髓間葉系幹細胞に対する放射線照射の影響. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 6) 鵜飼幸永佳、戸田侑紀、川上 光、高田和幸、芦原英司：エクソソーム膜脂質より再構成したリポソームのがん細胞移行性評価. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 7) Teruki Shimizu, Osamu Ukimura, and Eishi Ashihara: Development of intravesical human γδT cell therapy against refractory urinary bladder cancer and human γδT cell therapy based chemoimmunotherapy. 第105回日本泌尿器科学会総会（鹿児島）, 2017.4.
- 8) 戸田侑紀、芦原英司：細胞外小胞の脂質組成から見出した新規がん標的型 DDS. 第21回日本がん分子標的治療学会学術集会（福岡）, 2017.6.
- 9) 河西翔平、高田和幸、射手園将真、長山紘子、黒田絵莉子、地寄悠吾、戸田侑紀、中田 晋、矢野義孝、芦原英司：アルツハイマー病モデルマウス海馬への骨髓由来ミクログリア様細胞移植における移植細胞の機能と脳内動態解析. 生体機能と創薬シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 10) 山本景子、高田和幸、堀井 流、吉本寛司、細木誠之、戸田侑紀、丸中良典、芦原英司：Analysis of the blood glucose level-dependent changes of brain pH and amyloid- β amounts in a model rat of diabetes mellitus (糖尿病とアルツハイマー病の関連性解明に向けた糖尿病モデルラットでの血糖値、脳内pHおよびA β 量の解析). 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017（京都）, 2017.8.

- 11) 長山紘子、高田和幸、河西翔平、射手園将真、黒田絵莉子、地寄悠吾、戸田侑紀、中田 晋、矢野義孝、芦原英司: Transplantation and brain kinetics of mouse bone marrow-derived microglia-like cells for development of Alzheimer's disease cell therapy (アルツハイマー病の細胞治療法の開発を目指した骨髄由来ミクログリア様細胞のマウス脳内移植および脳内動態の解析) . 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 12) 吉留利香、山下直人、山吉麻子、戸田侑紀、高田和幸、小堀哲生、村上 章、芦原英司: Development of antibody-conjugated siRNAs for cancer treatment (抗体結合型 siRNA を用いた新規悪性腫瘍特異的送達法の開発) . 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 13) 藤野友理子、高田和幸、河西翔平、國府谷彩香、石原慶一、戸田侑紀、安井裕之、芦原英司: マウス脳内でのアミロイド β タンパク質の蓄積と微量金属元素量の変動に関する解析. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 14) 篠村恵理子、上野美都穂、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司: 多発性骨髄腫に対する新規プロモドメイン阻害剤 CG14262 と既存の分子標的治療薬との併用による抗腫瘍効果の検証. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 15) 磯村拳一、若林亮介、服部恭尚、嶋本康広、小林数也、戸田侑紀、高田和幸、赤路健一、芦原 英司: 新規 Wnt/ β -カテニン経路阻害剤は TGF- β 刺激による A549 ヒト非小細胞肺がん細胞株の遊走を抑制する. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 16) 辰巳宥衣、戸田侑紀、大東萌絵、高田和幸、芦原英司: 間葉系幹細胞由来エクソソームの造血制御に関する解析. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 17) 清水輝記、友金眞光、宮下雅亜、浮村 理、芦原英司: 難治性膀胱癌に対する $\gamma\delta$ T 細胞を用いた複合免疫療法の開発、gemcitabine (GEM) 併用による相乗効果の検討. 第 47 回京阪泌尿器腫瘍セミナー (大阪) , 2017.9.
- 18) 戸田侑紀、川上 光、鵜飼幸永佳、森田真也、高田和幸、芦原英司: 細胞指向性を制御するエクソソームの脂質と薬物送達への応用. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 2017 (京都) , 2017.10.
- 19) 友金眞光、清水輝記、宮下雅亜、佐野友亮、清水大器、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司: がん細胞における PD-L1 の発現レベルが $\gamma\delta$ T 細胞の細胞障害性に影響を及ぼす. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 2017 (京都) , 2017.10.
- 20) 甘利圭悟、久米伶奈、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司: 骨髄由来間葉系幹細胞における放射線照射は造血関連分子の発現を亢進させる. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 2017 (京都) , 2017.10.

- 21) 杉山雄輝、中村誠宏、長谷川功紀、福田浩紀、吉澤正人、玉井志保里、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司： クマリン系化合物を基礎としたがん転移抑制薬の創製. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 2017（京都）, 2017.10.
- 22) 荒木祐哉、高田和幸、戸田侑紀、河西翔平、黒田絵莉子、安井裕之、芦原英司： アルツハイマー病の病態形成機序解明に向けたアミロイド β ならびにそのオリゴマーからの活性酸素種の検出. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 23) 岡 輝、高田和幸、河西翔平、射手園将真、長山絃子、黒田絵莉子、地寄悠吾、戸田侑紀、中田晋、矢野義孝、芦原英司： マウス骨髄由来ミクログリア様細胞の *in vitro* および *in vivo* における生物学的動態および機能の解析. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 24) 末吉真梨、高田和幸、佐々木綾、河西翔平、黒田絵莉子、戸田侑紀、芦原英司： ニコチン受容体刺激による骨髄由来ミクログリア様細胞のアミロイド β 貪食機能の促進. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 25) 平島七海、高田和幸、綿榎充穂、黒田絵莉子、戸田侑紀、芦原英司： アルツハイマー病治療法開発に向けた A β オリゴマー誘導細胞死モデルの構築とドラッグスクリーニング. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 26) 黒田絵莉子、高田和幸、河西翔平、戸田侑紀、芦原英司： マウス末梢血造血幹細胞からミクログリア様細胞への分化誘導法の構築とその機能解析. 第 7 回 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 27) 清水輝記、友金真光、宮下雅亜、佐野友亮、清水大器、戸田侑紀、藤原敦子、高田和幸、浮村 理、芦原英司： 難治性膀胱癌に対する $\gamma\delta$ T 細胞を用いた新規膀胱注入療法の開発. 第 7 回 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017.11.

講演等

特別講演

- 1) 高田和幸： iPS 細胞を用いたアルツハイマー病細胞治療の可能性. 第 21 回大文字クラブ（京都）, 2017.2.
- 2) 芦原英司： がん分子標的治療薬の創製—京都薬科大学の挑戦—. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.

シンポジウム

- 1) 芦原英司、今吉菜月、Makoto Yoshioka、中田 晋、Jay Chauhan、戸田侑紀、Steven Fletcher、Jeffrey Strovel、高田和幸：新規プロモドメイン阻害剤 CG13250 の多発性骨髄腫に対する抗腫瘍効果. 第 42 回日本骨髄腫学会学術集会（東京）, 2017.5.
- 2) 高田和幸：金属イオンを用いた細胞標識とその応用. 第 58 回日本組織細胞化学会総会・学術集会（愛媛）, 2017.9.
- 3) 芦原英司：アカデミアにおける創薬研究ーがん分子標的治療薬開発ー. 平成 29 年度第 1 回京都市ライフイノベーション創出支援センターシンポジウム 希少・難治性疾患やがんの克服に挑む～新しい治療法の開発に向けて～（京都）, 2017.11.

講 演

- 1) 高田和幸：脳ニコチン受容体に対する APL がもたらす脳疾患治療効果の可能性. Alzheimer Professional Conference (東京), 2017.1.
- 2) 戸田侑紀：Exosomes の脂質組成に着目した DDS 研究. 第二回神戸大学エクソソーム研究会（神戸）, 2017.2.
- 3) 高田和幸：脳ニコチン受容体に対する APL がもたらす脳疾患治療効果の可能性. Reminyl National Conference (東京), 2017.5.
- 4) 高田和幸：脳ニコチン受容体 APL の薬理学的性質と脳疾患治療応用への可能性. Alzheimer Experts Seminar 2017 (大阪), 2017.8.
- 5) 高田和幸：iPS 細胞由来胚性マクロファージの可能性. 第 122 回支援センターセミナー（滋賀）, 2017.11.
- 6) 高田和幸：iPS 細胞由来胚性マクロファージへの分化誘導とその応用. 2017 年 11 月度 HLA 勉強会（京都）, 2017.11.
- 7) 高田和幸：脳ミクログリアを標的とした認知症治療戦略の開発. 第 14 回認プロ FD 講演会（金沢）, 2017.12.

その他

- 1) 杉山雄輝、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、中村誠宏、山下正行、長谷川功紀、長谷井友尋：クマリン系化合物を基礎としたがん転移抑制薬の創製. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017 年度 Annual Meeting (京都), 2017.9.

- 2) 若林亮介、芦原英司、服部恭尚、長谷井友尋、小林数也、赤路健一： Wnt/β-catenin 経路阻害剤の探索. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 3) 吉澤正人、玉井志保里、杉山雄輝、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、矢野義孝： 機械学習を用いた細胞計測法の開発. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 4) 吉澤正人、玉井志保里、杉山雄輝、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、中村誠宏： 川骨由来化合物におけるがん転移抑制効果. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 5) 三好美早紀、若林亮介、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、服部恭尚、石地真邑、荻原瑠美、細谷早希、嶋本康広、小林数也、赤路健一： ヒト肺がん細胞に対する新規 Wnt/β-catenin 経路阻害剤の効果. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 6) 磯村拳一、若林亮介、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司、服部恭尚、嶋本康広、小林数也、赤路健一： 新規 Wnt/β-カテニン経路阻害剤は TGF-β 刺激による A549 ヒト非小細胞肺がん細胞株の遊走を抑制する. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 7) 横本美久、瀧本千穂、長谷井友尋、渡辺徹志、若林亮介、芦原英司、服部恭尚、嶋本康広、小林数也、赤路健一： がん幹細胞を特異的に駆逐する Wnt/β-catenin 経路阻害剤の探索. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 8) 細川友理子、熊野瑛巴、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司： 新規プロモドメイン阻害剤 CG15202 の多発性骨髄腫に対する抗腫瘍効果. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 9) 戸田侑紀、川上 光、鶴飼幸永佳、高田和幸、芦原英司、森田真也： エクソソームの脂質組成を基盤としたがん標的化技術の開発. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.
- 10) 渡辺温子、戸田侑紀、高田和幸、芦原英司： 細胞老化プロセスにおけるエクソソームの関与. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」2017年度 Annual Meeting（京都）, 2017.9.

病態生化学

著 書

- 1) 石原慶一、秋葉 聰: 分子病態薬物治療学 一生化・生理・薬理的視点にたった疾患へのアプローチ, 京都廣川書店 (2017) .

論 文

- 1) Matthieu Raveau, Takashi Nakahari, Sachie Asada, Keiichi Ishihara, Kenji Amano, Atsushi Shimohata, Haruhiko Sago and Kazuhiro Yamakawa: Brain ventriculomegaly in Down syndrome mice is caused by Pcp4 dose-dependent cilia dysfunction. *Hum. Mol. Genet.*, **26**, 923-931 (2017) .
- 2) Atsushi Shimohata, Keiichi Ishihara, Satoko Hattori, Hiroyuki Miyamoto, Hiromasa Morishita, Guy Ornthalalai, Matthieu Raveau, Abdul Shukkur Ebrahim, Kenji Amano, Kazuyuki Yamada, Haruhiko Sago, Satoshi Akiba, Nobuko Mataga, Niall P. Murphy, Tsuyoshi Miyakawa, Kazuhiro Yamakawa: Ts1Cje Down syndrome model mice exhibit environmental stimuli-triggered locomotor hyperactivity and sociability concurrent with increased flux through central dopamine and serotonin metabolism. *Exp. Neurol.*, **293**, 1-12 (2017) .

総 説

- 1) Keiichi Ishihara and Satoshi Akiba: A Comprehensive Diverse '-omics' Approach to Better Understanding the Molecular Pathomechanisms of Down Syndrome. *Brain Sci.*, **7**, article number 44 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 河下映里: α 2-Antiplasminの中枢神経機能における生理的役割. 合同リトリート2017(大津), 2017.3.
- 2) 石原慶一、奥村志帆、河下映里、Beverly A. ROTHERMEL、Eric N. OLSON、左合治彦、山川和弘、秋葉 聰: ダウン症モデルマウス脳での抑制性神経細胞数の減少とその原因遺伝子の同定. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 3) 今田百南、河下映里、石原慶一、江川奈生、木原 望、倉田麻未、種草大貴、秋葉 聰: 細胞培養系を用いたNASH病態進展におけるIVA型phospholipase A₂の機能解析. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 4) 福本紗与、河下映里、石原慶一、泰地健芳、秋葉 聰: 酸化ストレス誘発性肝線維化の進展過程におけるIVA型ホスホリパーゼA₂の役割の解明. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.

- 5) 藤野友理子、高田和幸、河西翔平、國府谷彩香、石原慶一、戸田侑紀、安井裕之、芦原英司: マウス脳内のアミロイド β タンパク質の蓄積と微量金属元素量の変動に関する解析. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 6) 秋葉 聰: カリキュラム構築と教員間授業参観をとおした教育の質向上につなげる FD 活動. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (名古屋) , 2017.9.
- 7) 今西孝至、三浦 誠、大津山裕美子、中林 保、西村公男、河崎純子、西村 豊、松本賢哉、秋葉 聰、楠本正明: 京都薬科大学近隣地域の医療施設と連携した在宅チーム医療教育体制の基盤構築. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (名古屋) , 2017.9.
- 8) 吉村典久、高橋由佳、開 章宏、秋葉 聰、細井信造: 6 年次前期の要指導学生への取り組み内容の変化から見えてきたこと. 一事前学修の重要性について—. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (名古屋) , 2017.9.
- 9) 清水涼平、鳴神繭子、河下映里、左合治彦、山川和弘、秋葉 聰、石原慶一: ダウン症モデルマウスにおける転写調節因子 T-box1 減少の病態意義に関する研究 —ダウン症モデルマウス脳における血管形態解析—. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017.10.
- 10) 中本彩奈、中西李澄、今田百南、河下映里、石原慶一、秋葉 聰: 各種肝構成細胞での脂肪酸刺激による monocyte chemotactic protein-1 発現誘導への IVA 型 PLA₂ の関与. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017.10.
- 11) 西原夏子、藤井祐里愛、辻 葵、竹腰良輔、左合治彦、山川和弘、河下映里、秋葉 聰、石原慶一: ダウン症モデルマウスの脳における銅の過剰蓄積機構の解明を目指した銅トランスポーターの発現解析. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017.10.
- 12) 石原慶一、天野賢治、河下映里、下畑充志、アレキサンダー ウオレン、左合治彦、山川和弘、秋葉 聰: ダウン症マウス脳での炎症関連遺伝子の発現亢進とその責任遺伝子の同定. 日本人類遺伝学会 第 62 回大会 (神戸) , 2017.11.
- 13) 下畑充志、石原慶一、服部聰子、宮本浩行、森下泰全、Guy Ornthalalai、Matthieu Raveau、Abdul Shukkur Ebrahim、天野賢治、山田一之、左合治彦、秋葉 聰、俣賀宣子、Niallp Murphy、宮川 剛: ダウン症モデルマウスはモノアミンの増加及びそれらの代謝亢進を示し、環境刺激誘発による活動量と社会性の増加を示す. 日本人類遺伝学会第 62 回大会 (神戸) , 2017.11.
- 14) 石原慶一: ダウン症モデルマウス脳での銅イオン濃度上昇とその病態生理学的意義. 第 5 回メタロミクス研究フォーラム (京都) , 2017.11.
- 15) 藤井正徳、松尾未希、石原慶一、安井裕之、大矢 進: アトピー性皮膚炎モデルマウス皮膚におけるリンおよび鉄の増加. 第 5 回メタロミクス研究フォーラム (京都) , 2017.11.

- 16) 河下映里、石原慶一、柏田千紘、泰地健芳、長尾美奈、加納菜瑠実、米岡那夏子、金井志帆、秋葉聰: IVA型 PLA₂欠損下での NASH 病態軽減に関与する細胞種の特定. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸) , 2017.12.

講演等

- 1) 石原慶一: 講演. マウスモデルを用いたダウントン症病態解析 ～ダウントン症精神発達遅滞の薬物治療を目指して～. 第 170 回染色体研究会例会. 東京医科大学病院 (東京) , 2017.6.

その他

- 1) 秋葉 聰: 参加. 平成 29 年度初年次教育実践交流会 in 北陸 (金沢) , 2017.5.
- 2) 秋葉 聰: 参加. 平成 29 年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ (東京) , 2017.8.
- 3) 石原慶一: タスクフォース. 第 88 回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿 (京都) , 2017.8.
- 4) 石原慶一: 評価者. 摂南大学薬学部 OSCE. 摂南大学 (枚方) , 2017.12.

論 文

- 1) Tatsushi Sano, Daichi Utsumi, Kikuko Amagase, Kenjiro Matsumoto, Makoto Tominaga , Kazuhide Higuchi, Tetsu Takeuchi, Shinichi Kato: Lafutidine, a histamine H₂ receptor antagonist with mucosal protective properties, attenuates 5-fluorouracil-induced intestinal mucositis in mice through activation of extrinsic primary afferent neurons. *J. Physiol. Pharmacol.*, **68** (1) , 79-90 (2017) .
- 2) Nahla Hamouda, Tatsushi Sano, Yosuke Oikawa, Toru Ozaki, Masaki Shimakawa, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase, Kazuhide Higuchi, Shinichi Kato: Apoptosis, dysbiosis and expression of inflammatory cytokines are sequential events in the development of 5- fluorouracil - induced intestinal mucositis in mice. *Basic & Clinical Pharmacol. & Toxicol.*, **121**, 159-168 (2017) .
- 3) Hiroyasu Sakai, Ken Sato, Fumiaki Sato,Yuki Kai, Kazutaka Mandokoro, Kenjiro Matsumoto, Shinichi Kato, Tetsuro Yumoto, Minoru Narita, Yoshihiko Chiba: Curcumin inhibits epigen and amphiregulin upregulated by 2,4,6- trinitrochlorobenzene associated with attenuation of skin swelling. *Inflamm. Res.*, **66**, 663-678 (2017) .
- 4) Shinichi Kato, Nahla Hamouda, Yoshitaro Kano, Yousuke Oikawa, Yoshiki Tanaka, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase, Masaki Shimakawa: Probiotic *Bifidobacterium bifidum* G9-1 attenuates 5- fluorouracil-induced intestinal mucositis in mice via suppression of dysbiosis- related secondary inflammatory responses. *Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.*, **44**, 1017-1025 (2017) .
- 5) Takuya Tsukahara, Nahla Hamouda, Daichi Utsumi, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase, Shinichi Kato: G protein- coupled receptor 35 contributes to mucosal repair in mice via migration of colonic epithelial cells. *Pharmacol. Res.*, **123**, 27-39 (2017) .
- 6) Haruka Yokota, Ayaka Tsuzuki, Yuki Shimada, Azusa Imai, Daichi Utsumi, Takuya Tsukahara, Misaki Matsumoto, Kikuko Amagase, Kazumi Iwata, Akio Nakamura, Chihiro Yabe-Nishimura, Shinichi Kato: NOX1/NADPH oxidase expressed in colonic macrophages contributes to the pathogenesis of colonic inflammation in trinitrobenzene sulfonic acid-Induced murine colitis. *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, **360**, 192-200 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: マウス大腸炎および大腸炎関連発がんにおける血管内皮細胞発現 TRPV4 の関与. 第 35 回サイトプロテクション研究会（京都）, 2017.3.
- 2) 松本健次郎、内海大知、天ヶ瀬紀久子、富永真琴、加藤伸一: 大腸炎および大腸炎関連発癌における血管内皮 TRPV4 の関与. 第 90 回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 3) 内海大知、塚原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、富永真琴、加藤伸一: 大腸炎の病態における TRPV1 および TRPA1 の役割. 第 90 回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 4) 深見安希、松本健次郎、内海大知、天ヶ瀬紀久子、富永真琴、加藤伸一: 大腸炎および大腸炎関連がんの病態における TRPV4 チャネルの関与. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 5) 加納嘉太郎、北居香菜子、宗本尚子、中井千秋、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: *Helicobacter pylori* 誘起胃粘膜病変に対するグルタミン酸の保護効果. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 6) 加藤壮真、内海大知、塚原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、富永真琴、加藤伸一: 大腸炎の病態における TRPV1 および TRPA1 チャネルの役割. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 7) 小川温子、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、堀 正敏、尾崎 博、加藤伸一: 術後麻痺性イレウスの病態における TRPM2 チャネルの機能解析. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 8) 橋本奈生子、塚原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: GPR35 シグナルを介した大腸上皮修復促進および大腸炎抑制作用. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 9) 磯山加奈、塚原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: GPR40 活性化によるマウスデキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎に対する保護的役割. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 10) Shinichi Kato, Nahla Hamouda, Daichi Utsumi, Takuya Tsukahara, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase: Sequential Role of Apoptosis, Gram-negative Enterobacteria, and Inflammatory Cytokines in the Pathogenesis of 5-Fluorouracil-induced Intestinal Mucositis in Mice. Experimental Biology (Chicago, USA), 2017.4.
- 11) Kenjiro Matsumoto, Daichi Utsumi, Kikuko Amagase, Makoto Tominaga, Shinichi Kato: Transient receptor potential vanilloid 4 (TRPV4) regulates vascular endothelial permeability during colonic inflammation in dextran sulfate sodium-induced murine colitis. Experimental Biology (Chicago, USA), 2017.4.
- 12) Takuya Tsukahara, Nahla Hamouda, Daichi Utsumi, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase, Shinichi Kato: G Protein-Coupled Receptor 35 Signaling Promotes Mucosal Repair via Migration of Colonic Epithelial Cells in Mice. Experimental Biology (Chicago, USA), 2017.4.
- 13) Daichi Utsumi, Kenjiro Matsumoto, Takuya Tsukahara, Kikuko Amagase, Makoto Tominaga, Shinichi Kato:

Potential Role of Transient Receptor Potential Vanilloid 1 and Ankyrin 1 in Colonic Inflammation in Dextran Sulfate Sodium (DSS) - induced Murine Colitis. Experimental Biology (Chicago, USA), 2017.4.

- 14) 松本健次郎、堀 正敏、堀江俊治、天ヶ瀬紀久子、尾崎 博、森 泰生、加藤伸一: TNBS 誘起内臓痛覚過敏、術後麻痺性イレウスの病態における TRPM2 の機能解析. 第 13 回 TRP チャネル研究会（愛知）, 2017.6.
- 15) 松本健次郎: 難治性消化管疾患の病態制御における温度感受性 TRP チャネルおよびセロトニン 5-HT3 受容体の役割解明. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 16) 高橋 葵、秦 朋子、折本実栄、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、松浦文三、加藤伸一: ヒトモチリン受容体トランスジェニックマウスにおけるエリスロマイシン誘発胃運動亢進作用の解析. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 17) 植村有加、加納嘉太郎、小坂悠里子、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: *Helicobacter pylori* 誘起胃粘膜病変に対するグルタミン酸の保護効果. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 18) 中野拓哉、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、堀 正敏、尾崎 博、加藤伸一: 術後麻痺性イレウスの病態における TRPM2 の役割. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 19) 松地里沙子、岡田沙知、嶋川真木、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: 5-フルオロウラシル誘起腸炎に対するビフィズス菌 G9-1 株の効果. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 20) 成瀬 圭、松本健次郎、内海大知、天ヶ瀬紀久子、富永真琴、加藤伸一: マウス血管内皮 TRPV4 はデキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態の進行に関与する. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 21) 泉 大地、塙原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: GPR35 活性化は大腸上皮遊走促進作用を介して大腸炎を抑制する. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 22) 内海大知、塙原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: マウス DSS 誘起大腸炎モデルの病態における TRPV1 および TRPA1 の役割. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017(京都) , 2017.8.
- 23) 深見安希、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: 大腸炎関連がんの血管新生制御における TRPV4 の関与. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 24) 折本実栄、秦 朋子、高橋 葵、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、松浦文三、加藤伸一: ヒトモチリン受容体トランスジェニックマウスにおけるエリスロマイシン誘発胃運動亢進作用の解析. 次世代

を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017（京都）, 2017.8.

- 25) 鎌田育恵、植村有加、加納嘉太郎、小坂悠里子、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: グルタミン酸の *Helicobacter pylori* 誘起胃粘膜病変に対する保護作用. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017（京都）, 2017.8.
- 26) 宮土佳歩、塚原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: GPR40 活性化によるマウス大腸上皮細胞の傷害修復促進作用. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017（京都）, 2017.8.
- 27) Nahla Hamouda, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase, Shinichi Kato: Apoptosis, dysbiosis, and expression of inflammatory cytokines are sequential events in the occurrence of 5-fluorouracil-induced intestinal mucositis in mice. “STRESS: PHYSIOLOGICAL EFFECTS, PATHOLOGICAL CONSEQUENCES AND APPROACHES TO THEIR PREVENTION” Symposium (Saint Petersburg, RUS), 2017.10.
- 28) Kikuko Amagase, Yoshitaro Kano, Yuriko Kosaka, Kenjiro Matsumoto, Shinichi Kato : Glutamate is effective in *Helicobacter pylori*-induced gastritis. “STRESS: PHYSIOLOGICAL EFFECTS, PATHOLOGICAL CONSEQUENCES AND APPROACHES TO THEIR PREVENTION” Symposium (Saint Petersburg, RUS), 2017.10.
- 29) 塚原卓矢、内海大知、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: GPR40 活性化によるマウスデキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎に対する保護的役割. 第 45 回日本潰瘍学会（京都）, 2017.11.
- 30) 内海大知、塚原卓矢、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、加藤伸一: マウスデキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎モデルの病態における TRPV1 および TRPA1 の役割. 第 45 回日本潰瘍学会（京都）, 2017.11.
- 31) Hamouda Nahla、佐野達志、嶋川真木、松本健次郎、天ヶ瀬紀久子、樋口和秀、加藤伸一: Apoptosis, dysbiosis, and expression of inflammatory cytokines are sequential events in the occurrence of 5-fluorouracil-induced intestinal mucositis in mice. 第 45 回日本潰瘍学会（京都）, 2017.11.

その他

- 1) 塚原卓矢、加藤伸一: 長鎖遊離脂肪酸受容体 GPR40 の活性化はマウス DSS 誘発腸炎を抑制する. 第 179 回京都消化器病研究会（京都）, 2017.2.
- 2) 天ヶ瀬紀久子、小田垣真衣、金沙由理、茅 薇薈、松本健次郎、安井裕之、加藤伸一: ビスホスホネート系薬剤による消化管傷害における生体内微量金属とのキレート形成との関連. 京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「メタロミクス」成果発表会（京都）, 2017.5

臨床薬理学

論 文

- 1) Makoto Ohigashi, Miyuki Kobara, Tamotsu Takahashi, Hiroe Toba, Takehiko Wada, and Tetsuo Nakata: Pitavastatin suppresses hyperglycaemia-induced podocyte injury via bone morphogenetic protein-7 preservation. *Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.*, **44**, 378-385 (2017) .
- 2) Hiroe Toba, Presley L. Cannon, Andriy Yabluchanskiy, Rugmani Padmanabhan Iyer, Jeanine D'Armiento, and Merry L. Lindsey: Transgenic overexpression of macrophage matrix metalloproteinase-9 exacerbates age-related cardiac hypertrophy, vessel rarefaction, inflammation, and fibrosis. *Am. J. Physiol. Heart. Circ. Physiol.*, **312**, H375-H383 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) Miyuki Kobara, Yuusuke Watanabe, Naseratun Nessa, Hiroe Toba, and Tetsuo Nakata: Nicorandil suppresses ischemia-induced cardiac interstitial norepinephrine enhancement and ventricular arrhythmia in normal and hypertrophic hearts. 第 81 回日本循環器学会学術集会 (金沢) , 2017. 3.
- 2) Hiroe Toba, Tomoka Suzuki, Akari Yoshikawa, Tomoki Noutomi, Yukari Mino, Shiho Ishikawa, Nanako Toda, Kouki Sugino, Naseratun Nessa, Yuusuke Watanabe, Miyuki Kobara, and Tetsuo Nakata: A disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin type I motif (ADAMTS1) causes renal fibrosis in deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats. 27th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection (Milan, Italy) , 2017.6.
- 3) 鳥羽裕恵、渡部裕介、Naseratun Nessa、小原 幸、中田徹男: ADAMTS1 は DOCA 食塩負荷高血圧ラットの腎臓で線維化を促進させる. 第 40 回日本高血圧学会総会 (愛媛) , 2017. 10.
- 4) 小原 幸、渡部裕介、Naseratun Nessa、鳥羽裕恵、中田徹男: 高血圧性肥大心モデルラットの心筋梗塞後リモデリングに対する Ca 拮抗薬の影響. 第 40 回日本高血圧学会総会 (愛媛) , 2017. 10.
- 5) 渡部裕介、鳥羽裕恵、Naseratun Nessa、小原 幸、中田徹男: ADAMTS1 は DOCA 食塩負荷高血圧ラットの腎臓で線維化を促進させる. 第 27 回日本循環薬理学会 (名古屋) , 2017. 12.

その他

- 1) 小原 幸: プロジェクト参画研究者による成果発表. 京都薬科大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「メタロミクス」成果発表会（京都）, 2017. 5.
- 2) 中田徹男、渡部裕介、Naseratun Nessa、大東 誠、鳥羽裕恵、小原 幸: DOCA 食塩負荷高血圧モデルラットにおける Flaxseed の降圧、腎保護効果について. 第 7 回食品薬学シンポジウム（京都）, 2017. 10.
- 3) 中田徹男: 4 大学連携による共同研究（28 年度実施分）成果発表 健康の維持・増進研究グループ「循環器疾患の予防をめざした適塩和食の推進～基礎から応用実践まで～ 課題 2 病態モデル動物における自然食品の脳心腎保護効果に対する検討」. 平成 29 年度 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017. 11.

薬理学

著 書

- 1) 大矢 進: 第III部 感覚器・皮膚の疾患と薬 第10章 化学構造と薬効 SBO34, スタンダード薬学シリーズ6 II 医療薬学III. 薬理・病態・薬物治療(3), 公益社団法人 日本薬学会, pp. 200-205 (2017) .

論 文

- 1) Mayu Fujimoto, Takahiro Inoue, Hiroaki Kito, Satomi Niwa, Takayoshi Suzuki, Katsuhiko Muraki, Susumu Ohya: Transcriptional repression of HER2 by ANO1 Cl⁻ channel inhibition in human breast cancer cells with resistance to trastuzumab, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **482**, 188-194 (2017) .
- 2) Katsuhito Matsuki, Masashi Takemoto, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Hiroshi Takeshima, Yuji Imaizumi: Ryanodine receptor type 3 does not contribute to contractions in the mouse myometrium regardless of pregnancy, *Pflugers Arch.*, **469**, 313-326 (2017) .
- 3) Kazuho Sakamoto, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Susumu Ohya, Katsuhiko Muraki, Yuji Imaizumi: Molecular mechanisms underlying pimaric acid-induced modulation of voltage-gated K⁺ channels, *J. Pharmacol. Sci.*, **133**, 223-231 (2017) .
- 4) Vincenzo Barrese, Pilar Cidad, Shuk Y. Yeung, Jose R. López-López, Alister J. McNeish, Susumu Ohya, Maria T. Pérez-García, Iain A. Greenwood: Proliferative role of Kv11 channels in murine arteries, *Front. Physiol.*, **8**, 500 (2017) .
- 5) Kazunobu Ogiwara, Susumu Ohya, Yoshiaki Suzuki, Hisao Yamamura, Yuji Imaizumi: Up-regulation of the voltage-gated K_v2.1 K⁺ channel in the renal arterial myocytes of Dahl salt-sensitive hypertensive rats, *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 1468-1474 (2017) .

総 説

- 1) 藤井正徳: ヘアレスマウスにおける食餌誘発アトピー性皮膚炎の発症要因の解明, *YAKUGAKU ZASSHI*, **137** (1), 49-54 (2017) .
- 2) Satomi Niwa, Anowara Khatun, Susumu Ohya: Potassium ion channels as novel therapeutic targets for the treatment of advanced and castration-resistant prostate cancers, *JAS4QoL*, **3** (1), 1-5 (2017) .

- 3) 藤井正徳: 飲酒と痒み, *J Visual Dermatol*, **16**, 1089 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 遠藤京子, たぎし和隆, 清水彩夏, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 大矢 進: マウス活性化CD4陽性T細胞におけるpre-mRNAスプライシング阻害剤pladienolide Bによるtwo-pore型K⁺チャネルK_{2P}5.1発現・活性制御. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 2) 松井未来, 寺澤杏子, 村岸沙也加, 村瀬実希, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 鈴木孝禎, 大矢 進: マウスCD4陽性T細胞におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害によるCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1転写抑制. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 3) 鬼頭宏彰, 森広晴香, 川岸怜子, 榊原侑香, 大矢 進: 骨芽細胞の細胞増殖に対するCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1の寄与. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 4) 鈴木良明, 大矢 進, 山村寿男, Giles Wayne, 今泉祐治: BKチャネルαサブユニット新規スプライスバリアント体による軟骨細胞機能の修飾. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 5) 大矢 進: 炎症性腸疾患モデルのT細胞機能におけるカリウムチャネルの病態生理学的役割. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 6) 藤本万由, 井上隆浩, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 鈴木孝禎, 村木克彦, 大矢 進: ヒト乳癌細胞におけるCa²⁺活性化Cl⁻チャネルANO1阻害によるHER2転写抑制. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 7) Khatun Anowara, 下澤 基, 升野祐里, 中園裕利華, 丹羽里実, 鬼頭宏彰, 藤本万由, 大矢 進: ヒト乳癌細胞における抗アンドロゲン剤によるCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}1.1発現・活性制御. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 8) 松木克仁, 加藤大樹, 竹本将士, 鈴木良明, 山村寿男, 大矢 進, 竹島 浩, 今泉祐治: 腸間膜血管平滑筋に対する3型リアノジン受容体の機能的役割. 第90回日本薬理学会年会（長崎）, 2017.3.
- 9) 田中 涼, たぎし和隆, 清水彩夏, 遠藤京子, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 藤井正徳, 大矢 進: 活性化T細胞におけるpre-mRNAスプライシング阻害剤によるカリウムチャネルK_{2P}5.1発現・活性制御. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.

- 10) 寺澤杏子, 松井未来, 村岸沙也加, 村瀬実希, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 鈴木孝禎, 大矢 進: マウスT細胞におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害によるカルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}3.1転写抑制. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 11) 下澤 基, Anowara Khatun, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 升野祐里, 中園裕利華, 大矢 進: ヒト乳癌細胞における抗アンドロゲン剤によるカルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}1.1活性制御. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 12) 鬼頭宏彰, 森広晴香, 川岸怜子, 榊原侑香, 大矢 進: 前骨芽細胞の細胞増殖における中コンダクタンスCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1の役割. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 13) Anowara Khatun, 藤本万由, 丹羽里実, 鬼頭宏彰, 鈴木孝禎, 大矢 進: 乳癌細胞におけるビタミンD受容体を介したカルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}1.1発現・活性制御. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 14) 大矢 進, カトゥン アノワラ, 藤本万由, 丹羽里実, 鬼頭宏彰, 鈴木孝禎: 乳癌細胞におけるビタミンD受容体アゴニストによるCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}1.1発現・活性制御機構の解明. 第94回日本生理学会大会（浜松）, 2017.3.
- 15) 鬼頭宏彰, 森広晴香, 川岸怜子, 榊原侑香, 大矢 進: 骨芽細胞の細胞周期進行に対するCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1の寄与. 第94回日本生理学会大会（浜松）, 2017.3.
- 16) 松井未来, 寺澤杏子, 村岸沙也加, 村瀬実希, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 藤井正徳, 鈴木孝禎, 大矢 進: ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤によるCD4陽性T細胞カルシウム活性化カリウムチャネルの転写・活性抑制. 第131回日本薬理学会近畿部会（名古屋）, 2017.6.
- 17) 鬼頭宏彰, 森広晴香, 川岸怜子, 榊原侑香, 大矢 進: マウス前骨芽細胞におけるビタミンD受容体を介したCa²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}3.1の活性制御. 第131回日本薬理学会近畿部会（名古屋）, 2017.6.
- 18) 藤本万由, 井上隆浩, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 村木克彦, 大矢 進: ヒト乳癌細胞増殖におけるクロライドチャネルの役割とクロライドチャネル阻害によるHER2転写抑制. 第131回日本薬理学会近畿部会（名古屋）, 2017.6.
- 19) 遠藤京子, 川田希帆, 大和優介, 佐藤寿史, 鬼頭宏彰, 大矢 進: pH感受性カリウムチャネルK_{2P}5.1結合タンパクCD81の同定とCD81によるK_{2P}5.1機能制御. 生体機能と創薬シンポジウム 2017（京都）, 2017.8.

- 20) 鬼頭宏彰, 森広晴香, 川岸怜子, 榊原侑香, 大矢 進: マウス前骨芽細胞におけるビタミンD受容体を介した中コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル $\text{K}_{\text{Ca}}3.1$ の活性制御. 生体機能と創薬シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 21) 大矢 進: 炎症性疾患の創薬標的としてのカリウムチャネル. 生体機能と創薬シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 22) 安井悠真, 渡辺保志, 大矢 進, 藤井正徳: C57BL/6マウスを用いた慢性搔痒モデルの確立. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 23) 小林周平, 山田由芽香, 松井利江子, 大矢 進, 藤井正徳: アトピー性皮膚炎マウス由来表皮細胞におけるTSLP過剰産生機構の解析. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 24) 川口真由, Anowara Khatun, 下澤 基, 藤本万由, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 大矢 進: 乳癌細胞におけるアンドロゲン受容体を介したカルシウム活性化カリウムチャネル $\text{K}_{\text{Ca}}1.1$ の発現・活性制御. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 25) 森広晴香, 鬼頭宏彰, 川岸怜子, 榊原侑香, 大矢 進: マウス前骨芽細胞におけるビタミンD受容体を介した Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル $\text{K}_{\text{Ca}}3.1$ の活性制御. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 26) 松井未来, 寺澤杏子, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 鈴木孝禎, 大矢 進: ヒストン脱アセチル化酵素によるCD4陽性T細胞カルシウム活性化カリウムチャネル転写・活性制御. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017（京都）, 2017.8.
- 27) 藤本万由, 鬼頭宏彰, 大矢 進: ヒト乳癌細胞増殖におけるHER2転写制御に対するクロライドチャネルの寄与. 第76回日本癌学会学術総会（横浜）, 2017.9.
- 28) 大矢 進, 藤本万由, 鬼頭宏彰: 乳癌細胞における抗アンドロゲン剤によるカルシウム活性化カリウムチャネル $\text{K}_{\text{Ca}}1.1$ 発現抑制. 第76回日本癌学会学術総会（横浜）, 2017.9.
- 29) 長谷川勇樹, 松井未来, 鬼頭宏彰, 大矢 進: ヒトリンパ球由来HUT-78細胞におけるカルシウム活性化カリウムチャネル $\text{K}_{\text{Ca}}3.1$ 活性化剤による抗炎症性サイトカインIL-10発現・產生抑制. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）, 2017.10.

- 30) 川口真由, Anowara Khatun, 下澤 基, 藤本万由, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 大矢 進: 乳癌細胞における抗アンドロゲン剤によるカルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}1.1活性抑制機構の解明. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）, 2017.10.
- 31) 藤井正徳: ヘアレスマウスにおける食餌誘発アトピー性皮膚炎の発症要因の解明－多価不飽和脂肪酸およびデンプン成分の欠乏ならびにヘアレス遺伝子低形質変異の関与－. 第67回日本薬学会近畿支部総会・大会（兵庫）, 2017.10.
- 32) Mirela Iodi Carstens, Taylor Follansbee, Earl Carstens, Tasuku Akiyama, Masanori Fujii, A.Davoodi, M. Nagamine: Effects of pruritogens and algogens on rostral ventromedial medullary (RVM) ON and OFF cells. 9th World Congress on Itch (WCI) (Wroclaw, Poland) . 2017.10.
- 33) Masanori Fujii, Taylor Follansbee, Yuma Yasui, Susumu Ohya, Mirela Iodi Carstens, Earl Carstens: Optogenetic activation of serotonergic (5-HT) neurons in the rostral ventromedial medulla (RVM) facilitates touch-evoked scratching in a diet-induced chronic dry skin mouse model. 9th World Congress on Itch (WCI) (Wroclaw, Poland) . 2017.10.
- 34) 藤井正徳, 梅原祐奈, 竹内雅史, 大矢 進: アトピー性皮膚炎マウスのphenobarbital誘発搔痒行動における脳内AMPA受容体の関与. 第27回国際痒みシンポジウム（東京）, 2017.11.
- 35) 藤井正徳, 浅野絵里香, 大神彩佳, 美琳都子, 渡辺保志, 大矢 進: アトピー性皮膚炎モデルマウスの搔痒様行動におけるallopregnanoloneの関与. 第132回日本薬理学会近畿部会（大阪）, 2017.11.
- 36) Anowara Khatun, 下澤 基, 鬼頭宏彰, 川口真由, 藤本万由, 丹羽里実, 藤井正徳, 大矢 進: Protein degradation of K_{Ca}1.1 K⁺ channel by androgen receptor inhibition in breast cancer cells. 第132回日本薬理学会近畿部会（大阪）, 2017.11.
- 37) 藤井正徳, 松尾未希, 石原慶一, 安井裕之, 大矢 進: アトピー性皮膚炎モデルマウス皮膚におけるリンおよび鉄の増加: 第5回メタロミクス研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 38) 遠藤京子, 黒川なつ美, たぎし和隆, 清水彩夏, 鬼頭宏彰, 丹羽里実, 藤井正徳, 大矢 進: two-pore型カリウムチャネルK_{2P}5.1スプライスバリエントの同定と活性化Tリンパ球におけるpre-mRNAスプライシング阻害剤によるK_{2P}5.1活性抑制. 2017年度生命科学系学会合同年次大会(ConBio2017) (神戸) , 2017.12.

- 39) 大矢 進, 藤本万由, 鬼頭宏彰, 遠藤京子, 松井未来, 丹羽里実: 乳癌細胞におけるクロライドチャネル阻害によるヒト上皮成長因子受容体HER2転写抑制. 2017年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017) (神戸), 2017.12.
- 40) Miki Matsui, Susumu Ohya: The role of Ca^{2+} -activated K^+ channel $\text{K}_{\text{Ca}}3.1$ in mesenteric lymph node CD4 $^+$ T cells of chemically-induced murine inflammatory bowel disease model. 第46回日本免疫学会 学術集会 (仙台), 2017.12.

その他

- 1) 丹羽里実: ホップ・ステップ・ジャンプで進めるがん治療の薬薬連携セミナー～明日から処方の見方が変わる～: セミナー運営協力. 日本臨床腫瘍薬学会 (大阪), 2017.2.
- 2) 丹羽里実: 第1回がん薬物療法のための地域連携講習会～基礎編①～: 講習会運営協力. 一般社団法人 京都府薬剤師会 薬剤業務委員会 共催 日本臨床腫瘍薬学会 (京都), 2017.7
- 3) 鬼頭宏彰, 森広晴香, 川岸怜子, 柳原侑香, 大矢 進: マウス前骨芽細胞におけるビタミンD受容体を介した中コンダクタンス Ca^{2+} 活性化 K^+ チャネル $\text{K}_{\text{Ca}}3.1$ の活性制御. 2017年度 (平成29年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 4) 宮川亮祐, 鬼頭宏彰, 柳原侑香, 大矢 進: マウス前骨芽細胞における内向き整流性 K^+ チャネル Kir2.1を介した細胞分化制御. 2017年度 (平成29年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」 Annual Meeting (京都), 2017.9.
- 5) 丹羽里実: 第2回がん薬物療法のための地域連携講習会～基礎編②～: 講習会運営協力. 一般社団法人 京都府薬剤師会 薬剤業務委員会 共催 日本臨床腫瘍薬学会 (京都), 2017.9.
- 6) 丹羽里実: 第1回山科の地域連携研修会～がん薬物療法編～「これからの地域連携をみんなで考えよう！」: 研修会講師. 京都府薬剤師会、山科薬剤師会 (京都), 2017.11.
- 7) 櫻井千浩, 中嶋雅幸, 藤井正徳: 慢性の痒みを特徴とするアトピー性皮膚炎マウスモデルの作成. 第7回 4大学連携研究フォーラム (京都), 2017.11.
- 8) 丹羽里実: ホップ・ステップ・ジャンプで進めるがん治療の薬薬連携セミナー症例を通じて学ぶ～治療選択、副作用の評価と対策、薬薬連携まで～: セミナー運営協力. 日本臨床腫瘍薬学会 (東京), 2017.11.

- 9) 藤井正徳: 評価者 薬学共用試験OSCE. 同志社女子大学（京都）, 2017.12.

臨床腫瘍学

論 文

- 1) Takeshi Okuda, Takayuki Tasaki, Susumu Nakata, Kimihiro Yamashita, Hiromasa Yoshioka, Shuichi Izumoto, Amami Kato, Mitsugu Fujita: Efficacy of Combination Therapy with MET and VEGF Inhibitors for MET-overexpressing Glioblastoma, *Anticancer Research*, **37**, 3871-3876 (2017) .
- 2) Natsuki Imayoshi, Makoto Yoshioka, Jay Chauhan, Susumu Nakata, Yuki Toda, Steven Fletcher, Jefferey W. Strovel, Kazuyuki Takata, Eishi Ashihara: CG13250, a novel bromodomain inhibitor, suppresses proliferation of multiple myeloma cells in an orthotopic mouse model, *Biochemical and Biophysical Research Communications*, **484**, 262-268 (2017) .
- 3) Taku Yoshiya, Hiromi Ii, Shugo Tsuda, Masayoshi Mochizuki, Susumu Kageyama, Tatsuhiro Yoshiki: Design of fluorogenic probes and fluorescent-tagged inhibitors for γ -glutamyl cyclotransferase, *J Pept Sci.*, **23**, 618-623 (2017) .

総 説

- 1) Mitsugu Fujita, Susumu Nakata: The immunological significance of chemokines and integrins in central nervous system tumors, *Journal of Advances in Oncology*, **1**, 1005-1009 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) Kengo Matsumura, Susumu Nakata, Keiko Taniguchi, Hiromi Ii, Eishi Ashihara, Susumu Kageyama, AkihiroKawauchi, Tatsuhiro Yoshiki: The depletion of γ -glutamylcyclotranferase induces cellular senescence and cell death via CDKIs upregulation. The 5th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals (大阪) , 2017.3.
- 2) 松村健吾: 新規がん標的分子C7orf24の研究を通して伝えたいこと～薬剤師が学位を取得する意義～. 日本臨床腫瘍学会学術大会（新潟）, 2017.3.
- 3) 谷口恵香, 中田晋, 松村健吾, 飯居宏美, 影山進, 河内明宏, 吉貴達寛: Gamma-glutamylcyclotransferase (GGCT) の発現低下は乳癌細胞にオートファジーを誘導する. 日本薬学会第137年会（仙台）, 2017.3.
- 4) 藤田貢, 田崎貴之, 奥田武司, 米重あづさ, 中田晋: グリオーマ幹細胞における薬剤排出分子 ABCG2 の役割. 第27回日本サイトメトリー学会学術集会（神戸）, 2017.6.
- 5) 飯居宏美, 中田晋, 谷口恵香, 影山進, 吉貴達寛: 担癌マウスにおける γ -グルタミルシクロトランスクエ

ラーゼ阻害剤の抗腫瘍効果. 第 76 回 日本癌学会学術総会 (横浜) , 2017.9.

- 6) 谷口恵香, 中田晋, 松村健吾, 飯居宏美, 影山進, 河内明宏, 吉貴達寛: γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ (GGCT) の発現低下はオートファジーを介して細胞老化を誘導する. 第 76 回 日本癌学会学術総会 (横浜) , 2017.9.
- 7) 茂山千愛美, 藤田貢, 飯居宏美, 谷口恵香, 吉貴達寛, 中田晋: Stat5b は発がんマウスモデル由来膠芽腫幹様細胞の増殖促進に寄与している. 第 76 回 日本癌学会学術総会 (横浜) , 2017.9.
- 8) 高木寛子, 飯居宏美, 中田晋, 吉貴達寛 : γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ阻害剤のがん細胞増殖抑制機構の解析に基づくドキソルビシン併用効果に関する研究. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会. (神戸) , 2017.10.

その他

- 1) 松村健吾: 新規 GGCT 結合蛋白 Phb2 による CDKI 発現調節と細胞老化: 活動報告. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議 (京都) , 2017.1.
- 2) 中田晋, 小島直人: マウス脳腫瘍幹細胞を用いたアセトゲニン誘導体がん治療薬の開発: 口頭発表. 「2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 3) 中田晋, 鬼頭宏彰: マウス膠芽腫由来幹細胞に対する分化誘導薬剤の探索: ポスター発表. 「2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 4) 茂山千愛美, 中田晋: マウスモデルから樹立した膠芽腫幹細胞における β -catenin の機能解析: ポスター発表. 「2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立 Annual Meeting (京都) , 2017.9.

薬 剂 学

著 書

- 1) 森下将輝、西川元也、高橋有己、高倉喜信: 第2編 機能研究 第6章 創薬～DDS/新規バイオマーカー～第5節 エクソソームを基盤とした核酸医薬品のための DDS の開発。パラダイムシフトをもたらすエクソソーム機能研究最前線, 落谷孝広監, pp. 227-233, エヌ・ティー・エス (2017) .
- 2) 山本 昌: 第6章 薬物の生体内動態 6-1 薬物の生体膜透過機構および吸収 A. 薬物の生体膜透過機構 B. 薬物の消化管吸収 C. 薬物の消化管吸収に影響する要因、第7章 ドラッグデリバリーシステム A. ドラッグデリバリーシステムの概念 B. 薬物吸収の制御. 製剤学(改訂第7版), 山本 昌、岡本浩一、尾関哲也編, pp. 260-272, 423-434, 南江堂 (2017) .
- 3) 勝見英正: 第7章 ドラッグデリバリーシステム C. 薬物放出の制御 D. 薬物標的指向の制御. 製剤学(改訂第7版), 山本 昌、岡本浩一、尾関哲也編, pp. 435-452, 南江堂 (2017) .
- 4) 権 英淑、神山文男、勝見英正、山本 昌: 第4章 効型・投与経路開発による病院から選ばれる医薬品開発 第9節 マイクロニードルを用いた薬剤投与法開発. 製剤・包装の改良・工夫点と病院から選ばれる医薬品開発, 技術情報協会編, pp. 334-339, 技術情報協会 (2017) .
- 5) 勝見英正: 第12章 吸入剤、第13章 ドラッグデリバリーシステム (DDS) . 製剤学・物理薬剤学, 坂根稔康、唐澤 健、栄田敏之編, pp. 271-282, pp. 283-306, 廣川書店 (2017) .
- 6) 森下将輝、高橋有己、高倉喜信: 第1章 ナノ DDS・リポソーム DDS の医薬品応用 第6節 エクソソームを活用した DDS 技術の開発. DDS 先端技術の製剤への応用開発, 技術情報協会編, pp. 45-50, 技術情報協会 (2017) .
- 7) 草森浩輔、西川元也、高橋有己、山本 昌、高倉喜信: 第4章 核酸医薬品・遺伝子治療への応用を目的とした DDS の開発 第10節 細胞治療への DDS 技術の応用. DDS 先端技術の製剤への応用開発, 技術情報協会編, pp. 233-241, 技術情報協会 (2017) .
- 8) 勝見英正、山本 昌: 第6章 病変部位・臓器をターゲットとした DDS の具体的応用事例 第2節 骨をターゲットとした DDS. DDS 先端技術の製剤への応用開発, 技術情報協会編, pp. 331-336, 技術情報協会 (2017) .
- 9) 勝見英正、山本 昌: 第7章 工業利用 7-3 医薬・化成品部門分野 7-3-4 ビスホスホネート. リンの事典, 大竹久夫編, pp. 256-257, 朝倉書店 (2017) .

- 10) Hidemasa Katsumi, Ying-shu Quan, Fumio Kamiyama, Akira Yamamoto: Chapter23 Related topic: Development of a transdermal drug delivery system using self-dissolving microneedle arrays fabricated with hyaluronic acid. *Skin permeation and disposition of therapeutic and cosmeceutical compounds*, Kenji Sugiyama (eds.) , pp. 273-280, Springer (2017) .

論 文

- 1) Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Manami Tomisaki, Mayuko Kawakami, Shunsuke Kimura, Daisuke Inoue, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Nasal drug absorption from powder formulations: The effect of three types of hydroxypropyl cellulose (HPC). *Eur. J. Pharm. Sci.*, **96**, 284-289 (2017).
- 2) Akihiro Matsumoto, Yuki Takahashi, Makiya Nishikawa, Kohei Sano, Masaki Morishita, Chonlada Charoenviriyakul, Hideo Saji, Yoshinobu Takakura: Role of phosphatidylserine-derived negative surface charges in the recognition and uptake of intravenously injected B16BL6-derived exosomes by macrophages. *J. Pharm. Sci.*, **106**, 168-175 (2017).
- 3) Chonlada Charoenviriyakul, Yuki Takahashi, Masaki Morishita, Akihiro Matsumoto, Makiya Nishikawa, Yoshinobu Takakura: Cell type-specific and common characteristics of exosomes derived from mouse cell lines: Yield, physicochemical properties, and pharmacokinetics. *Eur. J. Pharm. Sci.*, **96**, 316-322 (2017).
- 4) Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Yuki Enomura, Tomoki Hori, Rina Shimomura, Chiaki Maeda, Shunsuke Kimura, Daisuke Inoue, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Nasal drug absorption from powder formulations: Effect of fluid volume changes on the mucosal surface. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 212-219 (2017).
- 5) Tomoko Nishikawa, Yutaro Tanaka, Makiya Nishikawa, Yuka Ogino, Kosuke Kusamori, Narumi Mizuno, Yuya Mizukami, Kazunori Shimizu, Satoshi Konishi, Yuki Takahashi, Yoshinobu Takakura: Optimization of albumin secretion and metabolic activity of cytochrome P450 1A1 of human hepatoblastoma HepG2 cells in multicellular spheroids by controlling spheroid size. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 334-338 (2017).
- 6) Akihiro Matsumoto, Yuki Takahashi, Makiya Nishikawa, Kohei Sano, Masaki Morishita, Chonlada Charoenviriyakul, Hideo Saji, Yoshinobu Takakura: Accelerated growth of B16BL6 tumor in mice through efficient uptake of their own exosomes by B16BL6 cells. *Cancer Sci.*, **108**, 1803-1810 (2017).
- 7) Tomoko Nishikawa, Yutaro Tanaka, Kosuke Kusamori, Narumi Mizuno, Yuya Mizukami, Yuka Ogino, Kazunori Shimizu, Satoshi Konishi, Yuki Takahashi, Yoshinobu Takakura, Makiya Nishikawa: Using

- size-controlled multicellular spheroids of murine adenocarcinoma cells efficiently establish pulmonary tumors in mice. *Biotechnol. J.*, **12**, 201600513 (2017).
- 8) Hidemasa Katsumi, Yutaro Tanaka, Kaori Hitomi, Shu Liu, Ying-shu Quan, Fumio Kamiyama, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Efficient transdermal delivery of alendronate, a nitrogen-containing bisphosphonate, using tip-loaded self-dissolving microneedle arrays for the treatment of osteoporosis. *Pharmaceutics*, **9**, E29 (2017).
- 9) Shugo Yamashita, Hidemasa Katsumi, Nozomi Hibino, Yugo Isobe, Yumiko Yagi, Kosuke Kusamori, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Development of PEGylated carboxylic acid-modified polyamidoamine dendrimers as bone-targeting carriers for the treatment of bone diseases. *J. Control. Release*, **262**, 10-17 (2017).
- 10) Masashi Adachi, Yuta Hinatsu, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Manabu Nakatani, Koichi Wada, Akira Yamamoto: Effects of manufacturing methods on dissolution and absorption of ketoconazole in the presence of organic acid as a pH modifier. *AAPS Pharm. Sci. Tech.*, **18**, 1203-1212 (2017).
- 11) Hailong Zhang, Xiaoyan Huang, Jianmei Sun, Akira Yamamoto, Yang Gao: Enhanced pulmonary bioavailability of curcumin by some common excipients and relative therapeutic effects on sepsis-induced acute lung injury in rats. *J. Drug Deliv. Sci. Tech.*, **41**, 231-238 (2017) .
- 12) Masaki Morishita, Yuki Takahashi, Makiya Nishikawa, Reiichi Ariizumi, Yoshinobu Takakura: Enhanced class I tumor antigen presentation via cytosolic delivery of exosomal cargos by tumor-cell-derived exosomes displaying a pH-sensitive fusogenic peptide. *Mol. Pharm.*, **14**, 4079-4086 (2017) .
- 13) Xinpeng Li, Ami Kawamura, Yusuke Sato, Masaki Morishita, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Improvement of the solubility and intestinal absorption of curcumin by *N*-acyl taurates and elucidation of the absorption-enhancing mechanisms. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 2175-2182 (2017) .
- 14) Kentaro Takayama, Kenji Mori, Akiko Tanaka, Erina Nomura, Yuko Sohma, Miwa Mori, Akihiro Taguchi, Atsuhiko Taniguchi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto, Naoto Minamino, Mikiya Miyazato, Kenji Kangawa, Yoshio Hayashi: Discovery of a human neuromedin U receptor 1-selective hexapeptide agonist with enhanced serum stability. *J. Med. Chem.*, **60**, 5228-5234 (2017) .
- 15) Yukiya Takayama, Kosuke Kusamori, Mika Hayashi, Noriko Tanabe, Satoru Matsuura, Mari Tsujimura,

Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Makiya Nishikawa, Akira Yamamoto: Long-term drug modification to the surface of mesenchymal stem cells by the avidin-biotin complex method. *Sci. Rep.*, 7, 16953 (2017) .

総 説

- 1) 山本 昌、勝見英正、草森浩輔、坂根稔康: シンポジウム 1 糖尿病治療薬開発を支える創剤技術の最前線 ヒアルロン酸を素材とする溶解型マイクロニードルを利用した糖尿病治療薬の経皮吸収性の改善. *ぐすりと糖尿病*, 6, 29-33 (2017) .
- 2) Masaki Morishita, Yuki Takahashi, Makiya Nishikawa, Yoshinobu Takakura: Pharmacokinetics of exosomes-an important factor for elucidating the biological roles of exosomes and for the development of exosome-based therapeutics. *J. Pharm. Sci.*, 106, 2265-2269 (2017) .
- 3) 勝見英正、権 英淑、神山文男、山本 昌: マイクロニードルの製剤学的特徴と経皮吸収促進法としての利用. *オレオサイエンス*, 17, 567-574 (2017) .
- 4) 山本 昌: ペプチド・タンパク性医薬品の消化管ならびに経粘膜吸収性の改善. *ペプチド医薬品のスクーリーニング・安定化・製剤化技術*, 技術情報協会編, pp. 239-247, 技術情報協会 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 辻村真里、草森浩輔、西川元也、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 細胞自殺を応用した生体内における移植細胞の増殖制御. 第 16 回日本再生医療学会総会 (仙台) , 2017.3.
- 2) 草森浩輔、高山幸也、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: アビジンービオチン法を用いた間葉系幹細胞への長期的な化合物修飾とがん治療への応用. 第 16 回日本再生医療学会総会 (仙台) , 2017.3.
- 3) 木村峻輔、喜里山暁子、加藤萌音、西村英里香、坂田詩織、荒木加永子、榎村眞一、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌、伊賀勝美: 新規生体膜透過機構に基づいた難水溶性薬物クリクミンの吸収性改善. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 4) 田中晶子、新井真理、井上大輔、吉林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Oxytocin の鼻腔内投与: 直接移行経路を介した脳内送達の可能性. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 5) 坂根稔康、田中晶子、竹村友希、前田千晶、湯谷玲子、寺岡麗子、武田康嗣、高山健太郎、草森

- 浩輔、勝見英正、林 良雄、山本 昌: 鼻腔内投与による生理活性ペプチド CPN-116 の脳内送達. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 6) 古林呂之、井上大輔、田中晶子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌、坂根稔康: 各種培養細胞系の薬物経鼻吸収性評価に対する適合性比較. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 7) Sawangrat Kasirawat、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Effects of various pharmaceutical excipients on the intestinal transport and absorption of sulfasalazine, a typical BCRP substrate. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 8) 堀 香輔、勝見英正、杉浦真優、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌: 高分子型硫化水素供与体の開発と酸化ストレス疾患治療への応用. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 9) 新井真理、田中晶子、井上大輔、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Oxytocin の鼻腔内投与 : 直接移行経路を介した脳内送達の可能性. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 10) 近藤綾香、杉本寛明、倉谷千愛、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: 片頭痛治療薬スマトリプタンの経肺吸収性の評価ならびに吸収促進剤による吸収性の改善. 日本薬剤学会第 32 年会(さいたま), 2017.5.
- 11) 河添有宏、越智万優子、荻山鈴菜、荒田竜佑、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: Rhodamine123 及びその誘導体の消化管粘膜透過特性ならびに P-糖タンパク質の基質認識性との関連性の評価. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 12) 面川 杏、山口初美、木村真子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: 各種有機酸によるアレンドロネートの消化管吸収性の改善ならびに吸収促進機構の解明. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 13) 安田有沙、鏡 朱里、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: MRP の基質となる薬物の消化管吸収性に及ぼす各種製剤添加物の影響. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 14) 井上大輔、田中晶子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌、坂根稔康、古林呂之: 経鼻投与後の Caffeine の脳内移行に対する Glymphatic System の影響. 日本薬剤学会第 32 年会 (さいたま) , 2017.5.
- 15) 山本 昌、中矢有華、高屋麻由、日夏優太、西駄文香、金田彩花、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康: N-アシルアミノ酸塩及び N-アシルタウリン塩によるアレンドロネートの消化管吸収性の改善

- ならびに吸収促進機構の解明. 日本薬剤学会第32年会（さいたま）, 2017.5.
- 16) 田中晶子、巽 恒太、井上大輔、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 鼻腔内投与された薬物の脳移行性評価: 薬物物性と投与剤形との関係. 日本薬剤学会第32年会（さいたま）, 2017.5.
- 17) 古林呂之、井上大輔、田中晶子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌、坂根稔康: 薬物の経鼻吸収性予測におけるヒト呼吸器系初代培養細胞の適合性. 日本薬剤学会第32年会（さいたま）, 2017.5.
- 18) Hidemasa Katsumi, Shoko Maruyama, Kosuke Kusamori, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Pharmacokinetics and preventive effects of platinum nanoparticles as reactive oxygen species scavengers on hepatic metastasis. 6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress 2017 (Stockholm, Sweden) , 2017. 5.
- 19) Akiko Tanaka, Chiaki Maeda, Mayumi Amano, Kentaro Takayaka, Yoshio Hayashi, Daisuke Inoue, Tomoyuki Furubayashi, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Transnasal delivery of the peptide to the brain. 6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress 2017 (Stockholm, Sweden) , 2017. 5.
- 20) Shugo Yamashita, Hidemasa Katsumi, Nozomi Hibino, Yugo Isobe, Yumiko Yagi, Yuka Tanaka, Saki Yamada, Kosuke Kusamori, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto: Development of pegylated aspartic acid modified liposome as a bone-targeting carrier for the delivery of paclitaxel and treatment of bone metastasis. 6th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress 2017 (Stockholm, Sweden) , 2017. 5.
- 21) 井上大輔、岡田 実、田中晶子、勝見英正、山本 昌、坂根稔康、古林呂之: 薬物の経鼻吸収性予測システムの構築: 培養細胞評価系による *in vivo* 鼻粘膜透過性の推定. 医療薬学フォーラム 2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム（鹿児島）, 2017.7.
- 22) 田中晶子、前田千晶、天野真弓、高山健太郎、井上大輔、古林呂之、勝見英正、坂根稔康、林 良雄、山本 昌: 鼻腔内投与による生理活性ペプチド CPN-116 の脳内送達. 医療薬学フォーラム 2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム（鹿児島）, 2017.7.
- 23) 古林呂之、井上大輔、田中晶子、勝見英正、山本 昌、湯谷玲子、寺岡麗子、坂根稔康: 経鼻ルートを介した薬物の頸部リンパ節ターゲティングと速度論的動態解析. 医療薬学フォーラム 2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム（鹿児島）, 2017.7.
- 24) 宮崎愛梨、草森浩輔、辻村真里、西川元也、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 安全な細胞移植治療

- を目的とした自殺遺伝子による細胞増殖制御法の確立. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 25) 杉本寛明、近藤綾香、倉谷千愛、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: 片頭痛治療薬スマトリプタンの経肺吸収性の評価ならびに吸収促進剤による吸収性の改善. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 26) 越智万優子、河添有宏、荻山鈴菜、荒田竜佑、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: Rhodamine123 及びその誘導体の消化管粘膜透過特性ならびに P-糖タンパク質の基質認識性との関連性の評価. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 27) 山口初美、面川 杏、木村真子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: 各種有機酸によるアレンドロネートの消化管吸収性の改善ならびに吸収促進機構の解明. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 28) Chonlada Charoenviriyakul、高橋有己、森下将輝、西川元也、高倉喜信: Gap タンパクを利用した細胞外小胞の内部標識法の開発と体内動態評価への利用. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 29) 有泉伶一、森下将輝、高橋有己、西川元也、高倉喜信: エンドソーム脱出型癌細胞由来 exosome の開発による癌抗原のMHCクラスI提示の増強. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 30) 松浦 悟、勝見英正、鈴木宏枝、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌: アミノ酸修飾を利用した腎ターゲティング型高分子キャリアの創製. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 31) 山下修吾、勝見英正、磯部友吾、矢木夕美子、田中佑果、山田沙季、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌: アスパラギン酸修飾を利用した骨ターゲティング型ナノ粒子の開発及び癌骨転移治療への応用. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 32) 井上大輔、田中晶子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌、坂根稔康、古林呂之: 鼻腔内投与による脳への薬物送達II: Glymphatic System の影響. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 33) 田中晶子、新井真理、井上大輔、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: Oxytocin の鼻腔内投与: 直接移行経路を介した脳内送達の可能性. 第33回日本DDS学会学術集会(京都), 2017.7.
- 34) 泉 なな、井上大輔、森山 圭、田中晶子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌、坂根稔康、古林呂之: ラ

- マン分光法を利用した粉末状薬物の経鼻吸収性推定法の構築. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 (京都) , 2017.7.
- 35) 異 恒太、田中晶子、井上大輔、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 鼻腔一脳間の直接的薬物移行経路を介した薬物の脳移行性: 薬物物性と投与剤形との関係. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 (京都) , 2017.7.
- 36) 安田有沙、鏡 朱里、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: MRP の基質となる薬物の消化管吸収性に及ぼす各種製剤添加物の影響. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 (京都) , 2017.7.
- 37) 天野真弓、田中晶子、高山健太郎、井上大輔、古林呂之、草森浩輔、勝見英正、坂根稔康、林 良雄、山本 昌: 鼻腔内投与によるニューロメジン誘導体の脳内送達: 新規肥満治療法の開発. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 (京都) , 2017.7.
- 38) 西駄文香、高屋麻由、今西絢子、朝倉萌々子、草森浩輔、勝見英正、山本 昌: Poly-L-ornithine による難吸収性薬物の消化管吸収性の改善ならびに吸収促進機構の解明. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 (京都) , 2017.7.
- 39) 月森千尋、草森浩輔、高山幸也、西川元也、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: ドキソルビシン封入リポソーム修飾による間葉系幹細胞の機能化とがん治療への応用. 第 33 回日本 DDS 学会学術集会 (京都) , 2017.7.
- 40) 堀 香輔、勝見英正、杉浦真優、山本 昌: 高分子型硫化水素供与体の開発と酸化ストレス疾患治療への応用. 第 26 回 DDS カンファランス (静岡) , 2017.9.
- 41) 松浦 悟、勝見英正、鈴木宏枝、山本 昌: セリン修飾を利用した新規腎ターゲティング型高分子キャリアの創製. 第 26 回 DDS カンファランス (静岡) , 2017.9.
- 42) 田中晶子、古林呂之、井上大輔、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 処方の最適化による粉末製剤化医薬品の経鼻吸収性の改善—製剤添加物による吸収性の精密制御の可能性—. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017.10.
- 43) 田中佑果、勝見英正、磯部友吾、矢木夕美子、坂根稔康、山本 昌: アスパラギン酸修飾を用いた骨標的化リポソームの開発. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017.10.
- 44) 釜野健太郎、勝見英正、堺 香輔、杉浦真優、山内基喜、丹波綾香、坂根稔康、山本 昌: 高分子型硫化水素供与体の開発と酸化ストレス疾患治療への応用. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・

- 大会（神戸）, 2017.10.
- 45) 田中晶子、井上大輔、古林呂之、高山健太郎、勝見英正、坂根稔康、林 良雄、山本 昌: 新規肥満治療システムの開発を目的としたニューロメジン受容体選択的アゴニストペプチドの鼻腔を介した脳への送達. 第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 46) 内藤千尋、勝見英正、鈴木智子、草森浩輔、権 英淑、神山文男、坂根稔康、山本 昌: ヒアルロン酸マイクロニードルを用いた hPTH (1-34) の経皮送達と骨粗鬆症治療への応用. 第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 47) 井上大輔、田中晶子、勝見英正、山本 昌、湯谷玲子、寺岡麗子、坂根稔康、古林呂之: 経鼻投与による脳への薬物送達: CNS 薬物の脳内動態に対する Glymphatic System の影響. 第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.10.
- 48) 松原嘉子、井上大輔、田中晶子、勝見英正、山本 昌、湯谷玲子、寺岡麗子、坂根稔康、古林呂之: 鼻粘膜透過性改善に向けた α -Galactosylceramide の可溶化の検討. 第56回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会（徳島）, 2017.10.
- 49) Tomoyuki Furubayashi, Nana Izumi, Daisuke Inoue, Kei Moriyama, Akiko Tanaka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Reiko Yutani, Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane: Measurement of dissolution profiles of powdery drug by raman spectroscopy and its application to prediction of nasal drug absorption. 2017 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA), 2017.11.
- 50) Daisuke Inoue, Akiko Tanaka, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto, Reiko Yutani, Reiko Teraoka, Toshiyasu Sakane, Tomoyuki Furubayashi: Direct nose to brain delivery of CNS drugs: The effect of glymphatic system on pharmacokinetics and brain distribution of sulpiride after nasal application. 2017 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA), 2017.11.
- 51) 勝見英正、松浦 悟、鈴木宏枝、林 英誉、平井菜都子、山本 昌: セリン修飾を利用した新規腎ターゲティング型高分子キャリアの創製. 日本薬物動態学会第32回年会（東京）, 2017.11.
- 52) 山下修吾、勝見英正、磯部友吾、矢木夕美子、山本 昌: アスパラギン酸修飾を利用した骨指向性高分子ミセルの開発及び癌骨転移治療への応用. 日本薬物動態学会第32回年会（東京）, 2017.11.
- 53) 堀 香輔、勝見英正、杉浦真優、山本 昌: 高分子型硫化水素供与体の開発と酸化ストレス疾患治療への応用. 日本薬物動態学会第32回年会（東京）, 2017.11.

- 54) 内藤千尋、勝見英正、鈴木智子、草森浩輔、権 英淑、神山文男、坂根稔康、山本 昌: ヒアルロン酸マイクロニードルを用いた hPTH₁₋₃₄ の経皮送達と骨粗鬆症治療への応用. 日本薬物動態学会第 32 回年会（東京）, 2017.11.
- 55) 田中晶子、井上大輔、吉林呂之、高山健太郎、林 良雄、勝見英正、坂根稔康、山本 昌: 新規肥満治療システムの開発を目的とした Type2 ニューロメジン U 受容体選択性アゴニストペプチドの鼻腔を介した脳への送達. 日本薬物動態学会第 32 回年会（東京）, 2017.11.
- 56) 井上大輔、田中晶子、勝見英正、山本 昌、湯谷玲子、寺岡麗子、坂根稔康、吉林呂之: 鼻腔内投与による脳への薬物送達Ⅲ：脳実質への薬物移行に対する glymphatic system の影響とその定量的評価. 日本薬物動態学会第 32 回年会（東京）, 2017.11.

講演等

- 1) 勝見英正: 骨疾患治療の効率化を目指した DDS 開発. InnoPack Japan コンファレンス（東京）, 2017.4.
- 2) 山本 昌: キトサンカプセルを用いたタンパク性医薬品及び炎症性腸疾患治療薬の大腸特異的送達法の開発. クオリカプス株式会社講演会（京都）, 2017.9.
- 3) 山本 昌: ペプチド・タンパク性医薬品をはじめとする難吸収性薬物の消化管・経粘膜吸収性の改善. 崇城大学特別講演会 DDS の現状と将来（熊本）, 2017.11.
- 4) 勝見英正、山本 昌: 経皮吸収製剤の特徴と開発動向. 第 27 回日本医療薬学会年会（東京）, 2017.11.

その他

- 1) 勝見英正、山本 昌: 京都薬科大学など マイクロニードル活用し骨粗しょう症の経皮製剤. 化学工業日報, 2017.5
- 2) 勝見英正: 学会印象記 International Symposium on Drug Delivery and Pharmaceutical Sciences: Beyond the History, *Drug Delivery System*, 32, 226-227 (2017) .
- 3) 勝見英正: 会議派遣報告 AAPS (米国薬学会) 参加報告, ファルマシア, 53, 344 (2017) .

薬物動態学

著 書

- 1) 栄田敏之、炭昌樹、寺田智祐: 第1章 医薬品情報学概論. *医薬品情報学*, 橋詰勉、栄田敏之編集, pp.1-17, 廣川書店 (2017) .
- 2) 栄田敏之: 第1章 製剤化のための基礎知識. *製剤学・物理薬剤学*, 坂根稔康、唐澤健、栄田敏之編集, pp.1-6, 廣川書店 (2017) .
- 3) 栄田敏之: 第7章 製剤と日本薬局方. *製剤学・物理薬剤学*, 坂根稔康、唐澤健、栄田敏之編集, pp.115-126, 廣川書店 (2017) .
- 4) 栄田敏之、河渕真治: 第III章 抗菌薬の適正使用 2. 抗菌薬のPK/PD. *薬剤師のための感染制御マニュアル第4版* 一般社団法人 日本病院薬剤師会監修, pp.163-167, 薬事日報社 (2017) .

論 文

- 1) Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Risa Shimizu, Yosuke Katsuyama: Pharmacokinetic and toxicodynamic evaluation of oxaliplatin-induced neuropathy and hematological toxicity in rats. *Cancer Chemother. Pharmacol.*, (in press) .
- 2) Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Genta Inoue, Eisaku Kakumu, Miki Aoki, Toshiyuki Sakaeda, Kanji Takada: Dissolving microneedles for enhanced local delivery of capsaicin to rat skin tissue. *J. Drug Target.*, **25** (5), 420-424 (2017) .
- 3) Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda: Population pharmacokinetic-pharmacodynamic modeling of 5-fluorouracil for toxicities in rats. *Eur. J. Drug Metab. Pharmacokinet.*, **42**, 707-718 (2017) .
- 4) Shinji Kobuchi, Megumi Matsuno, Momoko Kawamoto, Naoto Kojima, Yukako Ito, Masayuki Yamashita, Toshiyuki Sakaeda: A simple and rapid LC-MS/MS method for quantitation of luseogliflozin in rat plasma and its application to a PK study. *Bioanalysis*, **9** (2), 163-171 (2017) .
- 5) Yukako Ito, Kengo Matsumoto, Noriyuki Osakama, Ryosuke Yoshioka, Shinji Kobuchi, Toshiyuki Sakaeda, Kanji Takada: Dissolving microneedles as skin allergy test device. *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 531-534 (2017) .
- 6) Kazutaka Aonuma, Tsuyoshi Shiga, Hirotugu Atarashi, Kosuke Doki, Hirotoshi Echizen, Nobuhisa Hagiwara, Junichi Hasegawa, Hideharu Hayashi, Kenzo Hirao, Fukiko Ichida, Takanori Ikeda, Yorinobu Maeda, Naoki Matsumoto, Toshiyuki Sakaeda, Wataru Shimizu, Mitsuru Sugawara, Kyoichi Totsuka, Yoshimasa Tsuchishita, Kazuyuki Ueno, Eiichi Watanabe, Masayuki Hashiguchi, Sumio Hirata, Hidefumi Kasai, Yoshiaki Matsumoto, Akihiko Nogami, Yukio Sekiguchi, Tokuko Shinohara, Atsushi Sugiyama, Naokata Sumitomo, Atsushi Suzuki, Naohiko Takahashi, Eiji Yukawa, Masato Homma, Minoru Horie, Hiroshi Inoue, Hiroshi Ito, Takanori Miura, Tohru Ohe, Kimikazu Shinozaki, Kazuhiko Tanaka, on behalf of the Japanese Circulation Society and the Japanese Society of Therapeutic Drug Monitoring Joint Working Group: Guidelines for therapeutic drug monitoring of cardiovascular drugs clinical use of blood drug concentration monitoring (JCS 2015) -digest version-. *Circ. J.*, **81**, 581-612 (2017) .
- 7) Lixia Qiang, Yanxia Guan, Xiangshun Li, Li Liu, Yanshuang Mu, Aki Sugano, Yutaka Takaoka, Toshiyuki Sakaeda,

Bruno P. Imbimbo, Ken-Ichi Yamamura, Shoude Jin, Zhenghua Li: CSP-1103 (CHF5074) stabilizes human transthyretin in healthy human subjects. *Amyloid.*, **24** (1), 42-51 (2017).

- 8) 尾濱直子、三浦誠、友沢明徳、黄前尚樹、松岡加世子、栄原晶子、山森元博、角山香織、栄田敏之: 高齢者における脂肪乳剤投与による問題点の抽出と適切な対処法への寄与を目指した多施設共同研究. *日本病院薬剤師会雑誌*, **53** (8), 993-997 (2017).
- 9) 河渕真治、藤田章洋、伊藤由佳子、栄原晶子、中村任、安井裕之、相引眞幸、栄田敏之: 敗血症患者におけるアジスロマイシン持続投与後の体内動態および基礎的検討. *TDM 研究*, **34** (4), 119-125 (2017).

プロシーディングス

- 1) 高橋千春、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 大腸がんモデルラットにおけるオキサリプラチニン反復投与後の抗腫瘍効果に関する薬物動態学的/薬力学的評価. *臨床薬理*, **48** (Suppl.), S258 (2017).
- 2) 栄田敏之: 本邦におけるTDMの進歩及び普及のために. *TDM 研究*, **34** (3), 40 (2017).
- 3) 栄田敏之: 抗真菌薬のTDMについて. *TDM 研究*, **34** (3), 106 (2017).

解説、報告書等

- 1) 栄田敏之: より良い薬物治療の提供を目指して. *薬剤学*, **77** (3), 130-132 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 武貞和希、清水理紗、高橋千春、武田茉子、森本実希、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 大腸癌モデルラットにおけるオキサリプラチニンの体内動態と蓄積性末梢神経障害の評価. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 2) 津田基、佐藤孝和、岡村真生、中村貴憲、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 大腸がんラットにおけるUFTの薬物動態学的/薬力学的評価. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 3) 山本麗奈、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: SGLT2阻害薬の皮膚組織の間質液への移行性の比較. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 4) 竹内美晴、山本麗奈、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: SGLT2阻害薬 ipagliflozin のラット皮膚組織移行性に及ぼす投与量の影響. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 5) 勝山陽介、清水理紗、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: オキサリプラチニン投与による骨髄抑制発現と体内動態の関連性. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 6) 平松幸希子、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 抗MRSA薬ダブトマイシンの臓器/組織移行性に関する基礎的検討. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.

- 7) 堀口繁、伊藤由佳子、岡田裕之: 5FU 代謝酵素に着目した肺癌における FOLFIRINOX 治療効果予測因子に関する検討. 第 103 回日本消化器病学会総会 (東京), 2017.4.
- 8) 西尾夏美、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 大腸がん化学療法における 5-フルオロウラシルの血漿中濃度維持に及ぼすイリノテカンの影響. 日本薬剤学会第 32 年会 (埼玉), 2017.5.
- 9) 丹羽義勝、竹内美晴、山本麗奈、福澤和輝、河渕真治、伊藤由佳子、頭金正博、栄田敏之: SGLT2 阻害薬 ipragliflozin の皮膚障害に関する医薬品副作用データベースの解析および基礎的研究. 第 6 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 (東京), 2017.9.
- 10) 森田孝洋、竹内美晴、山本麗奈、福澤和輝、河渕真治、伊藤由佳子、頭金正博、栄田敏之: SGLT2 阻害薬 tofogliflozin と皮膚障害の関係に関する医薬品副作用データベースの解析および基礎的研究. 第 6 回日本くすりと糖尿病学会学術集 (東京), 2017.9.
- 11) Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Shigeru Horiguchi, Hironari Kato, Hidenori Shiraha, Toshiyuki Sakaeda: Preclinical and clinical studies on establishment of invasive marker of dihydropyrimidine dehydrogenase activity and its usefulness in 5-fluorouracil-based chemotherapy. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto, Japan), 2017.9.
- 12) Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda: Population pharmacokinetic-pharmacodynamic model of 5-fluorouracil for evaluation of myelosuppression and body weight loss. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto, Japan), 2017.9.
- 13) Takanori Nakamura, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, and Toshiyuki Sakaeda: Tumoral distribution of tegafur and 5-fluorouracil after UFT administration to colorectal cancer rats. 第 76 回日本癌学会学術総会 (横浜), 2017.9.
- 14) Shigeru Horiguchi, Yukako Ito, Hiroyuki Okada: UH2/Uracil ratio can predict the effectiveness of FOLFIRINOX for pancreatic cancer. JDDW (Fukuoka, Japan), 2017.10.
- 15) 加藤昌仁、藤田章洋、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 敗血症モデルラットにおけるアジスロマイシンとクラリスロマイシンの体内動態の比較. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 16) 高松大基、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: UFT の体内動態に及ぼす日内変動の影響. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 17) 森賢也、西尾夏美、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: イリノテカンの骨髄抑制に関する薬物動態学的/毒性薬力学的評価. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 18) 松井克樹、竹内美晴、山本麗奈、福澤和輝、早瀬稔起、河渕真治、伊藤由佳子、頭金正博、栄田敏之: SGLT2 阻害剤 ipragliflozin の皮膚障害に関する研究—医薬品副作用データベース JADER の解析とラット皮膚組織移行性一. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 19) 森村美月、竹内美晴、山本麗奈、福澤和輝、早瀬稔起、河渕真治、伊藤由佳子、頭金正博、栄田敏之: SGLT2 阻害薬 luseogliflozin と皮膚障害の関係に関する研究—医薬品副作用データベース JADER の解析とラット皮膚組織移行性一. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.
- 20) 折居寧音、明神知美、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、高田寛治: 鎮痛薬含有マイクロニードルの評価法に関する検討. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸), 2017.10.

- 21) 中尾桂子、金津正樹、田宮基裕、伊佐俊一、田宮朗裕、大町直樹、沖塩協一、丸谷周平、岩崎綾乃、今井公江、河渕真治、栄田敏之、平島智徳、安宅信二: EGFR 遺伝子変異陽性肺癌における afatinib の母集団薬物動態解析. 第 58 回日本肺癌学会学術集会 (横浜), 2017.10.
- 22) 林八恵子、吉田忍、伊藤由佳子、門居久嗣、遠藤正憲、塚本有子、西澤嘉四郎、河渕真治、栄田敏之: 安息香酸ナトリウムと他剤との配合変化の検討及び同剤の薬効変化の検討. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉), 2017.11.
- 23) 武田茉子、武貞和希、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: オキサリプラチン誘発蓄積性末梢神経障害の発現予測に関する血漿中オキサリプラチン濃度と総白金濃度との比較. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉), 2017.11.
- 24) 松本彩夏、辻本雅之、折方琴音、白土恵理、辻本美菜、峯垣哲也、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、山本和宏、錦織千佳子、西口工司: ヒトケラチノサイト由来細胞株における SGLT2 阻害剤による細胞障害性の比較. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉), 2017.11.
- 25) Waki Takesada, Mako Takeda, Miki Morimoto, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda : Pharmacokinetics and toxicodynamics of oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in colorectal cancer model rats. 日本薬物動態学会第 32 回年会 (千葉), 2017.11.
- 26) Yosuke Katsuyama, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda: Pharmacokinetic-pharmacodynamic modeling of oxaliplatin for hematological toxicity in rats. 日本薬物動態学会第 32 回年会 (東京), 2017.11.
- 27) Motoi Tsuda, Maki Okamura, Takanori Nakamura, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda: Pharmacokinetic-pharmacodynamic (PK-PD) modeling and simulation of UFT on multiple dosing in colorectal cancer rats. 日本薬物動態学会第 32 回年会 (東京), 2017.11.
- 28) 高橋千春、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 大腸がんモデルラットにおけるオキサリプラチン反復投与後の抗腫瘍効果に関する薬物動態学的／薬力学的評価. 第 38 回日本臨床薬理学会学術総会 (横浜), 2017.12.

講演等

- 1) 栄田敏之: 本邦における TDM の進歩及び普及のために. 第 34 回日本 TDM 学会・学術大会 (京都), 2017.9.
- 2) 栄田敏之: ランチョンセミナー 抗真菌薬のTDMについて. 第34回日本TDM学会・学術大会(京都), 2017.9.
- 3) Toshiyuki Sakaeda: TDM in Japan. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto, Japan), 2017.9.
- 4) Toshiyuki Sakaeda: Data mining of the public version of the FDA Adverse Event Reporting System. 8th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference 2017 (Mysuru, India), 2017.10.

その他

- 1) 中村貴憲、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之: 大腸がんモデルラットにおける UFT の血中濃度と腫瘍内濃

度との関係性. 第7回4大学連携研究フォーラム(京都), 2017.11.

臨床薬学

論 文

- 1) Yurie Katsume, Masayuki Tsujimoto, Hiroyoshi Koide, Megumi Ochiai, Ayako Hojyo, Kaori Ogawa, Kengo Kambara, Nao Torii, Daisuke Shima, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi: Cooperative inhibitory effects of uremic toxins and other serum components on OATP1B1-mediated transport of SN-38, *Cancer Chemother. Pharmacol.*, **79**, 783-789 (2017).
- 2) Hiroyoshi Koide, Daiki Hira, Masayuki Tsujimoto, Yurie Katsume, Tetsuya Minegaki, Takashi Uzu, Yoshito Ikeda, Shin-ya Morita, Kohshi Nishiguchi, Tomohiro Terada: Previous dosage of allopurinol is a strong determinant of febuxostat efficacy, *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 681-686 (2017).
- 3) Masayuki Tsujimoto, Chie Agawa, Shinya Ueda, Takayoshi Yamane, Haruna Kitayama, Aya Terao, Tomoya Fukuda, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi: Inhibitory effects of juices prepared from individual vegetables on CYP3A4 activity in recombinant CYP3A4 and LS180 cells, *Biol. Pharm. Bull.*, **40**, 1561-1565 (2017).
- 4) 峯垣哲也、湯月翔太、伯井理恵子、藤井尚子、濱田美輝、若林未稀、辻本雅之、西口工司：酸化マグネシウム製剤とアムロジピンベシル酸塩製剤間における同時簡易懸濁時に生じる配合変化の相違。 *医薬品情報学*, **19**, 97-103 (2017).

解説、報告書等

- 1) 西口工司：第1回日本薬学教育学会大会 2016 京都 大会報告ならびに特別講演記録。 *薬学教育*, **1**, A1-A4 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 鈴木 藍、峯垣哲也、森 美里、藤井啓子、眞弓万里奈、池上歩花、奥田博允、楠 斐未、辻本雅之、西口工司：5-FU 耐性ヒト乳癌細胞株の 5-FU 感受性に及ぼすヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の影響。 日本薬学会第 137 年会（仙台），2017. 3.
- 2) 峰垣哲也、戀木沙耶、道家雄太郎、山根千尋、鈴木 藍、森 美里、辻本雅之、西口工司：低酸素下におけるビスホスホネート系薬物の細胞毒性増強とそのメカニズムの解明。 日本薬学会第 137 年会（仙台），2017.

- 3.
- 3) 田中美優、辻本雅之、小出博義、竹内あい、池上葉子、田上真優、阿部祥子、橋本実季、峯垣哲也、西口工司: OATP1B1 を介した基質の取り込みに及ぼす分子標的薬の影響. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017. 3.
- 4) 平 大樹、小出博義、山口将史、森田真也、西口工司、中野恭幸、寺田智祐: 本邦で入手可能な全ての吸入剤に対応する吸入パターン測定装置の開発. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017. 3.
- 5) Masayuki Tsujimoto, Tomoe Uchida, Hiroyuki Kozakai, Saori Yamamoto, Chie Agawa, Shinya Ueda, Takayoshi Yamane, Haruna Kitayama, Aya Terao, Tomoya Fukuda, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi: Inhibitory effects of flavonoid-containing vegetables on CYP3A4 activity in recombinant CYP3A4 and LS180 cells. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto) , 2017. 9.
- 6) Yurie Katsume, Daiki Hira, Masayuki Tsujimoto, Hiroyoshi Koide, Tetsuya Minegaki, Yoshito Ikeda, Shin-Ya Morita, Kohshi Nishiguchi, Tomohiro Terada: Retrospective investigation of concomitant medications as potential risk factors for severe neutropenia in cancer patients treated with carboplatin and paclitaxel combination therapy. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto) , 2017. 9. The IATDMCT 2017 Student presentation grant
- 7) Hiroyoshi Koide, Daiki Hira, Shigemi Nakamura, Toyoko Okada, Kazunori Ishizeki, Tetsuya Minegaki, Masayuki Tsujimoto, Masafumi Yamaguchi, Shin-Ya Morita, Kohshi Nishiguchi, Yasutaka Nakano, Tomohiro Terada: The real time inhalation flow pattern monitoring system contributes to adequate inhalation pattern of soft mist inhaler co-prescribed with dry powder inhaler. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto) , 2017. 9. The IATDMCT 2017 Student presentation grant
- 8) 吉田拓弥、辻本雅之、川上祥代、入江裕子、中谷沙紀、藤岡春乃、磯 亜耶子、杉山絢香、三宅瑞穂、隅野和美、田中梨恵、小田智子、橋本湖澄、古久保 拓、和泉 智、山川智之、峯垣哲也、西口工司: 末期腎不全患者における血清中インドキシル硫酸濃度と鉄欠乏の関連. 第 11 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2017 (福岡) , 2017.9. 優秀演題賞受賞
- 9) 宮本恵輔、峯垣哲也、森山由美、和田明莉、松本彩夏、太田圭祐、田中麻衣、増田詩子、棚橋真実、山本彩佳、荒木 悠、稻垣恵未、林 絵里、辻本雅之、西口工司: ヒト食道癌細胞株におけるポリ (ADP-リボース) ポリメラーゼ阻害剤オラパリブの影響. 第 67 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (神戸) , 2017. 10.
- 10) Daiki Hira, Hiroyoshi Koide, Masafumi Yamaguchi, Mikio Kakumoto, Shin-ya Morita, Kohshi Nishiguchi, Yasutaka Nakano, Tomonobu Okano, Tomohiro Terada: Novel assessment tool for inhalation flow pattern can detect the

inadequate inhalation via soft mist inhaler (Respimat®). 第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017. 10.

- 11) 松本彩夏、辻本雅之、折方琴音、白土恵理、辻本美菜、峯垣哲也、河渕真治、伊藤由佳子、栄田敏之、山本和宏、錦織千佳子、西口工司: ヒトケラチノサイト由来細胞株における SGLT2 阻害剤による細胞障害性の比較. 第 27 回日本医療薬学会・年会（千葉）, 2017. 11.
- 12) Hitoshi Uchiyama, Masayuki Tsujimoto, Tadakazu Shinmoto, Hitomi Ogino, Tomoko Oda, Ayaka Nitta, Koji Tsutsui, Naomi Shimada, Takuya Yoshida, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Hidehisa Tachiki, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi: Effects of uremic serum on statin-induced cytotoxicity and its mechanism. 2017 AAPS Annual Meeting and Exposition (San Diego, USA) , 2017. 11.
- 13) 下野香帆、辻本雅之、内山 仁、板谷あゆみ、古久保拓、和泉 智、立木秀尚、山川智之、峯垣哲也、西口工司: 末期腎不全患者においてコルヒチン及びクラリスロマイシンの相互作用が重篤化するメカニズムの解明. 第 38 回日本臨床薬理学会学術総会（横浜）, 2017. 12.
- 14) 森田七海、辻本雅之、大川 澄、瀬良郁実、峯垣哲也、西口工司: Caco-2 細胞におけるフェキソフェナジンの吸収方向の経細胞輸送に及ぼす各種飲料の影響. 第 38 回日本臨床薬理学会学術総会（横浜）, 2017. 12.

講演等

- 1) 辻本雅之: 講演. 末期腎不全患者における薬物体内動態および薬物応答性の変動に及ぼすバイオメタルの影響. 京都薬科大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「メタロミクス」成果発表会（京都）, 2017. 5.
- 2) 西口工司: 講演. 学術包括協定の歩み. 第 7 回 KPU-OHP 臨床医薬カンファレンス（京都）, 2017. 11.

その他

- 1) 西口工司、辻本雅之、峯垣哲也: 体験実習「作ろう軟膏！使おう軟膏！」. 京都薬科大学オープンキャンパス（京都）, 2017. 8.
- 2) 西口工司: 大会実行委員. 第 2 回日本薬学教育学会大会（名古屋）, 2017. 9.
- 3) 西口工司: 参加. 平成 29 年度薬学共用試験 OSCE モニター説明会（名古屋）, 2017. 9.
- 4) 西口工司: 参加. 近畿地区での効果的・円滑な実務実習構築に向けての説明・協議会（京都）, 2017. 10.

- 5) 宮本恵輔、峯垣哲也、森山由美、和田明莉、辻本雅之、西口工司：DNA 損傷に着目した食道癌細胞株における PARP 阻害剤の抗癌剤感受性増強作用. 第 7 回 4 大学連携研究フォーラム（京都）, 2017.11.
- 6) 西口工司：モニター員. 薬学共用試験 OSCE（神戸学院大学）, 2017.12.
- 7) 辻本雅之：評価者. 薬学共用試験 OSCE（摂南大学）, 2017.12.

論 文

- 1) Kenji Ikemura, Kosuke Oshima, Tomoyuki Enokiya, Akiharu Okamoto, Hiroyasu Oda, Toshiro Mizuno, Hajime Ishinaga, Yuichi Muraki, Takuya Iwamoto, Kazuhiko Takeuchi, Naoyuki Katayama, Masahiro Okuda: Co-administration of proton pump inhibitors ameliorates nephrotoxicity in patients receiving chemotherapy with cisplatin and fluorouracil: a retrospective cohort study, *Cancer Chemother Pharmacol*, **79** (5), 943-949 (2017) .
- 2) Tomoyuki Enokiya, Kouhei Nishikawa, Yuichi Muraki, Takuya Iwamoto, Hideki Kanda, Yoshiki Sugimura, Masahiro Okuda: Usefulness of limited sampling strategy for mycophenolic acid area under the curve considering postoperative days in living-donor renal transplant recipients with concomitant prolonged-release tacrolimus, *J Pharm Health Care Sci*, **3** (17) , doi: 10.1186/s40780-017-0086-7 (2017) .
- 3) Tomoyuki Enokiya, Erquan Zhang, Kenji Ikemura, Yuichi Muraki, Yoshiaki Iwashita, Takuya Iwamoto, Hiroshi Imai, Kazuo Maruyama, Masahiro Okuda: Effect of lipid emulsion infusion on paliperidone pharmacokinetics in the acute overdose rat model: A potential emergency treatment for paliperidone intoxication, *Eur J Pharm Sci*, **109**, 217-222 (2017) .
- 4) Toshiki Murasaka, Kenji Ikemura, Tomoyuki Enokiya, Yuichi Muraki, Mayumi Ikemura, Koji Terada, Takuya Iwamoto, Masahiro Okuda: Impact of the number of repeated inhalations and patient characteristics on the residual amount of inhaled laninamivir octanoate hydrate dry powder in pediatric patients with influenza, *J Pharm Health Care Sci*, **3** (26) , doi: 10.1186/s40780-017-0094-7 (2017) .
- 5) Daisuke Yamasaki, Masaki Tanabe, Yuichi Muraki, Genta Kato, Norio Ohmagari, Tetsuya Yagi: The First Report of Japanese Antimicrobial Use Measured by National Database Based on Health Insurance Claims Data (2011-2013) : Comparison with Sales Data, and Trend Analysis Stratified by Antimicrobial Category and Age Group, *Infection*, **22**, doi: 10.1007/s15010-017-1097-x (2017) .
- 6) 村阪敏規, 池村健治, 榎屋友幸, 村木優一, 岩本卓也, 奥田真弘: 残薬に対する住民の意識向上を目指した講演会の効果, *日本薬剤師会雑誌*, **69** (10) , 1279-1283 (2017) .

総 説

- 1) 村木 優一: AMR 対策アクションプラン, *日本病院薬剤師会雑誌*, **53** (10) , 1223-1226 (2017) .

著 書

- 1) 黒山政一, 小原美江, 村木 優一 編: キャラ勉! 抗菌薬データ. 羊土社, (2017) .
- 2) 伊藤正明監修, 奥田真弘, 村木 優一 編: 即引き! 薬の必須検査値チェックブック, 南江堂, (2017) .

解説、報告書等

解説

- 1) 村木 優一, 奥田 真弘: 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランで期待される薬剤師の役割, ファルマシア, 53 (6), 530-534 (2017) .
- 2) 谷川原 祐介, 千堂 年昭, 今村 知世, 河崎 陽一, 末丸 克矢, 村木 優一, 矢野 育子, 伊藤 聰子, 上島 智, 田中 亮裕, 林 雅彦, 小林 勝弘: 抗てんかん薬 TDM 標準化ガイドライン (STATEMENT) 2017 Version 1.0, *TDM研究* 34 (2), 67-95 (2017) .
- 3) 村木 優一: AMR 対策に求められる薬剤師の貢献 院内で、市中で, *医療の質・安全学会誌* 12 (3), 335-338 (2017) .
- 4) 二木 芳人, 賀来 満夫, 青木 洋介, 川口 辰哉, 小阪 直史, 関 雅文, 田邊 嘉也, 藤田 直久, 前田 真之, 村木 優一, 森田 邦彦, 柳原 克紀, 山田 武宏, 吉田 耕一郎, 松本 哲哉, 飯沼 由嗣, 菅野 みゆき, 高橋 俊司, 山本 剛, 奥田 真弘, 谷川原 祐介, 竹末 芳生: 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス (解説), *日本化学療法学会雑誌* 65 (5), 650-687 (2017) .
- 5) 二木 芳人, 賀来 満夫, 青木 洋介, 川口 辰哉, 小阪 直史, 関 雅文, 田邊 嘉也, 藤田 直久, 前田 真之, 村木 優一, 森田 邦彦, 柳原 克紀, 山田 武宏, 吉田 耕一郎, 松本 哲哉, 飯沼 由嗣, 菅野 みゆき, 高橋 俊司, 山本 剛, 奥田 真弘, 谷川原 祐介, 竹末 芳生: 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス (解説), *日本環境感染学会誌* 32 (5), 1-38 (2017) .
- 6) 二木 芳人, 賀来 満夫, 青木 洋介, 川口 辰哉, 小阪 直史, 関 雅文, 田邊 嘉也, 藤田 直久, 前田 真之, 村木 優一, 森田 邦彦, 柳原 克紀, 山田 武宏, 吉田 耕一郎, 松本 哲哉, 飯沼 由嗣, 菅野 みゆき, 高橋 俊司, 山本 剛, 奥田 真弘, 谷川原 祐介, 竹末 芳生: 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス (解説), *日本臨床微生物学雑誌* 27 (4), 227-266 (2017) .

- 7) 二木 芳人, 賀来 満夫, 青木 洋介, 川口 辰哉, 小阪 直史, 関 雅文, 田邊 嘉也, 藤田 直久, 前田 真之, 村木 優一, 森田 邦彦, 柳原 克紀, 山田 武宏, 吉田 耕一郎, 松本 哲哉, 飯沼 由嗣, 菅野 みゆき, 高橋 俊司, 山本 剛, 奥田 真弘, 谷川原 祐介, 竹末 芳生: 抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイドンス(解説), *感染症学雑誌* 91 (5), 709-746 (2017).
- 8) 村木 優一: AMR 対策としての抗菌薬使用動向調査の有用性, *公衆衛生* 81 (10), 804-808 (2017).
- 9) 村木 優一: 厚生労働省委託事業 平成 29 年度院内感染対策講習会共通テキスト V. 抗菌薬の適正使用 (TDM も含む) 2. Antimicrobial stewardship program. 日本感染症学会, 77-80 (2017).

その他

- 1) 村木 優一: 第 4 章 薬効別にみた薬物動態と臨床でのポイント 抗菌薬 β ラクタム系薬, *月間薬事*, 59 (14), 212-219 (2017).
- 2) 榎屋 友幸, 村木 優一, 奥田 真弘: 抗菌薬・抗真菌薬 テイコプラニン, *月間薬事*, 59, 77-82 (2017).
- 3) 村木 優一, 奥田 真弘: 耐性菌の現状と薬剤師に求められる役割, *調剤と情報*, 発行じほう, 23, 786-789 (2017).
- 4) 村木 優一, 奥田 真弘: 日本の抗菌薬の使用状況とその問題点, *INFECTION CONTROL*, 26 (6), 626-631 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 安田和成, 中村明子, 新居晶恵, 山崎大輔, 村木 優一, 田辺正樹, 兼児敏浩: *C.difficile* 耐久型株の環境培養法に関する基礎的検討. 第 32 回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸), (2017.2).
- 2) 中村明子, 田辺正樹, 中川岳人, 安田和成, 新居晶恵, 村木 優一, 松島由実: 県内全域を対象とした微生物サーベイランスプログラム MINIS の構築. 第 32 回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸), (2017.2).
- 3) 村木 優一, 田辺正樹, 山崎大輔, 中村明子, 新居晶恵, 松島由実: JACS を利用した抗菌薬使用量サーベイランス MACS (Mie Antimicrobial Consumption Surveillance) の構築. 第 32 回日本環境感染学会総会・学術大会

- (神戸) , (2017.2) .
- 4) 藤本修平, 土屋麻由美, 丹羽隆, 太田浩敏, 柴山恵吾, 八木哲也, 石黒信久, 飯沼由嗣, 田辺正樹, 村木優一, 八束眞一, 村上啓雄: 感染対策の地域連携支援システム (RICSS) の開発. 第32回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸) , (2017.2) .
- 5) 山崎大輔, 中村明子, 村木優一, 新居晶恵, 安田和成, 小林美奈子, 高橋誠, 田辺正樹, 兼児敏浩: 当院における感染管理業務の効率化を目的とした感染管理システム開発に向けた取り組み. 第32回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸) , (2017.2) .
- 6) 村木優一, 八木哲也, 山崎大輔, 田辺正樹, 藤本修平, 村上哲雄: 我が国における抗真菌薬の使用動向 (2005 ~2013年) . 第32回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸) , (2017.2) .
- 7) 松島由実, 村松有紀, 村木優一, 犬塚和久, 大曲貴夫, 三鴨廣繁: 血流感染の治療向上の取り組みに向けた現状調査－血流感染マネジメントバンドル作成を目指して－. 第32回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸) , (2017.2) .
- 8) 新居晶恵, 中村明子, 山崎大輔, 村木優一, 安田和成, 田辺正樹, 兼児敏浩: アルコール携帯ポシェットの適切な材質及び消毒/除菌方法の検討. 第32回日本環境感染学会総会・学術大会 (神戸) , (2017.2) .
- 9) 加藤隆史、榎屋友幸、岩下義明、森川祥彦、西川祐策、村木優一、岩田英城、奥田 真弘、今井寛: 抗菌薬の体外式膜型人工肺 (ECMO) 回路の吸着に関する *in vitro* での検討. 第44回日本集中治療医学会学術集会 (札幌) , (2017.3) .
- 10) 山田真帆, 日置三紀, 小田都紀子, 石橋美紀, 村木優一, 岩本卓也, 水野聰朗, 奥田真弘: 乳癌 AC/EC 療法におけるデキサメタゾン錠の用量による制吐効果の検討. 日本臨床腫瘍学会学術大会 2017 (新潟) , (2017.3) .
- 11) 大辻陽子, 日置三紀, 村木優一, 岩本卓也, 水野聰朗, 奥田真弘: 外来化学療法部における薬剤師の処方介入のタイミングと提案内容に関する検討. 日本臨床腫瘍学会学術大会 2017 (新潟) , (2017.3) .
- 12) 須藤宏文, 松田紘子, 世古口典子, 岸和田昌之, 村木優一, 岩本卓也, 伊佐地秀司, 奥田真弘: アンケート調査からみた薬剤師担当の肺がん教室の評価－参加者の背景に注目して. 第48回日本膵臓学会大会 (京都) , (2017.7) .
- 13) 榎屋 友幸, 岩下義明, 村木優一, 平本拓也, 今井寛, 奥田真弘: 腎代替療法による早期のメトホルミン及び

- 乳酸除去が奏効したメトホルミン関連乳酸アシドーシスの2症例. 第39回日本中毒学会総会・学術集会(茨城), (2017.6) .
- 14) 若井恵里, 池村健治, 杉本浩子, 村木優一, 岩本卓也, 奥田真弘: 酸化マグネシウム製剤処方患者における血清マグネシウム値の検査実態及び高マグネシウム血症発症に対する危険因子の評価. 医療薬学フォーラム 2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム (鹿児島), (2017.7) .
 - 15) Tomoyuki Enokiya, Erquan Zhang, Kenji Ikemura, Yuichi Muraki, Yoshiaki Iwashita, Takuya Iwamoto, Hiroshi Imai, Kazuo Maruyama, Masahiro Okuda: Effect of Lipid Emulsion Infusion on Paliperidone Pharmacokinetics in the Acute Overdose Rat Model: a Potential Emergency Treatment for Paliperidone Intoxication. 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (Kyoto, Japan), (2017.9) .
 - 16) Masaki Tanabe, Yuichi Muraki, Daisuke Yamasaki, Genta Kato, Tetsuya Yagi: Geographical analysis of Antimicrobial Consumption Surveillance using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB JAPAN) 2011-2013. IDWeek2017 (San Diego, CA), (2017.10) .
 - 17) Daisuke Yamasaki, Masaki Tanabe, Yuichi Muraki, Genta Kato, Tetsuya Yagi: Age-specific Distribution of Antimicrobial Use Surveillance using National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan (NDB Japan) 2011-2013. IDWeek2017 (San Diego, CA), (2017.10) .
 - 18) 田辺正樹, 村木優一, 山崎大輔, 八木哲也: ナショナルデータベース (NDB) を用いた地域別抗菌薬使用量調査. 第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第60回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第65回日本化学療法学会西日本支部総会 (長崎), (2017.10) .
 - 19) 加藤良隆, 井上涉, 渡邊愛梨, 邵仁哲, 大坪達弥, 神田英一郎, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 友金 幹視: スニチニブ服用患者における甲状腺機能検査の実施状況と甲状腺機能低下症発現状況の調査. 第27回医療薬学会年会 (千葉), (2017.11) .
 - 20) 河村佳奈, 大坪達弥, 村木優一, 佐々木奈々, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 魚嶋伸彦, 友金幹視: プレリキサホルとフィルグラスマチムバイオ後続品「モチダ」併用により十分量の自家末梢血幹細胞が採取できた1症例. 第27回医療薬学会年会 (千葉), (2017.11) .
 - 21) 小西麻美子, 澤田真嗣, 山崎映美, 堀内あす香, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 友金幹視: ワルファリン導入期の実態調査及び今後の展望. 第27回医療薬学会年会 (千葉), (2017.11) .

- 22) 小川博史, 福田喬士, 中島悠介, 前田貴子, 澤田真嗣, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 友金幹視: せん妄の薬物治療に対するスボレキサントの有効性の検討. 第 27 回医療薬学会年会 (千葉) , (2017.11) .
- 23) 小林大祐, 田中翔子, 大坪達弥, 澤田真嗣, 中村吉隆, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 友金幹視: 大腸がん化学療法に対する十全大補湯の副作用軽減効果の可能性. 第 27 回医療薬学会年会 (千葉) , (2017.11) .
- 24) 大坪達弥, 河村佳奈, 三木有咲, 城月智帆, 林曜子, 堀内あす香, 神田英一郎, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 村木優一, 友金幹視: 頭頸部癌に対する化学放射線療法による口腔粘膜炎の現状と課題. 第 27 回医療薬学会年会 (千葉) , (2017.11) .
- 25) 藤田将輝, 西村暢子, 中西裕明, 堀内あす香, 神田英一郎, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 友金幹視: 脳卒中再発予防に対する薬剤師外来の有用性の検討. 第 27 回医療薬学会年会 (千葉) , (2017.11) .
- 26) 堀内あす香, 澤田真嗣, 藤田将輝, 中西裕明, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田敦夫, 友金幹視: テイコプラニン投与における初期投与設計の検討. 第 27 回医療薬学会年会 (千葉) , (2017.11) .
- 27) 澤田真嗣, 藤田将輝, 中西裕明, 大山翔, 堀内あす香, 近藤大志, 小野保, 村木優一, 岡橋孝侍, 藤田 敦夫, 下間正隆, 友金幹視: 集中治療室における抗菌薬選択への介入が Days of therapy 及び薬剤感受性に及ぼす影響. 第 27 回医療薬学会年会 (千葉) , (2017.11) .

シンポジウム・講演等

- 1) 村木優一: 今さら聞けない 抗菌薬適正使用の基本～TDM・PK/PD を含めて～. 三重県病院薬剤師会 平成 28 年度第 4 回感染制御部会研修会 (三重) , (2017.1) .
- 2) 村木優一: 我が国における抗微生物薬使用に関する調査と監視. 第 32 回日本環境感染学会総会・学術集会 シンポジウム 13 「AMR 対策アクションプラン 目標 2 へ向けて～調査と監視の現状と展望～」 (神戸) , (2017.2) .
- 3) 村木優一: 抗菌薬耐性対策サーベイランスの重要性、必要性について再考する. 第 2 回 高知県感染対策・サーベイランス研究会 (高知) , (2017.3) .
- 4) 村木優一: AMR 対策アクションプランにおける抗菌薬サーベイランスについて. H28 年度感染制御専門薬剤師講習会 (東京) , (2017.3) .

- 5) 村木優一: フルコナゾールにおけるブレイクポイントについて再考する. 第65回日本化学療法学会学術集会 パレディスカッショーン1「Clinical target breakpointを考える」(東京), (2017.4).
- 6) 村木優一: 電子カルテ情報を活かした抗菌薬適正使用とICTラウンド. 感染症専門薬剤師セミナー(札幌), (2017.4).
- 7) 村木優一: 抗菌薬適正使用支援(AS:Antimicrobial Stewardship)について考える. ~高齢者の肺炎予防の為にできること~2017 TOYAMA VACCINE SEMINAR(富山), (2017.5).
- 8) 村木優一: チームとしてAMR対策にどうアクションするか. 第18回長野県感染対策研究会(松本), (2017.6).
- 9) 村木優一: MRSA感染症の治療ガイドライン2017を読み解く~薬剤師の視点より~. 平成29年度第1回滋賀県病院薬剤師会感染制御委員会研究会(草津), (2017.6).
- 10) 村木優一: 抗菌薬の使用動向評価指標の見方と適正使用を支援するために共有しておきたいこと. 第24回日本臨床微生物学会教育セミナー(神戸), (2017.8).
- 11) 村木優一, 増田智先: 肝移植のカルシニューリン阻害薬と遺伝子情報. 第34回日本TDM学会・学術大会シンポジウム2 免疫抑制薬TDM標準化ガイドライン:version2の報告(京都), (2017.9).
- 12) 村木優一: 抗菌薬のサーベイランスを感染対策や適正使用にどう活かすのか. 一般社団法人埼玉県病院薬剤師会 第53回感染制御研修会(埼玉), (2017.9).
- 13) 村木優一: AMR対策アクションプランを踏まえ現場ではAUDやDOTをどう活かすか. 第9回薬剤師のための感染制御セミナー(金沢), (2017.9).
- 14) 村木優一: AMR対策アクションプランの成果に薬剤師はどう関わるべきか. 第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第60回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第65回日本化学療法学会西日本支部総会シンポジウム1「AMR対策アクションプランが求める感染症診療における新展開」(長崎), (2017.10).
- 15) 村木優一: MRSA感染症の治療ガイドライン2017を読み解き、耐性菌対策や抗MRSA薬の適正使用に如何に貢献すべきか. 岐阜県学術講演会(岐阜), (2017.10).

- 16) 村木優一: AMR 対策に現場はどうアクションすべきか. 第 14 回 NARA Infection Control Seminar (奈良) , (2017.10) .
- 17) 村木優一: 抗菌薬使用のサーベイランスにどう関わるか. 第 27 回日本医療薬学会年会 シンポジウム 17「抗微生物薬耐性 (AMR) に薬剤師としてどう立ち向かうか」 (千葉) , (2017.11) .
- 18) 村木優一: 薬剤耐性 (AMR) 対策に私達はどのように行動すべきか. 45th NCU Infection Seminar in 2017 (名古屋) , (2017.11) .
- 19) 村木優一: 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランを意識した感染対策と抗菌薬適正使用. 院内感染防止対策講演会 (長浜) , (2017.11) .
- 20) 村木優一: 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランを取り巻く最新情報を活かしてどのように私達はアクションすれば良いのか. 第 9 回愛媛感染制御研究会 (愛媛) , (2017.11) .
- 21) 村木優一: 薬剤耐性 (AMR) 対策に求められる薬剤師の役割. 愛知学院大学薬学会講演会 (愛知) , (2017.12) .

その他

- 1) 村木優一: 薬学共用試験 (OSCE) : 外部評価者 (大阪薬科大学) , (2017.12) .

論 文

- 1) Yoshinori Nagasawa, Shin-ichi Demura, Shigeru Shimada: Characteristics of the life habits of obese students at one of Japan's the National Colleges of Technology, *International Journal of Adolescent Medicine and Health*, 20160109 (2017) .
- 2) 沼尾成晴、河野寛、遠藤直哉、山田優香、高橋将記、小西真幸、坂本静男: 日本人の食前血中遊離脂肪酸は食後糖代謝と関連する, *京葉論集*, 23, 23-36 (2017) .
- 3) Hiroe Sugimoto, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa: Effects of participation frequency of rehabilitation classroom on physical functions and their sex-related differences in elderly patients with cardiac diseases during maintenance period, *American Journal of Sports Science and Medicine*, 5 (1), 5-10 (2017) .

プロシーディングス

- 1) 川野裕姫子、出村慎一、松浦義昌、長澤吉則、杉本寛恵: α -amylase 活性を指標とした女性介護労働者の生理的ストレスの日内変動, *教育医学*, 63 (1), 36 (2017) .
- 2) 長澤吉則、出村慎一、青木宏樹、杉本寛恵: 健康づくり教室参加頻度が異なる心疾患維持期高齢者における身体機能と転倒リスク、抑うつ、生きがい感及び生活満足度との関係, *教育医学*, 63 (1), 53 (2017) .
- 3) 杉本寛恵、出村慎一、長澤吉則、川野裕姫子: 若年独身者における保育サービス需要の性差について, *教育医学*, 63 (1), 54-55 (2017) .
- 4) 青木宏樹、出村慎一、長澤吉則、鳴山進一: 把握力発揮の正確性と一側優位性, *教育医学*, 63 (1), 69 (2017) .
- 5) Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura, Yoshimasa Matsuura, Hiroki Aoki: Age-related difference of controlled force exertion in different phase of exerted force in men, *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 6 (6), 488 (2017) .
- 6) Yoshimasa Matsuura, Shinichi Demura, Yoshinori Nagasawa, Yu Uchida, Hitoshi Watanabe: Body sway during eye-opened one-leg stance of elderly persons, Indices of changed with time and gender difference, *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 6 (6), 528 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 川野裕姫子、出村慎一、松浦義昌、長澤吉則、平井博志: 介護労働者のストレス要因の性、年代、および経験年数差. 日本体育測定評価学会 第 16 回大会 (大分) , 2017.3.
- 2) 長澤吉則、出村慎一、松浦義昌、青木宏樹、川野裕姫子: 最大握力が発揮力量の異なる局面の筋力発揮調整能に及ぼす影響及びその性差: 高齢者を対象として. 日本体育測定評価学会 第 16 回大会 (大分) , 2017.3.
- 3) 松浦義昌、出村慎一、内田 雄、長澤吉則、川野裕姫子: 高齢者の開眼片脚時の姿勢保持時間と重心動搖の性差. 日本体育測定評価学会 第 16 回大会 (大分) , 2017.3.
- 4) 内田 雄、出村慎一、長澤吉則、平井博志、嶋山進一: 踵立ちおよび片脚つま先立ちテストの信頼性. 日本体育測定評価学会 第 16 回大会 (大分) , 2017.3.
- 5) 長澤吉則、沼尾成晴、杉本寛恵、下村雅昭、千葉真理子、五郎丸直美、田巻俊一: 運動療法に参加した心疾患維持期高齢者の身体機能と転倒リスク、抑うつ、生きがい感及び生活満足度との関係. 第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (岐阜) , 2017.7.
- 6) 川野裕姫子、出村慎一、松浦義昌、長澤吉則、杉本寛恵: α -amylase 活性を指標とした女性介護労働者の生理的ストレスの日内変動. 第 65 回日本教育医学会大会 (愛知) , 2017.8.
- 7) 長澤吉則、出村慎一、青木宏樹、杉本寛恵: 健康づくり教室参加頻度が異なる心疾患維持期高齢者における身体機能と転倒リスク、抑うつ、生きがい感及び生活満足度との関係. 第 65 回日本教育医学会大会 (愛知) , 2017.8.
- 8) 杉本寛恵、出村慎一、長澤吉則、川野裕姫子: 若年独身者における保育サービス需要の性差について. 第 65 回日本教育医学会大会 (愛知) , 2017.8.
- 9) 青木宏樹、出村慎一、長澤吉則、嶋山進一: 把握力発揮の正確性と一側優位性. 第 65 回日本教育医学会大会 (愛知) , 2017.8.
- 10) 平井博志、出村慎一、松浦義昌、長澤吉則: 男性高齢者の開眼片脚立位時の重心動搖量と年齢及び TUG との関係: 手の支持条件の有無による観点から. 日本体育学会 第 68 回大会 (静岡) , 2017.9.
- 11) 松本直也、出村慎一、松浦義昌、内田 雄、長澤吉則: 連続選択反応テストによるポジション別大学サッカーチーム選手の敏捷能力の比較. 日本体育学会 第 68 回大会 (静岡) , 2017.9.

- 12) 嶋山進一、出村慎一、長澤吉則、青木宏樹: 片脚立位におけるバランス能力の利脚・非利脚間差. 日本体育学会 第68回大会(静岡), 2017.9.
- 13) 長澤吉則、出村慎一、松浦義昌、嶋山進一: 発揮力量の異なる局面における女性の筋力発揮調整能は年代と関連する. 日本体育学会 第68回大会(静岡), 2017.9.
- 14) 長澤吉則、出村慎一、松浦義昌、青木宏樹: 発揮力量の異なる局面における男性の筋力発揮調整能の加齢変化. 第72回日本体力医学会大会(愛媛), 2017.9.
- 15) 松浦義昌、出村慎一、長澤吉則、内田 雄、渡辺一志: 高齢者の開眼片脚立位時における重心動搖量: 性差と経時変化を指標として. 第72回日本体力医学会大会(愛媛), 2017.9.

講演等

- 1) 沼尾成晴: 体力測定と評価 身体組成の測定 体力測定と評価、体力測定および身体組成測定とその評価に関する実習. 平成29年度健康運動指導士養成講習会(大阪), 2017.7.
- 2) 沼尾成晴: 体力測定と評価 身体組成の測定 体力測定と評価、体力測定および身体組成測定とその評価に関する実習. 平成29年度健康運動指導士養成講習会(大阪), 2017.12.

物理学

学会発表等

学会発表

- 1) 開章宏、吉村典久、高橋由佳、長澤一樹、有本收、上野嘉夫、細井信造：学修取り組み姿勢の重要性－意識・行動と成績との相関－．第2回日本薬学教育学会大会(名古屋)，2017.9.

その他

- 1) 有本收：教育の質保証について考える：参加. 大学コンソーシアム京都 2016 年度京都 FDer 塾・大学教育パワーアップセミナー(京都)，2017.1.
- 2) 有本收：大学の教育力を発信する：参加. 大学コンソーシアム京都 2016 年度第 22 回 FD フォーラム(京都)，2017.3.
- 3) 有本收：医歯薬看護系におけるアクティブラーニングの実践と展開：参加. 初年次教育実践交流会 in 北陸(金沢)，2017.5.
- 4) 加藤利三、神野賢一、豊田紘一、鎌田雅夫、有本收、田中耕一郎、渡邊雅之：光とともに—京都大学光物性研究室百周年記念誌－：編集. 「京都大学光物性研究室百周年記念誌」編集委員会，2017.12.

数学分野

学会発表等

学会発表

- 1) 上野嘉夫: 量子状態空間の余接バンドル上のハミルトン系としての測地線族. 日本応用数理学会 2017 年度年会 (東京都) , 2017.9.
- 2) 開章宏、吉村典久、高橋由佳、長澤一樹、有本收、上野嘉夫、細井信造: 学修取り組み姿勢の重要性—意識・行動と成績との相関—. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (名古屋市), 2017.9.

その他

- 1) 上野嘉夫: 理系基礎教育のデザインをめぐって, コーディネーター, 司会. 2016 年度第 22 回 FD フォーラム (京都市) , 2017.3.
- 2) 上野嘉夫: 参加. 教育 IR フォーラム (京都市) , 2017.7.
- 3) 上野嘉夫: 参加. 第 15 回高大連携教育フォーラム (京都市) , 2017.12.

一般教育

著 書

- 1) 坂本尚志: 構造と主体の問い合わせ—『分析手帖』という「出来事」, *主体の論理・概念の倫理—二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義*, 上野修, 米虫正巳, 近藤和敬編, 以文社, 169-191 (2017).
- 2) 坂本尚志: カンギレムとヘーゲル—概念の哲学としての生命の哲学, *主体の論理・概念の倫理—二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義*, 上野修, 米虫正巳, 近藤和敬編, 以文社, 319-342 (2017).
- 3) 坂本尚志: ジャック=アラン・ミレール、ジャン=クロード・ミルネール、アラン・バディウ, *主体の論理・概念の倫理—二〇世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義*, 上野修, 米虫正巳, 近藤和敬編, 以文社, 192 (2017).
- 4) 坂本尚志: 専門教育は汎用的でありえるか—ジェネリック・スキルとバカラレア哲学試験, *反「大学改革」論—若手からの問題提起*, 藤本夕衣, 古川雄嗣, 渡邊浩一編, ナカニシヤ出版, 171-187 (2017).
- 5) 坂本尚志: 「合理性の共同体」の存続のために—哲学的思考と教育, *共にあることの哲学と現実—家族・社会・文学・政治*, 岩野卓司編, 書肆心水, 113-143 (2017).

論 文

- 1) Chizu Imai: The Importance of the Five Senses in A Christmas Carol, *JAS4QoL*, 3 (4), 1-8 (2017).
- 2) 坂本尚志: 『分析手帖』研究の課題, *京薬論集*, 23, 57-73 (2017).
- 3) 坂本尚志: 共同体と他者—フーコーとともに考える, *ER 富士通総研経済研究所 経済・経営・技術読本*, 4, 26-29 (2017).
- 4) 野崎亜紀子: 〈個人の尊重〉と〈他者の承認〉—新型出生前検査から考える, *同志社アメリカ研究*, 53, 191-209 (2017).
- 5) 野崎亜紀子: 尊厳死法のゆくえ, *京薬論集*, 23, 37-45 (2017).

解説、報告書等

- 1) 鈴木栄樹: 初代京都市長となった実業家、内貴甚三郎, *経営ノート*, 265, 12 (2017).
- 2) 鈴木栄樹: 実業家市長 内貴甚三郎の「京都策」, *経営ノート*, 266, 12 (2017).

- 3) 鈴木栄樹: 幕末の儒家巖垣月洲の子 雨森菊太郎のこと, 経営ノート, 267, 12 (2017).
- 4) 鈴木栄樹: 雨森菊太郎と『京都日出新聞』, 経営ノート, 268, 12 (2017).
- 5) 鈴木栄樹: 雨森菊太郎と伝統産業振興・古社寺保存, 経営ノート, 269, 12 (2017).
- 6) 鈴木栄樹: 島津製作所の創業者 初代島津源蔵, 経営ノート, 270, 12 (2017).
- 7) 鈴木栄樹: 京都私立独逸学校の初代校主、中川重麗（四明）—没後 100 周年にあたって—, 京菴論集, 23, 47-55 (2017).
- 8) 野崎亜紀子: 日本法哲学会 2016 ワークショップ概要 リスク社会における自由と協働の秩序. 日本法哲学会編 法哲学年報 2016 ケアの法 ケアからの法, 171-173 (2017).
- 9) 野崎亜紀子: 文献紹介 鈴木利廣・水口真寿美・関口正人編著『医薬品の安全性と法—薬事法学のすすめ』, 年報医事法学, 32, 174-179 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) Ayaka Sugiyama, Takeshi Sato, and Ikuhiko Nakase: Cellular uptake of EGFR juxtamembrane domain peptide and its effects on receptor activation. 第 11 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（京都）, 2017.9
- 2) Takeshi Sato: Mechanism of signaling across the membrane by receptor tyrosine kinase. International Seminar on Biophysics and Chemical Biology of Biomembrane and Lipid Bilayers (大阪), 2017.10
- 3) Ayaka Sugiyama, Takeshi Sato, and Ikuhiko Nakase: Efficient cellular uptake of the EGFR juxtamembrane domain peptide and its effect on receptor activation. 第 54 回ペプチド討論会 (大阪), 2017.11
- 4) 野崎亜紀子: 生命医学研究におけるプロフェッショナリズム・ガバナンス・法. 日本法哲学会 2017 学術大会 (大阪), 2017.11.

講演等

- 1) 鈴木栄樹: 横浜掃部山—井伊直弼銅像建設をめぐる維新觀の対立—. ラボール学園京都労働者学校日本史講座（京都）, 2017.1.
- 2) 坂本尚志: 医療系大学における哲学教育の方法を考える. 国立教育政策研究所高等教育政策セミナー(12) 次世代哲学教育研究会第 2 回会合「哲学教育を再考する～学位プログラム・学修成果・アセスメントの観点から～」（京都）, 2017.2.

- 3) 野崎亜紀子: 人を対象とする医学系研究に関する倫理研修. 静岡県立静岡がんセンター 人を対象とする医学系研究に関する研修 (静岡) , 2017.5.
- 4) 今井千壽: 新 5 ポンド紙幣から見えてくるイギリスの今. 京都薬科大学公開講座 (京都) , 2017.10.
- 5) 鈴木栄樹: 講演「京都異才伝 1—近代京都のマルチタレント 中川重麗—」. 京薬論集刊行会主催第 15 回文化講演会 (京都) , 2017.11.
- 6) 佐藤 肇: 細胞の外から内への情報伝達のしくみ—受容体型チロシンキナーゼの活性化機構—. 日本ペチド学会市民フォーラム 2017 (大阪) , 2017.11

その他

- 1) 今井千壽: Dickens 作品における epilepsy, stroke, brain fever: 発表. 19 世紀英文学講読会. 大阪市立大学杉本キャンパス (大阪) , 2017.6.
- 2) 坂本尚志: ナカニシヤ出版『反「大学改革」論 若手からの問題提起』刊行記念トークショー“大学の現状について語り合いませんか?”. スピーカー. 丸善京都本店 (京都) , 2017.8.
- 3) 野崎亜紀子: 学習者中心の授業運営のための基礎知識ワークショップ: 講師. 大学コンソーシアム京都新任教員 FD 合同研修プログラム A, キャンパスプラザ京都 (京都) , 2017.9.
- 4) 坂本尚志: フランス教育学会研究懇話会 2017: 指定討論者. 大阪大学吹田キャンパス (大阪) , 2017.12

薬学教育研究センター

論 文

- 1) Ichiro Takahashi, Takatoshi Matsunaga, Yuuki Izumi, Yuuki Sunada, Nanae Kawakami, Yuusuke Horino, Sho Inagaki, Kenta Saitoh, Minoru Hatanaka, Shinzo Hosoi: Phthalimidine Synthesis via the Direct Condensation between Phthalide and Primary Amine in the Presence of Catalytic Amount of InCl_3 , *Lett. Org. Chem.*, **14** (3), 153-158 (2017).
- 2) Minoru Ozeki, Honoka Egawa, Toshiki Takano, Hideki Mizutani, Narumi Yasuda, Kenji Arimitsu, Tetsuya Kajimoto, Shinzo Hosoi, Hiroki Iwasaki, Naoto Kojima, Manabu Node, Masayuki Yamashita: Novel and practical asymmetric synthesis of $\beta^{2,3}$ -amino esters using asymmetric Michael addition of chiral amine, *Tetrahedron*, **73**, 2014-2021 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 平井将太、石川みすず、渋谷菜摘、濱進、細井信造、高橋侑、山下栄次、小暮健太朗: トコトリエノールとアスタキサンチンの相乗的な抗酸化活性向上における至適比率の検討. 日本ビタミン学会第69回大会（横浜）, 2017. 6.
- 2) 小暮健太朗、石川みすず、平井将太、濱進、細井信造、吉田達貞、山下栄次、高橋侑: ビタミンEとの相乗的抗酸化効果におけるアスタキサンチン立体構造の影響. 第70回日本酸化ストレス学会学術集会（つくば）, 2017. 6.
- 3) 開章宏、吉村典久、高橋由佳、長澤一樹、有本收、上野嘉夫、細井信造: 学修取り組み姿勢の重要性：意識・行動と成績との相関ー. 第2回日本薬学教育学会大会（名古屋）, 2017. 9.
- 4) 吉村典久、高橋由佳、開章宏、秋葉聰、細井信造: 6年次前期の要指導学生への取り組み内容の変化から見えてきたこと 一事前学修の重要性についてー. 第2回日本薬学教育学会大会（名古屋）, 2017. 9.

- 5) 斎藤健太、西脇良典、荒武晃弘、松永崇利、高橋一朗、細井信造: フタリドと 1 級アミンの触媒的直接縮合による生理活性フタルイミジン骨格の構築: GaCl_3 の使用による反応条件緩和化と周辺反応の検討. 平成 29 年度有機合成化学北陸セミナー (あわら), 2017.10.
- 6) 勝木穂奈美、前田和哉、酒井翔矢、高橋一朗、細井信造: 有機合成における “Waste” の活用: ホスフィンオキシドを触媒とするアセタール生成反応の機構的検討と炭素–炭素結合生成反応への挑戦. 平成 29 年度有機合成化学北陸セミナー (あわら), 2017.10.
- 7) 佐藤有史、西川裕樹、小島拓馬、三箇啓介、高橋一朗、細井信造: ベンゾトリアゾールを鍵合成子とする有機合成: 穏やかな条件下の還元的アミノ化反応を鍵工程とする有機レセプター分子の構築. 平成 29 年度有機合成化学北陸セミナー (あわら), 2017.10.
- 8) 石川みすず、平井将太、濱進、細井信造、吉田達貞、高橋侑、小暮健太朗: 相乗的抗酸化効果を示すアスタキサンチンと α -トコトリエノールのリポソーム膜における至適比率の検討. 第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 (徳島), 2017. 10.
- 9) 小暮健太朗、石川みすず、平井将太、濱進、吉田達貞、高橋侑、細井信造、福田達也、田中保: α -トコトリエノールとアスタキサンチンの相乗的抗酸化効果. 第 357 回脂溶性ビタミン総合研究委員会 (伊豆), 2017. 12.

その他

- 1) 吉村典久: 参加. 日本薬学会第137年会 (仙台), 2017.3.
- 2) 高橋由佳: 参加. 日本薬学会第137年会 (仙台), 2017.3.
- 3) 細井信造: 参加. 日本薬学会第137年会 (仙台), 2017.3.
- 4) 開章宏: 参加. 2016 年度 第 22 回 FD フォーラム 第 1 分科会 イマドキの大学教育と「よい学び」～共創ワークショップでみつける初年次教育・共通教育の課題と実践のヒント～ (京都), 2017.3.
- 5) 吉村典久: 協力 (ファシリテーター). 平成 29 年度医療専門職等多職種連携スキルアップ研修～

ファシリテーター育成研修～（第 1 回研修会）（守山）, 2017.7.

- 6) 開章宏： 参加. 2017 年度 教育 IR フォーラム 変革する大学！「学修成果の可視化」から教育・授業を変える～教学データや IR 分析に基づく改革の実践～（京都）, 2017.7.
- 7) 吉村典久： 協力（ファシリテーター）. 平成 29 年度医療専門職等多職種連携スキルアップ研修～ファシリテーター育成研修～（第 2 回研修会）（守山）, 2017.8.
- 8) 細井信造： モニター員. 2017 年度薬学共用試験 CBT 体験受験（京都大学）, 2017.9.
- 9) 吉村典久： 協力（ファシリテーター）. 平成 29 年度医療専門職等多職種連携スキルアップ研修～ファシリテーター育成研修～（第 4 回研修会）（守山）, 2017.10.
- 10) 吉村典久： 協力（ファシリテーター）. 平成 29 年度医療専門職等多職種連携スキルアップ研修～ファシリテーター育成研修～（第 5 回研修会）（守山）, 2017.10.
- 11) 吉村典久： 協力（ファシリテーター）. 平成 29 年度医療専門職等多職種連携スキルアップ研修～ファシリテーター育成研修～（第 6 回研修会）（高島）, 2017.11.

臨床薬学教育研究センター

著 書

- 1) 今西孝至 (分担) : 第2章 高血圧症 CASE30, 第4章 心疾患 CASE50. 症例から考える代表的な8疾患, 京都府薬剤師会編集, pp.68-69, pp.118-119, じほう (2017).
- 2) 橋詰 勉 (分担) : 第5章 厚生労働省から提供される情報. 医薬品情報学, 橋詰 勉, 栄田敏之編集, pp.79-90, 廣川書店 (2017).
- 3) 矢野義孝 (分担) : 第14章 個別化医療の計画・立案. スタンダード薬学シリーズ II6 医療薬学 V. 薬物治療に役立つ情報 日本薬学会編集, pp.267-273, 東京化学同人 (2017).

論 文

- 1) Yugo Chisaki, Nobuhiko Nakamura, Yoshitaka Yano: Time-series modeling and simulation for comparative cost-effective analysis in cancer chemotherapy: an application to platinum-based regimens for advanced non-small cell lung cancer, *Biol. Pharm. Bull.*, **40** (1), 73-81 (2017).
- 2) Nanako Koyama, Chikako Matsumura, Hiroaki Morii, Chihiro Hasegawa, Daiki Hira, Yataro Daigo, Tomohiro Terada, Yoshitaka Yano: Investigation of optimal time for starting betamethasone using fatigue scores and prognostic nutritional index in terminally ill patients with cancer-related fatigue. *Am. J. Hosp. Palliat. Med.*, **34** (5), 449-455 (2017).
- 3) Yugo Chisaki, Shoki Aoji, Yoshitaka Yano: Analysis of adverse drug reaction risk in elderly patients using the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database, *Biol. Pharm. Bull.*, **40** (6), 824-829 (2017).
- 4) 中村暢彦、中嶋江美、森田 直、岡田知子、籠本基成、小林政彦、矢野義孝: 抗がん薬における注射バイアル規格の妥当性評価手法の検討, 日本病院薬剤師会雑誌, **53** (11), 1389-1395 (2017).
- 5) 今西孝至、川端崇義、高山 明: 日本アンチ・ドーピング機構のドーピング防止規律パネル決定報告を基にした日本のドーピングの現状及び今後の薬剤師によるアンチ・ドーピング活動に対する考察, *YAKUGAKU ZASSHI*, **137** (7), 883-891 (2017).
- 6) 今西孝至、高松千世、高山 明: 医薬品の薬効を示すピクトグラムの作成とその必要性並びに評価について, *医療薬学*, **43** (11), 640-647 (2017).

プロシーディングス

解説、報告書等

- 1) 小山菜々子、松村千佳子、森井博朗、長谷川千晶、寺田智祐、矢野義孝: 終末期がん患者の倦怠感治療におけるベタメタゾンの効果的な投与開始時期と投与指標に関する探索的研究, *医薬ジャーナル*, **53** (2), 703-708 (2017).
- 2) 津島己幸: カロテノイドの吸收と代謝 (1) , *FOOD STYLE 21*, **21** (4) , 38-41 (2017).
- 3) 津島己幸: カロテノイドの吸收と代謝 (2) , *FOOD STYLE 21*, **21** (5) , 38-41 (2017).
- 4) 楠本正明: 地域包括ケアシステムにおける病院薬剤師のあるべき姿, *Established PHARMACIST* (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 岡村美代子、今西孝至、高山 明、楠本正明: 在宅医療における薬剤師の役割に関するケアマネジャーの意識調査 ~テキストマイニング手法を用いた客観的解析~. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 2) 富岡佳久、岡村 昇、橋詰 勉、入江徹美、野田幸裕、有田悦子、石田志朗、木内祐二、木津純子、田村 豊、中嶋幹郎、松下 良、松元一明、吉富博則、宮崎 智、伊藤智夫、奥 直人: 薬学共用試験 OSCE の結果解析—2016—. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 3) 堀口大介、地寄悠吾、松村千佳子、矢野義孝: 医薬品副作用データベースにおける情報抽出と解析の自動化を目的としたアプリケーションの開発. 日本薬学会第137年会(仙台), 2017.3.
- 4) 鍋島拓也、本橋秀之、大村 厚、矢野義孝: 国内自発報告データベース (JADER) を用いた腎関連有害事象発現に対する原疾患の影響. 第20回日本医薬品情報学会総会・学術大会(東京), 2017.7.
- 5) 和田奈緒夏、本橋秀之、太田 遥、柄山詩帆、三浦 誠、矢野義孝: 2型糖尿病患者の初回受診理由の違いが治療等に与える影響. 第20回日本医薬品情報学会総会・学術大会(東京), 2017.7.
- 6) 石川さと子、伊藤智夫、中村明弘、増野匡彦、伊藤 喬、橋詰 勉、宮崎 智、前田定秋、山口政俊、出口 芳春、石塚忠男、三田智文、入江徹美、野田幸裕、飯島史朗、松野純男、奥 直人: 2016年度薬学共用試験報告. 第49回日本医学教育学会大会(札幌), 2017.8.
- 7) 河西翔平、高田和幸、射手園将真、長山紘子、黒田絵莉子、地寄悠吾、戸田侑紀、中田晋、矢野義孝、芦原

- 英司: アルツハイマー病モデルマウス海馬への骨髓由来ミクログリア様細胞移植における移植細胞の機能と脳内動態解析. 生体機能と創薬シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 8) 長山紘子、高田和幸、河西翔平、射手園将真、黒田絵莉子、地寄悠吾、戸田侑紀、中田晋、矢野義孝、芦原英司: アルツハイマー病の細胞治療法の開発を目指した骨髓由来ミクログリア様細胞のマウス脳内移植および脳内動態の解析. 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2017 (京都) , 2017.8.
- 9) 今西孝至、三浦 誠、大津山裕美子、中林 保、西村公男、河崎純子、西村 豊、松本賢哉、秋葉 聰、楠本正明: 京都薬科大学近隣地域の医療施設と連携した在宅チーム医療教育体制の基盤構築. 第2回日本薬学教育学会大会 (名古屋) , 2017.9.
- 10) 野田幸裕、岡村 昇、橋詰 勉、入江徹美、石田志朗、木内祐二、木津純子、田村 豊、富岡佳久、中嶋幹郎、松下 良、松元一明、吉富博則、奥 直人: 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴う新規 OSCE 課題のトライアル. 第2回日本薬学教育学会大会 (名古屋) , 2017.9.
- 11) Yugo Chisaki, Tomohiro Terada, Yoshitaka Yano: Bayesian prediction of myelosuppression profiles based on routine clinical data after gemcitabine and cisplatin treatment, 15th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology 2017 (Kyoto) , 2017.9.
- 12) 岡輝、高田和幸、河西翔平、射手園将真、長山紘子、黒田絵莉子、地寄悠吾、戸田侑紀、中田晋、矢野義孝、芦原英司: マウス骨髓由来ミクログリア様細胞の *in vitro* および *in vivo* における生物学的動態および機能の解析. 第11回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 2017 (京都) , 2017.10.
- 13) 今西孝至、山本康平、高山 明、楠本正明: 薬局薬剤師による在宅医療活動の現状と今後の課題. 第27回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.
- 14) 上野理恵、山田正実、地丸裕美、松村千佳子、矢野義孝、高橋一栄: 外来がん疼痛患者への診察前面談による継続的薬剤師介入の効果. 第27回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.
- 15) 中村暢彦、中嶋江美、森田 直、岡田知子、籠本基成、小林政彦、矢野義孝: ペメトレキセド製剤における注射バイアル規格の妥当性評価手法の検討. 第27回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.
- 16) 橋詰 勉: 近畿地区での薬・薬・薬 (三薬) 連携. 第27回日本医療薬学会年会シンポジウム (千葉) , 2017.11.
- 17) 廣中佑香、松村千佳子、山田正実、地丸裕美、上野理恵、矢野義孝、高橋一栄: 外来がん疼痛患者のオピオイド鎮痛薬使用に対する継続的薬剤師介入の効果に関する検討. 第27回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.

- 18) 藤矢実那美、光岡里奈、矢野義孝、三浦 誠、本橋秀之: 入院および外来通院認知症患者における抑肝散の副作用調査. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.
- 19) 松村千佳子、地寄悠吾、矢野義孝: PMDA の医薬品副作用データベース (JADER) を用いたベバシズマブ投与患者における血栓塞栓症に関する評価. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.
- 20) 村岡佑梨子、柿本真佑、河野修治、権藤直人: 当院における転倒・転落のインシデントと睡眠薬の関連性に関する研究報告. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.
- 21) 本橋秀之: 認知症患者における抑肝散の副作用情報解析. 第 7 回 KPU-OHP 臨床医薬カンファレンス (京都) , 2017.11.
- 22) 吉戒 渉、地寄悠吾、松村千佳子、矢野義孝: 薬剤師の病棟業務が入院患者の平均在院日数に与える影響. 第 27 回日本医療薬学会年会 (千葉) , 2017.11.

講演等

- 1) 今西孝至: 講演「フィジカルアセスメントと救急対応」. 第 1 回ファーマシューティカルフィジカルアセスメント研修会 2017 in 大阪 (大阪) , 2017.2.
- 2) 今西孝至: 講演「薬剤師のためのフィジカルアセスメント」. 京都北薬剤師会勉強会 (京都) , 2017.2.
- 3) 今西孝至: 講演「フィジカルアセスメントの基礎の基礎 ~実際に体験してみよう~」. 第 2 回ファーマシューティカルフィジカルアセスメント研修会 2017 in 大阪 (大阪) , 2017.5.
- 4) 今西孝至: 講演「ドーピングとは? : スポーツと薬剤師との間にある関係」. 大阪府立岸和田高等学校 (岸和田) , 2017.8.
- 5) 津島美幸: 講演「海洋動物のカロテノイド研究を振り返って」. カロテノイド研究会若手の会 (京都) , 2017.9.
- 6) 今西孝至: 講演「フィジカルアセスメント (バイタルサイン聴取について)」. 済生会中和病院地域連携研修会 (桜井) , 2017.10.
- 7) 楠本正明: 講演「指導薬剤師への期待と臨床研究のススメ」. 第 3 回薬剤師のためのスキルアップセミナー (京都) , 2017.10.
- 8) 矢野義孝: 講演「解析担当者の立場から～薬剤師による緩和医療に関わる臨床研究データの解析手法～」. 第

27回日本医療薬学会年会（千葉）, 2017.11.

- 9) 地嵜悠吾: 講演「数理モデルを用いたがん化学療法における医薬品評価に関する研究」. 第27回日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演（千葉）, 2017.11.

その他

- 1) 今西孝至: 協力（ファシリテーター）. 平成28年度医療専門職等育成研修（第8回研修会）（守山）, 2017.1.
- 2) 今西孝至: 協力（ファシリテーター）. 平成28年度地域医療に寄与するファシリテーター養成研修（第5回研修会）（守山）, 2017.1.
- 3) 今西孝至: 協力（ファシリテーター）. 平成28年度医療専門職等育成研修（第9回研修会）（守山）, 2017.2.
- 4) 今西孝至: 協力（ファシリテーター）. 平成28年度医療専門職等育成研修（第10回研修会）（守山）, 2017.3.
- 5) 本橋秀之: 参加. 近畿地区実務実習地域連絡会（兵庫）, 2017.4.
- 6) 楠本正明: 参加. 近畿地区実務実習地域連絡会（京都）, 2017.4.
- 7) 津島美幸: 参加. 近畿地区実務実習地域連絡会（京都）, 2017.4.
- 8) 中村暢彦: 参加. 近畿地区実務実習地域連絡会（大阪）, 2017.4.
- 9) 松村千佳子: 参加. 近畿地区実務実習地域連絡会（兵庫）, 2017.4.
- 10) 今西孝至: 参加. 近畿地区実務実習地区連絡会（橿原）, 2017.4.
- 11) 河野修治: 参加. 近畿地区実務実習地域連絡会（草津）, 2017.4.
- 12) 今西孝至: 模擬講義「薬学部とは（薬学教育と薬剤師教育）」. 私立奈良育英高等学校（奈良）, 2017.6.
- 13) 今西孝至: 協力（タスクフォース）. 第88回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿（京都）, 2017.8.
- 14) 松村千佳子、地嵜悠吾、矢野義孝: 講師. 研究支援セミナー2&3 ①「薬剤師による臨床研究～計画の立て方と研究の進め方の実際～」②演習・SGD「臨床試験計画の立て方の実際」. 京都薬科大学 生涯教育センター

主催（京都）, 2017.9.

- 15) 今西孝至: 協力（講師・インストラクター）. 京都府薬剤師会“救急・災害に強い薬剤師養成講習会”（京都）, 2017.12.
- 16) 河野修治: 評価者. 2017 年度摂南大学薬学部薬学共用試験 OSCE（枚方）, 2017.12.
- 17) 本橋秀之: 評価者. 2017 年度摂南大学薬学部薬学共用試験 OSCE（枚方）, 2017.12.
- 18) 津島美幸: 評価者. 2017 年度大阪薬科大学薬学部薬学共用試験 OSCE（高槻）, 2017.12.
- 19) 松村千佳子: 評価者. 2017 年度京都大学薬学部薬学共用試験 OSCE（京都）, 2017.12.
- 20) 矢野義孝: 評価者. 2017 年度京都大学薬学部薬学共用試験 OSCE（京都）, 2017.12.
- 21) 今西孝至: 評価者. 2017 年度同志社女子大学薬学部薬学共用試験 OSCE（京田辺）, 2017.12.
- 22) 楠本正明: 評価者. 2017 年度同志社女子大学薬学部薬学共用試験 OSCE（京田辺）, 2017.12.
- 23) 中村暢彦: 評価者. 2017 年度同志社女子大学薬学部薬学共用試験 OSCE（京田辺）, 2017.12.
- 24) 「病院・薬局実習における施設連携構築（グループ化）に係る区分協議会（上京・山科地区）」開催（京都）, 2017.1.
- 25) 「京都薬科大学実務実習グループ化に関する説明会（北・中京・東山地区）」開催（京都）, 2017.2.
- 26) 「京都薬科大学実務実習グループ化に関する説明会（下京・南・伏見・右京・西京地区）」開催（京都）, 2017.2.
- 27) 楠本正明、今西孝至: 「改訂モデル・コアカリキュラムに準じた病院・薬局実習における施設連携構築（グループ化）に関する説明会（舞鶴地区）」開催（舞鶴）, 2017.7.
- 28) 楠本正明、中村暢彦: 「改訂モデル・コアカリキュラムに準じた病院・薬局実習における施設連携構築（グループ化）に関する説明会（福知山・綾部地区）」開催（福知山）, 2017.8.
- 29) 楠本正明、河野修治: 「改訂モデル・コアカリキュラムに準じた病院・薬局実習における施設連携構築（グループ化）に関する説明会（丹後地区）」開催（宮津・京丹後地区）（与謝野）, 2017.9.

- 30) 「平成 29 年度第 1 回京都薬科大学実務実習グループ協議会（グループ 12）」開催（京都）, 2017.10.
- 31) 「平成 29 年度第 1 回京都薬科大学実務実習グループ協議会（グループ 3,6,7,8,9）」開催（京都）, 2017.11.
- 32) 「平成 29 年度第 1 回京都薬科大学実務実習グループ協議会（グループ 2,5,10,11,14）」開催（京都）, 2017.11.
- 33) 今西孝至: 協力（研修運営スタッフ）. 平成 28 年度地域医療研修支援事業（守山）, 2017.1-3（毎週水曜日）.
- 34) 楠本正明: 協力. 4 大学連携研究「高齢者視点の地域医療・介護デザインの提案」（京都）, 2017.5.
- 35) 楠本正明、今西孝至: 協力. 京都ヘルスサイエンス総合研究センター共同研究「軽度認知症高齢者の自立的な在宅生活を維持する住環境デザインの構築」（京都）, 2017.10.
- 36) 本橋秀之: 協力者. 2016 年度実務支援セミナー（京都）, 2017.12.
- 37) 「京都薬科大学模擬患者の会」運営.

情報処理教育研究センター

学会発表等

その他

- 1) 藤原洋一：協力(講師). 2017 年度 研究支援セミナー1 「PC 演習・入門編演習 臨床研究に役立つデータ解析技能～表計算ソフト Excel の活用からレポート作成まで～」. 京都薬科大学 生涯教育センター主催(京都), 2017.8.
- 2) 石川誠司：協力(タスクフォース). 2017 年度 研究支援セミナー1 「PC 演習・入門編演習 臨床研究に役立つデータ解析技能～表計算ソフト Excel の活用からレポート作成まで～」. 京都薬科大学 生涯教育センター主催(京都), 2017.8.
- 3) 藤原洋一：協力(タスクフォース). 第 88 回認定実務実習指導薬剤師のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿(京都), 2017.8.
- 4) 石川誠司、藤原洋一：協力(タスクフォース). 2017 年度 研究支援セミナー2&3 「臨床研究のためのデータ解析技能～統計計算手法の習得と結果の解釈～」. 京都薬科大学 生涯教育センター主催(京都), 2017.9.
- 5) 藤原洋一：第 189 回応急手当普及員講習会(再講習) (京都), 2017.11.
- 6) 石川誠司：評価者. 2017 年度摂南大学薬学部薬学共用試験 OSCE(枚方), 2017.12.

学生実習支援センター

著書

- 1) 河野享子: Unit 5. Cell Structure & Function, Unit 6. Host Defense Mechanisms Against Infection, *薬学生のための英語 1*, 日本薬学英語研究会, pp.32-35, pp.40-43, p.54 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 河野享子、高尾郁子、大谷有佳、千原佳子、徳山友紀、平山恵津子、小関稔、木村徹、北出達也: 科学・技術 学修の促進を図る動画教材の開発と活用. 2016 年度第 22 回 FD フォーラム (京都), 2017.3.
- 2) 大谷有佳、平山恵津子、河野享子、高尾郁子、木村徹、小関稔、千原佳子、徳山友紀、北出達也: 実験実習教育における予習教材の利用と自主的な取り組みを促進する工夫と効果. 日本薬学会第 137 年会 (宮城), 2017.3.
- 3) 高尾郁子、河野享子、大谷有佳、小関稔、木村徹、平山恵津子、千原佳子、徳山友紀、北出達也: 地域児童を対象とした理科実験講座“身近な夏の不思議体験 2016 イン 山科”的実践. 日本薬学会第 137 年会 (宮城), 2017.3.
- 4) 高尾郁子、木村徹、千原佳子、木村寛之、有光健治、内藤行喜、河野享子、大谷有佳、平山恵津子、徳山友紀、安井裕之、北出達也: 実験実習における能動的学修推進への取り組みー分析化学実習に導入した「ピアレビューによる実技確認（検定）」の効果についてー. 第 2 回日本薬学教育学会大会 (名古屋), 2017.9.

その他

- 1) 河野享子、高尾郁子、大谷有佳: 2016 年度京都 FDer 塾×大学教育パワーアップセミナー合同企画：教育の質保証について考える. 参加 (京都), 2017.1.
- 2) 高尾郁子: 応急手当普及員再講習会 (京都), 2017.2.
- 3) 学生実習支援センター: 京都はぐくみ憲章実践推進者実践継続推進者 (10 周年特別部門) 表彰 (京都), 2017.2.

- 4) 河野享子、高尾郁子、大谷有佳、千原佳子、徳山友紀: 2016年度第22回FDフォーラム:大学の教育力を発信する。参加(京都), 2017.3.
- 5) 河野享子、高尾郁子: 2016年度第23回大学教育研究フォーラム 参加(京都), 2017.3.
- 6) 高尾郁子: 第6期MOSTフェローシッププログラム 参加, 2017.3.
- 7) 高尾郁子、河野享子、大谷有佳、千原佳子、徳山友紀、北出達也: 「身近な夏の不思議体験 2017 イン 山科」ワークショップ開催(京都薬科大学), 2017.7.
- 8) 高尾郁子、河野享子、大谷有佳、千原佳子、徳山友紀、北出達也: 理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2017 イン 山科」:顕微鏡を作つてみよう, ミクロの世界をのぞいてみよう. 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動, 山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会共催,(京都薬科大学), 2017.7.
- 9) 河野享子: 応急手当普及員再講習会(京都), 2017.7.
- 10) 大谷有佳: 大学コンソーシアム京都 大学教職員の為の英語スキルアップ研修第1回, 3回, 5回 参加(京都), 2017.7.
- 11) 河野享子、高尾郁子: 2017年度第15回高大連携教育フォーラム:いま育成すべき力は何かをともに考える~高等学校・大学の役割~. 参加(京都), 2017.12.

薬用植物園

論 文

- 1) Takahiro Matsumoto, Seikou Nakamura, Souichi Nakashima, Tomoe Ohta, Keiko Ogawa, Masashi Fukaya, Junko Tsukioka, Tomohiro Hasei, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda: Neolignan and megastigmane glucosides from the aerial parts of *Isodon japonicus* with cell protective effects on BaP-induced cytotoxicity. *Phytochemistry*, 137, 101–10 (2017).

学会発表等

学会発表

- 1) 森信之介、川上真理、大石雅典、福井宏至、後藤勝実、月岡淳子、佐久間正幸、中西テツ、渡辺正夫、平井伸博：ウメの薬の螢光とミツバチの訪花行動への影響 日本農芸化学会 2017 年度大会（京都），2017.3.
- 2) 宮之脇翔太、中村誠宏、月岡淳子、松本朋子、太田智絵、中嶋聰一、松田久司：アカネ科アカネおよびセイヨウアカネの主要アントラキノン類の定性・定量分析とそれらの生体機能性 日本薬学会第 137 年会（仙台），2017.3.
- 3) 中田葵、中村誠宏、中嶋聰一、笠香織、山添晶子、松本朋子、太田智絵、小川慶子、深谷匡、月岡淳子、松田久司：ショウガ (*Zingiber officinale*) の主要成分 [6]-gingerol の絶対立体配置の確認および誘導体の抗炎症作用. 日本薬学会第 137 年会（仙台），2017.3.
- 4) 森信之介、川上真理、大石雅典、福井宏至、後藤勝実、月岡淳子、佐久間正幸、中西テツ、渡辺正夫、平井伸博：ウメの薬が発する螢光とミツバチの訪花行動の化学生態学 第 61 回日本応用動物昆虫学会大会（東京），2017.3.
- 5) 河上恵梨子、増田晃秀、土田貴志、月岡淳子：山梔子の基原及び品質に関する研究（第 4 報）－クチナシの採取時期に対するゲニポシド含量の調査－ 日本生薬学会第 64 回年会（千葉），2017.9.
- 6) 宮之脇翔太、中村誠宏、月岡淳子、太田智絵、中嶋聰一、松田久司：日本産アカネ *Rubia argyi* の主要アントラキノン類の定性・定量分析とその機能性評価 日本生薬学会第 64 回年会（千葉），2017.9.
- 7) 森信之介、新間秀一、増子（鈴木）潤美、渡辺正夫、中西テツ、月岡淳子、福井宏至、後藤勝実、平井伸博：ウメ不稔性花粉の螢光とミツバチの訪花行動への影響の考察 日本花粉学会第 58 回大会（静岡），2017.9.

- 8) 森信之介、新聞秀一、増子（鈴木）潤美、渡辺正夫、中西テツ、月岡淳子、福井宏至、後藤勝実、平井伸博：ウメ花粉の発達異常と螢光およびそのミツバチ訪花行動への影響 植物化学調節学会第52回大会（鹿児島），2017.10.

その他

- 1) 前田晋作：見学案内。南山高等学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.4.
- 2) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。岡山薬草研究会（薬用植物園），2017.5.
- 3) 前田晋作：見学案内。木津川市立泉川中学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.5.
- 4) 前田晋作：見学案内。木津川市立木津南中学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.5.
- 5) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。一般社団法人岐阜県薬剤師会（薬用植物園），2017.5.
- 6) 前田晋作：見学案内。京都市立西京極中学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.6.
- 7) 前田晋作：見学案内。京都薬科大学オープンキャンパス（薬用植物園御陵園），2017.6.
- 8) 月岡淳子：講師。公益財団法人日本薬剤師研修センター主催平成29年度漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修（薬用植物園），2017.6.
- 9) 月岡淳子、前田晋作：見学案内。京都市立日野小学校2年生生活科「おしえて町のお気に入り」（薬用植物園），2017.6.
- 10) 前田晋作：見学案内。初芝富田林中学校高等学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.6.
- 11) 前田晋作：見学案内。久御山町立久御山中学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.6.
- 12) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。認定NPO法人シニア自然大学校第22期星組（薬用植物園），2017.6.
- 13) 月岡淳子：植物解説。堅香子の会（薬用植物園），2017.7.
- 14) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。公益財団法人京都YMCA（薬用植物園），2017.7.

- 15) 前田晋作：見学案内。京都文教高等学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.7.
- 16) 月岡淳子、前田晋作：講師。京都薬科大学薬用植物園公開講座「第29回日野けしのみ塾」（薬用植物園），2017.7.
- 17) 松田久司、月岡淳子、前田晋作：体験実習。京都薬科大学オープンキャンパス 薬用植物・生薬を用いた匂い袋作り体験（薬用植物園御陵園），2017.8.
- 18) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。里山悠遊会（薬用植物園），2017.9.
- 19) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。日野自治会（薬用植物園），2017.9.
- 20) 前田晋作：見学案内。滋賀県立石山高等学校（入試課による大学紹介の一環）（薬用植物園御陵園），2017.9.
- 21) 月岡淳子、前田晋作：講師。甲賀市立油日小学校・塩野義製薬株式会社油日植物園見学会（滋賀），2017.10.
- 22) 月岡淳子：講師。公益財団法人日本薬剤師研修センター主催平成29年度漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修（薬用植物園），2017.10.
- 23) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。認定NPO法人シニア自然大学校風組（薬用植物園），2017.10.
- 24) 松田久司、月岡淳子、前田晋作：展示協力、薬用植物園御陵園における植物解説 第24回京都薬科大学公開講座（薬用植物園御陵園），2017.10.
- 25) 月岡淳子、前田晋作：植物解説。欲張り観察会（薬用植物園御陵園），2017.10.

放射性同位元素研究センター

著 書

- 1) 河嶋秀和: 第1章, 第2章, 第3章, 第4章, 第6章, 第11章, Appendix. 臨床放射薬学, 河嶋秀和、木村寛之 編著, pp. 3–8, 15–18, 58–80, 83–146, 177–190, 267–280, 289–293, 京都廣川書店 (2017) .

論 文

- 1) Nobuhiro Oshima, Hiromichi Akizawa, Hidekazu Kawashima, Songji Zhao, Yan Zhao, Ken-ichi Nishijima, Yoji Kitamura, Yasushi Arano, Yuji Kuge, Kazue Ohkura: Redesign of negatively charged ^{111}In -DTPA-octreotide derivative to reduce renal radioactivity, *Nucl. Med. Biol.*, **48**, 16–25 (2017) .
- 2) Hidekazu Kawashima, Atushi Nakano, Yoshinori Miyake, Tsutomu Zeniya, Kazuhiro Koshino, Akihide Yamamoto, Akemi Kakino, Yoshiko Fujita, Takashi Temma, Tatsuya Sawamura, Hidehiro Iida: Biodistribution of ^{123}I -labelled oxidized low-density lipoprotein (oxLDL) in normal mice, *J. Label. Compd. Radiopharm.*, **60** (Suppl. 1), S472 (2017) .
- 3) Atushi Nakano, Hidekazu Kawashima, Yoshinori Miyake, Tsutomu Zeniya, Akihide Yamamoto, Kazuhiro Koshino, Takashi Temma, Tetsuya Fukuda, Yoshiko Fujita, Akemi Kakino, Shigehiko Kanaya, Tatsuya Sawamura, Hidehiro Iida: ^{123}I -Labeled oxLDL is widely distributed throughout the whole body in mice, *Nucl. Med. Mol. Imaging*, Online ISSN 1869–3482 (2017) .
- 4) Nobuhiro Oshima, Hiromichi Akizawa, Hirotake Kitaura, Hidekazu Kawashima, Songji Zhao, Yan Zhao, Ken-ichi Nishijima, Yoji Kitamura, Yasushi Arano, Yuji Kuge, Kazue Ohkura: ^{111}In -DTPA-D-Phe¹-Asp⁰-D-Phe¹-octreotide exhibits higher tumor accumulation and lower renal radioactivity than ^{111}In -DTPA-D-Phe¹-octreotide, *Nucl. Med. Biol.*, **54**, 18–26 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 河嶋秀和、中野厚史、三宅義徳、銭谷 勉、越野一博、山本明秀、垣野明美、藤田佳子、天満 敬、沢村達也、飯田秀博: 健常マウスにおける酸化 LDL の体内動態に関する検討 : I-123 標識体を用いた評価. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 2) 天満 敬、河嶋秀和、近藤直哉、山崎 真、越野一博、飯田秀博: 乳酸の脳内動態解析を目的とし

た L-[3-¹¹C]lactate の合成とインビボ PET 画像解析. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.

- 3) 桶谷 亮、木村寛之、有光健治、宮本佳美、河嶋秀和、藤本裕之、渡邊裕之、小野正博、稻垣暢也、佐治英郎、安井裕之: 移植臍島量の定量評価を目的とした分子イメージング法の開発. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 4) 西田なつき、木村寛之、有光健治、桶谷 亮、宮本佳美、河嶋秀和、藤本裕之、渡邊裕之、小野正博、稻垣暢也、佐治英郎、安井裕之: インスリノーマの局在診断を目指した PET 分子イメージングプローブの開発研究. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 5) 古川武典、木村寛之、有光健治、戸田力也、徳田安則、河嶋秀和、瀧 真清、佐治英郎、安井裕之: NEXTA 反応を用いた 18F 標識アミノ酸導入法の開発. 日本薬学会第 137 年会（仙台）, 2017.3.
- 6) Hidekazu Kawashima, Atushi Nakano, Yoshinori Miyake, Tsutomu Zeniya, Kazuhiro Koshino, Akihide Yamamoto, Akemi Kakino, Yoshiko Fujita, Takashi Temma, Tatsuya Sawamura, Hidehiro Iida: Biodistribution of ¹²³I-labelled oxidized low-density lipoprotein (oxLDL) in normal mice. 22nd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences (Dresden, Germany), 2017.5.
- 7) 木村寛之、河嶋秀和、有光健治、屋木祐亮、川崎保弘、平野圭市、表 正宏、安井裕之: 放射性医薬品に関する薬学生の意識調査とデモ実習への取り組み. 第2回日本薬学教育学会大会(名古屋), 2017.9.
- 8) 古川武典、木村寛之、有光健治、戸田力也、河嶋秀和、安井裕之、佐治英郎、瀧 真清: NEXTA 反応を用いた 18F 標識アミノ酸導入法の開発と PET プローブへの応用. 第 17 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 第 1 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会（京都）, 2017.9.

講演等

- 1) 河嶋秀和: 酸化 LDL が有する新規生理活性の探索に向けて—放射性トレーサー法を用いた検討—. 第 8 回 KPU シンポジウム（京都）, 2017.5.

その他

- 1) 河嶋秀和: 平成 29 年度 大学等における放射線安全管理研修会（参加）（東京）, 2017.8.
- 2) 河嶋秀和: 平成 29 年度 放射線安全管理講習会（参加）（福岡）, 2017.11.

バイオサイエンス研究センター

論 文

- 1) Tetsu Nishikawa, Naoki Morishita: An Investigation of the Consciousness of People Attending Memorial Services for Laboratory Animals, *JAS4QoL*, 3 (1), 5:1-5 (2017)

総 説

- 1) 西川哲：日本の動物実験の歴史に関する一考察, *実験動物技術*, 52 (1), 1-10 (2017) .
- 2) 堀翔太郎、石川真帆、中村茜、和田将人、大村知幹、菅野尚子、澤藤航、清水何一、枝郁子、西川哲：京都薬科大学で運用している実験動物施設の管理ソフトについて, *実験動物技術*, 52 (2), 77-84 (2017) .

学会発表等

学会発表

- 1) 石川真帆、堀翔太郎、中村茜、和田将人、大村知幹、菅野尚子、枝郁子、鬼頭靖司、西川哲：京都薬科大学バイオサイエンス研究センターにおける汚染事故対策とマウス発生工学的手法の応用について. 第51回日本実験動物技術者協会総会（山形）, 2017.10
- 2) Chihiro Inouye, Mai Taniguchi, Sadao Wakabayashi, Kanae Sasaki, Michiko Saito, Boaz Tirosh, Hiderou Yoshida : The Golgi stress response during differentiation of plasma cells. 生命科学系学会合同年次大会（神戸）, 2017.12

共同利用機器センター

著書

- 1) 長谷川功紀: 第3章 放射性標識ペプチドを用いた分子病理診断・内用放射線治療薬剤の開発. 医療・診断をささえるペプチド科学—再生医療・DDS・診断への応用—, 平野義明監修, pp289-297, シーエムシー出版 (2017)

論文

- 1) Koki Hasegawa, Emi Kawachi, Yoshinari Uehara, Tsuyoshi Yoshida, Satoshi Imaizumi, Masahiro Ogawa, Shin-ichiro Miura, Kejiro Saku: Improved ^{68}Ga -labeling method using ethanol addition: Application to the α -helical peptide DOTA-FAMP, *J. Label. Compd. Radiopharm.*, **60** (1), 55-61 (2017).
- 2) Koki Hasegawa, Shinji Kudoh, Takaaki Ito: Somatostatin receptor staining in FFPE sections using a ligand derivative dye as an alternative to immunostaining. *PLoS One.*, **12** (2), e0172030 (2017).
- 3) Masaki Asai, Yukiko Takemoto, Ayaka Deguchi, Yasunao Hattori, Hidefumi Makabe: An asymmetric synthesis of (+)-monomorine I. *Tetrahedron: Asymmetry.*, **28** (11), 1582-1586 (2017).
- 4) Kohki Takanashi, Manato Suda, Kiriko Matsumoto, Chisato Ishihara, Kazuya Toda, Koichiro Kawaguchi, Shogo Senga, Narumi Kobayashi, Mikihiro Ichikawa, Miyuki Katoh, Yasunao Hattori, Sei-ichi Kawahara, Koji Umezawa, Hiroshi Fujii, Hidefumi Makabe: Epicatechin oligomers longer than trimers have anti-cancer activities, but not the catechin counterparts. *Scientific Reports.*, **7**, 7791 (2017).
- 5) Kazuya Kobayashi, Takaaki Mizuguchi, Yasunao Hattori, Naho Ohara, Ryunosuke Ninomiya, Mika Iida, Honami Ooe, Yukako Yamazaki, Minami Takata, Hirokazu Tamamura, Kenichi Akaji: Effects of replacement and addition of an amino acid contained in a cyclic peptide corresponding to a β -hairpin loop sequence of human EGF receptor. *J. Pept. Sci.*, **23** (7-8), 581-586 (2017).
- 6) Masaki Asai, Yasunao Hattori, Hidefumi Makabe: Synthesis of fisocoumarin compounds, 8-hydroxy-6-methoxy-3-pentyl-1H-isochromen-1-one and fusariumin analog using palladium-catalyzed carbonylation trapping with *O*-Enolate. *Heterocycles.*, **94** (8), 1542-1553 (2017).
- 7) Yukiko Takemoto, Yasunao Hattori, Hidefumi Makabe: Synthesis of (-)-isosolenopsin using diastereoselective aminopalladation. *Heterocycles.*, **94** (2), 286-296 (2017).

総説

- 1) Yasunao Hattori, Hidefumi Makabe: Chapter 5 The biological activities and synthesis of 2,6-disubstituted piperidinols, in: A. Rahman (Ed.) , Volume 3, pp196-220, Bentham Science (2017)

プロシーディングス

- 1) Koki Hasegawa, Rika Maedomari, Shinji Kudoh, Takaaki Ito: Detection of cholecystokinin B receptor in formalin-fixed, paraffin-embedded sections using a CCK8 derivative. *Peptide Science 2016*, 139-140 (2017)

学会発表等

学会発表

- 1) 武本夕貴子, 服部恭尚, 真壁秀文: 立体選択性アミノパラデーションを用いた (-)-isosolenpsin と (+)-monomorine の合成研究. 日本農芸化学会大会 2017 年度大会 (京都) , 2017.3.
- 2) 吉澤慎一郎, 足尾真美, 越野裕貴, 山中優季, 小林数也, 服部恭尚, 赤路健一: オクタヒドロイソクロメン骨格を基盤とする縮環型 SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤の合成. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 3) 大西康司, 嶋本康広, 小林数也, 服部恭尚, 照屋健太, 赤路健一: デカヒドロイソキノリン骨格を基盤とする新規縮環構造型 SARS 3CL protease 阻害の設計と合成. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 4) 城寶大輝, 小林数也, 服部恭尚, 赤路健一: N-アミジノピペリジン型 BACE1 阻害剤の合成. 日本薬学会第 137 年会 (仙台) , 2017.3.
- 5) Koki Hasegawa, Rika Maedomari, Kumiko Goto, Akihiro Kojima, Takaaki Ito: Synthesis of ⁶⁷Ga-labeled Kisspeptin10 and in vivo evaluation for medullary thyroid carcinoma imaging. 22nd International Symposium on Radiopharmaceutical Sciences (Dresden, German) , 2017.5.
- 6) 前泊里佳, 長谷川功紀, 伊藤隆明: リガンド誘導体染色法を用いた Kisspeptin Receptor (KISS1R) の検出検討. 第 58 回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (愛媛) , 2017.9.
- 7) 三澤雅樹, 大西健, 坂本裕貴, 松本孔貴, 長谷川功紀, 岡田朋子: 抗体リポソームによる選択性 BPA 取込み増強のためのアミノ酸トランスポーターLAT1 遺伝子導入技術の開発. 第 14 回日本中性子補足療法学会学術大会 (福島) , 2017.9.

- 8) 浅井将貴, 武本夕貴子, 服部恭尚, 真壁秀文: パラジウム触媒を用いた環化反応によるピペリジンアルカロイドとイソクマリン化合物の合成研究. 第 59 回天然有機化合物討論会 (札幌) , 2017.9.
- 9) 工藤信次, 長谷川功紀, 中峰ともみ, 伊藤隆明: リガンド誘導体染色によるソマトスタチン受容体の検出法. 第 56 回日本臨床細胞学会秋期大会 (福岡) , 2017.11.
- 10) 瀧井亮, 田村悠樹, 錦織花梨, 岡田圭祐, 扇田隆司, 原矢佑樹, 西辻和親, 内村健治, 加藤くみ子, 長谷川功紀, 赤路健一, 坂下直実, 斎藤博幸: アボ E 糖鎖結合ドメインに基づく両親媒性膜透過ペプチドの設計. 膜シンポジウム (富山) , 2017.11.
- 11) Kazuya Kobayashi, Takuya Otani, Saki Ijiri, Katsuyasu Ishizawa, Risa Izeki, Taishi Kitazima, Naoka Shindo, Kota Okawa, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji: Structure optimization of a peptide-based hydroxyethylamine-type BACE1 inhibitor. The 54th Japanese Peptide Symposium (Osaka) , 2017.11.
- 12) 小林数也, 城賣大輝, 谷口智奈美, 田中美咲, 木村蘭希, 川崎友紀, 服部恭尚, 赤路健一: N-アミジノ含窒素環状骨格を基盤とする BACE1 阻害剤の探索研究. 第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム(富山), 2017.11.

講演等

- 1) 長谷川功紀: ^{68}Ga 利用の実際. PET 化学ワークショップ 2017 (神奈川) , 2017.2.

その他

- 1) 長谷川功紀: 病理診断技術の創薬への応用. 創薬科学フロンティア研究センター講演会 (京都) , 2017.2.
- 2) 服部恭尚: 毒物劇物取扱者試験講習会講師. 京都商工会議所 (京都) , 2017.8.
- 3) 杉山雄輝, 戸田侑紀, 高田和幸, 芦原英司, 中村誠宏, 山下正行, 長谷川功紀, 長谷井友尋: クマリン系化合物を基礎としたがん転移抑制薬の創製, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 4) 若林亮介, 芦原英司, 服部 恭尚, 長谷井友尋, 小林数也, 赤路健一: Wnt/ β -catenin 経路阻害剤の探索, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.

- 5) 相馬琢人, 亀田里紗子, 小林数也, 赤路健一, 服部 恭尚: *ent-iso-6-spectraline* の合成研究, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 6) 大西康司, 三谷勇人, 小林数也, 赤路健一, 服部 恭尚: デカヒドロイソキノリン型 SARS 3CL protease 阻害剤の設計と合成, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 7) 横本美久, 瀧本千穂, 長谷井友尋, 渡辺徹志, 若林亮介, 芦原英司, 服部恭尚, 嶋本康広, 小林数也, 赤路健一: がん幹細胞を特異的に駆逐する Wnt/ β -catenin 経路阻害剤の探索, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 8) 磯村拳一, 若林亮介, 戸田侑紀, 高田和幸, 芦原英司, 服部恭尚, 嶋本康広, 小林数也, 赤路健一: 新規 Wnt/ β -カテニン経路阻害剤は TGF- β 刺激による A549 ヒト非小細胞肺がん細胞株の遊走を抑制する, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 9) 三好美早紀, 若林亮介, 戸田侑紀, 高田和幸, 芦原英司, 服部恭尚, 石地真邑, 萩原瑠美, 細谷早希, 嶋本康広, 小林数也, 赤路健一: ヒト臍がん細胞に対する新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害剤の効果, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 10) 小林数也、城竇大輝、谷口智奈美、田中美咲、木村蘭希、赤路健一、服部恭尚: N-アミジノ含窒素環状骨格に基づく低分子 BACE1 阻害剤の開発研究, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 11) 大谷拓也、小林数也、赤路健一、服部恭尚: P1-P3 間に架橋構造を有するペプチド性 BACE1 阻害剤の開発研究, 2017 年度 (平成 29 年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」Annual Meeting (京都) , 2017.9.
- 12) 長谷川功紀: エストロゲン受容体リガンドを用いたエストロゲン受容体検出法の開発, 第 7 回 4 大学連携研究フォーラム (京都) , 2017.11.

補 遺

第 36 集

(2 0 1 7)

<補遺>

薬物治療学分野

論 文

- 1) Kenjiro Matsumoto, Hiroyuki Umemoto, Tomohisa Mori, Ryuya Akatsu, Shinichiro Saito, Kimihito Tashima, Masahiro Shibasaki, Shinichi Kato, Tsutomu Suzuki, Shunji Horie. Differences in the morphine-induced inhibition of small and large intestinal transit: Involvement of central and peripheral μ -opioid receptors in mice. *Eur. J. Pharmacol.*, **15**, 771:220-8 (2016) .

京都薬科大学教育研究業績録第36集（2017）

印刷発行 2018年7月
編 集 事務局研究・产学連携推進室
発 行 学校法人京都薬科大学
〒607-8414
京都市山科区御陵中内町5
TEL 075-595-4716
FAX 075-595-4750

